

(改正後全文)

食品衛生法に基づく添加物の表示等について(平成22年10月20日消食表第377号)

最終改正 平成23年3月15日消食表第83号
消費者庁次長から各都道府県知事、政令市長、特別区長宛

食品衛生法施行規則の一部を改正する省令(平成22年厚生労働省令第113号)及び食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件(平成22年厚生労働省告示第372号)が本日公布され、これにより食品衛生法施行規則(昭和23年厚生省令第23号。以下「規則」という。)及び食品、添加物等の規格基準(昭和34年厚生省告示第370号)の一部が改正されたところである。

これに伴い、「食品衛生法に基づく添加物の表示等について」(平成8年5月23日付け衛化第56号厚生省生活衛生局長通知)(以下「旧通知」という。)を別添のとおり変更し、新たに通知を発出するものである。

なお、本通知の制定に伴い、旧通知は廃止する。

記

1 制度の概要

(1) 食品に係る表示について

ア 規則別表第3に掲げる食品に含まれる添加物については、栄養強化の目的で使用した添加物、加工助剤及びキャリーオーバーを除き、すべて当該添加物を含む旨(以下「物質名」という。)を表示するものであること。

なお、物質名の表示は、規則別表第1に掲げる添加物(規則別表第4に掲げるものを除く。)については、規則別表第1に掲げる名称により行うこと。

イ 規則別表第5の中欄に掲げる目的で使用される添加物を含む食品については、物質名及び当該添加物を同表下欄に掲げる物として含む旨(以下「用途名」という。)を表示するものであること。

ウ 一般に広く使用されている名称(以下「簡略名」という。)を有する添加物については、簡略名をもって、物質名の表示に代えることができるものであること。

エ 規則別表第8の上欄に掲げる目的で使用される添加物は、下欄に掲げる名称(以下「一括名」という。)をもって、物質名の表示に代えることができるものであること。

オ 規則別表第5の中欄に掲げる着色の目的で使用される添加物は、物質名の表示中に「色」の文字を含む場合には、用途名表示は省略できるものであること。

カ 規則別表第5の中欄に掲げる増粘の目的で使用される添加物は、物質名の表示中に「増粘」の文字を含む場合には、「増粘剤または糊料」の用途名表示は省略できるものであること。

キ 別表第3の11のハに掲げるかんきつ類及びバナナにあつては、オルトフェニルフェノール、オルトフェニルフェノールナトリウム、ジフェニル、チアベンダゾールまたはイマザリルを含む場合には、物質名及び用途名を表示し、その他の表示事項については表示を省略できるものであること。

(2) 添加物及びその製剤に係る表示について

ア 添加物及びその製剤については、規則別表第1に掲げる添加物（規則別表第4に掲げるものを除く。）にあつては、規則別表第1に掲げる名称により表示するものであること。その他の添加物にあつては、科学的に適切な名称をもって表示すること。

イ 添加物及びその製剤については、規格基準の有無に係わらず、名称、消費期限又は賞味期限、製造所所在地、製造者氏名及び「食品添加物」の文字等の表示を要するものであること。

ウ 食品、添加物等の規格基準（昭和34年厚生省告示第370号）において表示量の規定がある添加物については、その重量パーセントを表示するものであること。

エ 添加物製剤については、着香の目的で使用されるものを除き、その成分及び重量パーセントを表示するものであること。

オ ビタミンAの誘導体については、ビタミンAとしての重量パーセントを表示するものであること。

2 運用上の留意事項

(1) 食品に係る表示について

① 物質名表示関係

ア 物質名の表示において、「含有」、「使用」、「含む」、「添加」等の文字を併記しなくとも差し支えないこと。

イ 規則別表第1に掲げる添加物の物質名の表示において、規則別表第1に掲げる名称のほかに簡略名を用いることができる添加物及びその簡略名は、別紙1に掲げる範囲であること。

また、同種の機能の添加物を併用する場合は、別紙2に掲げる例示に従い簡略化した表示を用いても差し支えないものであること。

ウ 既存添加物名簿（平成8年厚生省告示第120号、以下「名簿」という。）に掲げる添加物（以下「既存添加物」という。）の物質名の表示は、名簿に掲げる名称又は別添1に掲げる品名（細分類の品名を含む。以下同じ。）により行うものであること。

エ 食品衛生法第4条第3項に規定する天然香料（以下「天然香料」という。）の物質名の表示は、別添2に掲げる基原物質名又は別名により行うものであること。

なお、天然香料の物質名表示にあつては、基原物質名又は別名に「香料」の文字を附すこと。

オ 一般に食品として飲食に供されている物であつて添加物として使用されるもの（以

下「一般飲食物添加物」という。)の物質名の表示は、別添3に掲げる品名(細分類の品名を含む。以下同じ。)により行うものであること。

カ 別添2及び別添3に記載のない天然香料及び一般飲食物添加物の物質名の表示は、当該添加物であることが特定できる科学的に適切な名称をもって表示するものであること。

キ 規則別表第1に掲げる添加物以外の添加物について、物質名の表示に代えて使用できる簡略名は、別添1及び別添3の簡略名又は類別名(細分類の簡略名又は類別名を含む。以下同じ。)の項に示したこと。

なお、別添1及び別添3の用途欄に増粘安定剤と記載された多糖類を2種以上併用する場合には、簡略名として「増粘多糖類」を使用して差し支えないものであること。

② 用途名表示関係

ア 規則別表第1に掲げる添加物のうち、規則別表第5の中欄に掲げるものとしての使用が主たる用途と考えられる添加物を、別紙3に例示したこと。

また、規則別表第1に掲げる添加物以外の添加物にあって、規則別表第5の中欄に掲げる用途を目的として使用されるものの例は、別添1及び別添3の用途の項に掲げるものであること。

なお、上記以外のものであっても、規則別表第5の中欄に掲げるものとして使用される場合にあっては、当該添加物に係る用途名の併記が必要となること。

イ 当該添加物の使用において、規則別表第5の中欄に掲げるもののうち、重複した使用目的を有する場合には、主たる目的に係る用途名を表示すれば足りること。

ウ 規則別表第5の下欄に複数の用途名が掲げられているものについては、そのうちの何れかを表示すること。

③ その他

ア 各一括名の定義及び物質名の表示において一括名を用いることができる添加物の範囲は、別紙4のとおりであること。

イ 加工助剤またはキャリアーオーバーに該当するか否かについては、規則に示した定義に照らし、当該添加物の使用基準、使用実態等に即して個別に判断されるものであること。

ウ 原材料に由来する添加物については、主要原材料か否かを問わず、規則にいうキャリアーオーバーに該当する場合に表示が免除されるものであること。

エ 規則別表1に掲げる添加物のうち栄養強化の目的で使用されたものと認められる添加物の範囲は、別紙5のとおりであること。

また、規則別表第1に掲げる以外の添加物であって、栄養強化の目的で使用されたものと認められる添加物の範囲は、別添1及び別添3の用途の項に「強化剤」として例示したこと。

なお、これらの添加物を栄養強化以外の目的で使用する場合には、物質名の表示が

必要であること。

オ 調整粉乳にあつては、栄養強化の目的で使用されたものであつても、従来どおり主要な混合物として表示を要するものであること。

カ ばら売り等により販売される食品のうち、ジフェニルを使用したグレープフルーツ、レモン及びオレンジ類については、昭和 46 年 3 月 17 日環食化第 223 号により、サッカリン又はサッカリンナトリウムを含む食品については昭和 50 年 7 月 25 日環食化第 32 号により、オルトフェニルフェノール、オルトフェニルフェノールナトリウム又はこれらのいずれかを使用したかんきつ類については昭和 52 年 5 月 2 日環食化第 28 号により、チアベンダゾールを使用したかんきつ類及びバナナについては昭和 53 年 8 月 30 日環食化第 36 号により、イマザリルを使用したかんきつ類及びバナナについては平成 4 年 11 月 6 日衛化第 80 号により、それぞれこれらの添加物としての使用に関する表示を指導してきているところであるが、今後とも従来どおり十分指導されたいこと。

(2) 添加物及びその製剤に係る表示について

ア 添加物の名称及びその製剤の成分の表示にあつては、一括名又は簡略名を名称として用いることはできないこと。

イ 規則別表第 1 に掲げる添加物の表示は規則別表第 1 に掲げる名称により行うこと。既存添加物の表示は、名簿に掲げる名称または別添 1 に掲げる品名により行うものであること。また、天然香料及び一般飲食物添加物の表示は、別添 2 及び別添 3 に掲げる品名により行うものであること。ただし、別添 2 及び別添 3 に記載のない添加物にあつては、当該添加物であることが特定できる科学的に適切な名称をもって表示するものであること。

ウ 添加物製剤の成分の重量パーセント表示に関し、規則別表第 1 に掲げる以外の添加物の製剤において、その重量パーセントの表示は、当該製剤の製造における当該添加物の配合量を基準として行うこと。

(3) その他

ア 添加物の表示においては、いずれの場合においても「天然」又はこれに類する表現の使用は認められないものであること。

イ 物質名又は簡略名の表示は、規則別表第 1、名簿、別紙 1、別添 1、別添 2 及び別添 3 に掲げる名称のとおりに表示することが原則であるが、食品関係営業者及び一般消費者に誤解を与えない範囲内で平仮名、片仮名、漢字を用いても差し支えないものであること。

別紙 1

簡略名一覧表

物 質 名	簡 略 名
亜硝酸ナトリウム	亜硝酸 Na
L-アスコルビン酸	アスコルビン酸, V.C
L-アスコルビン酸カルシウム	アスコルビン酸 Ca, ビタミンC, V.C
L-アスコルビン酸ステアリン酸エステル	アスコルビン酸エステル, ビタミンC, V.C
L-アスコルビン酸ナトリウム	アスコルビン酸 Na, ビタミンC, V.C
L-アスコルビン酸2-グルコシド	アスコルビン酸, ビタミンC, V.C
L-アスコルビン酸パルミチン酸エステル	アスコルビン酸エステル, ビタミンC, V.C
L-アスパラギン酸ナトリウム	アスパラギン酸ナトリウム, アスパラギン酸 Na
アセチル化アジピン酸架橋デンプン	加工デンプン
アセチル化酸化デンプン	加工デンプン
アセチル化リン酸架橋デンプン	加工デンプン
DL-アラニン	アラニン
亜硫酸ナトリウム	亜硫酸塩, 亜硫酸 Na
L-アルギニンL-グルタミン酸塩	アルギニングルタミン酸塩
アルギン酸カリウム	アルギン酸 K
アルギン酸カルシウム	アルギン酸 Ca
アルギン酸ナトリウム	アルギン酸 Na
アルギン酸プロピレングリコールエステル	アルギン酸エステル
安息香酸ナトリウム	安息香酸 Na
L-イソロイシン	イソロイシン
5'-イノシン酸二ナトリウム	イノシン酸ナトリウム, イノシン酸 Na
5'-ウリジル酸二ナトリウム	ウリジル酸ナトリウム, ウリジル酸 Na
エチレンジアミン四酢酸カルシウム二ナトリウム	EDTA カルシウムナトリウム, EDTA-Ca・Na
エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム	EDTA ナトリウム, EDTA-Na
エリソルビン酸ナトリウム	エリソルビン酸 Na, イソアスコルビン酸 Na
エルゴカルシフェロール	ビタミンD, V.D
塩化カリウム	塩化K
塩化カルシウム	塩化Ca

塩化第二鉄	塩化鉄
塩化マグネシウム	塩化 Mg
オクテニルコハク酸デンプンナトリウム	加工デンプン, オクテニルコハク酸デンプン Na
オルトフェニルフェノール	OPP
オルトフェニルフェノールナトリウム	オルトフェニルフェノール Na, OPP—Na
オレイン酸ナトリウム	オレイン酸 Na
カゼインナトリウム	カゼイン Na
カルボキシメチルセルロースカルシウム	CMC—Ca, 繊維素グリコール酸 Ca
カルボキシメチルセルロースナトリウム	CMC—Na, 繊維素グリコール酸 Na, CMC
β—カロテン	カロチン, カロチン色素, カロチノイド, カロチノイド色素, カロテン, カロテン色素, カロテノイド, カロテノイド色素
5'—グアニル酸二ナトリウム	グアニル酸ナトリウム, グアニル酸 Na
クエン酸イソプロピル	クエン酸エステル
クエン酸一カリウム	クエン酸カリウム, クエン酸 K
クエン酸三カリウム	クエン酸カリウム, クエン酸 K
クエン酸カルシウム	クエン酸 Ca
クエン酸第一鉄ナトリウム	クエン酸鉄 Na
クエン酸三ナトリウム	クエン酸 Na
グリセリン脂肪酸エステル	グリセリンエステル
グリチルリチン酸二ナトリウム	グリチルリチン酸ナトリウム, グリチルリチン酸 Na
グルコン酸カリウム	グルコン酸 K
グルコン酸カルシウム	グルコン酸 Ca
グルコン酸ナトリウム	グルコン酸 Na
L—グルタミン酸	グルタミン酸
L—グルタミン酸アンモニウム	グルタミン酸アンモニウム
L—グルタミン酸カリウム	グルタミン酸カリウム, グルタミン酸 K
L—グルタミン酸カルシウム	グルタミン酸カルシウム, グルタミン酸 Ca
L—グルタミン酸ナトリウム	グルタミン酸ナトリウム, グルタミン酸 Na
L—グルタミン酸マグネシウム	グルタミン酸マグネシウム, グルタミン酸 Mg
ケイ酸カルシウム	ケイ酸 Ca
ケイ酸マグネシウム	ケイ酸 Mg
コハク酸一ナトリウム	コハク酸ナトリウム, コハク酸 Na

コハク酸二ナトリウム	コハク酸ナトリウム, コハク酸 Na
コレカルシフェロール	ビタミンD, V.D
コンドロイチン硫酸ナトリウム	コンドロイチン硫酸 Na
酢酸デンプン	加工デンプン
酢酸ナトリウム	酢酸 Na
サッカリンナトリウム	サッカリン Na
酸化デンプン	加工デンプン
酸化マグネシウム	酸化 Mg
三二酸化鉄	酸化鉄
次亜塩素酸ナトリウム	次亜塩素酸 Na
次亜硫酸ナトリウム	次亜硫酸 Na, 亜硫酸塩
L—システイン塩酸塩	システイン塩酸塩, システイン
5'—シチジル酸二ナトリウム	シチジル酸ナトリウム, シチジル酸 Na
ジフェニル	DP
ジブチルヒドロキシルエン	BHT
ジベンゾイルチアミン	チアミン, ビタミンB1, V.B1
ジベンゾイルチアミン塩酸塩	チアミン, ビタミンB1, V.B1
DL—酒石酸	酒石酸
L—酒石酸	酒石酸
DL—酒石酸水素カリウム	酒石酸カリウム, 酒石酸K, 重酒石酸カリウム, 重酒石酸K
L—酒石酸水素カリウム	酒石酸カリウム, 酒石酸K, 重酒石酸カリウム, 重酒石酸K
DL—酒石酸ナトリウム	酒石酸ナトリウム, 酒石酸 Na
L—酒石酸ナトリウム	酒石酸ナトリウム, 酒石酸 Na
硝酸カリウム	硝酸K
硝酸ナトリウム	硝酸 Na
食用赤色2号	赤色2号, 赤2
食用赤色2号アルミニウムレーキ	食用赤色2号, 赤色2号, 赤2, アマランス
食用赤色3号	赤色3号, 赤3
食用赤色3号アルミニウムレーキ	食用赤色3号, 赤色3号, 赤3, エリスロシン
食用赤色40号	赤色40号, 赤40
食用赤色40号アルミニウムレーキ	食用赤色40号, 赤色40号, 赤40, アルラレッドAC

食用赤色 102 号	赤色 102 号, 赤 102
食用赤色 104 号	赤色 104 号, 赤 104
食用赤色 105 号	赤色 105 号, 赤 105
食用赤色 106 号	赤色 106 号, 赤 106
食用黄色 4 号	黄色 4 号, 黄 4
食用黄色 4 号アルミニウムレーキ	食用黄色 4 号, 黄色 4 号, 黄 4, タートラ ジン
食用黄色 5 号	黄色 5 号, 黄 5
食用黄色 5 号アルミニウムレーキ	食用黄色 5 号, 黄色 5 号, 黄 5, サンセッ トイエローFCF
食用緑色 3 号	緑色 3 号, 緑 3
食用緑色 3 号アルミニウムレーキ	食用緑色 3 号, 緑色 3 号, 緑 3, ファスト グリーン FCF
食用青色 1 号	青色 1 号, 青 1
食用青色 1 号アルミニウムレーキ	食用青色 1 号, 青色 1 号, 青 1, プリリア ントブルー FCF
食用青色 2 号	青色 2 号, 青 2
食用青色 2 号アルミニウムレーキ	食用青色 2 号, 青色 2 号, 青 2, インジゴ カルミン
ショ糖脂肪酸エステル	ショ糖エステル
シリコーン樹脂	シリコーン
水酸化カリウム	水酸化 K
水酸化カルシウム	水酸化 Ca
水酸化マグネシウム	水酸化 Mg
ステアリン酸カルシウム	ステアリン酸 Ca
ステアリン酸マグネシウム	ステアリン酸 Mg
ステアロイル乳酸カルシウム	ステアロイル乳酸 Ca, ステアリル乳酸 Ca
ステアロイル乳酸ナトリウム	ステアロイル乳酸 Na, ステアリル乳酸 Na
ソルビタン脂肪酸エステル	ソルビタンエステル
D-ソルビトール	ソルビトール, ソルビット
ソルビン酸カリウム	ソルビン酸 K
ソルビン酸カルシウム	ソルビン酸 Ca
炭酸カリウム (無水)	炭酸カリウム, 炭酸 K
炭酸カルシウム	炭酸 Ca
炭酸水素ナトリウム	炭酸水素 Na, 重炭酸 Na, 重曹
炭酸ナトリウム	炭酸 Na

炭酸マグネシウム	炭酸 Mg
チアベンダゾール	TBZ
チアミン塩酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
チアミン硝酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
チアミンセチル硫酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
チアミンチオシアン酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
チアミナフタレン-1,5-ジスルホン酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
チアミンラウリル硫酸塩	チアミン, ビタミンB1, VB1
L-テアニン	テアニン
鉄クロロフィリンナトリウム	鉄クロロフィリン Na, 鉄葉緑素
デヒドロ酢酸ナトリウム	デヒドロ酢酸 Na
デンプングリコール酸ナトリウム	加工デンプン、デンプングリコール酸 Na
銅クロロフィリンナトリウム	銅クロロフィリン Na, 銅葉緑素
銅クロロフィル	銅葉緑素
dl- α -トコフェロール	トコフェロール, ビタミンE, VE
トコフェロール酢酸エステル	酢酸トコフェロール, 酢酸ビタミンE, 酢酸 VE
d- α -トコフェロール酢酸エステル	酢酸トコフェロール, 酢酸ビタミンE, 酢酸 VE
DL-トリプトファン	トリプトファン
L-トリプトファン	トリプトファン
DL-トレオニン	トレオニン, スレオニン
L-トレオニン	トレオニン, スレオニン
ニコチン酸アミド	ニコチン酸, ナイアシン
二酸化硫黄	二酸化イオウ, 亜硫酸塩
二酸化ケイ素	酸化ケイ素 (微粒二酸化ケイ素を用いる場合は、「微粒二酸化ケイ素」と表示するほか、「微粒酸化ケイ素」、「微粒シリカゲル」という簡略名を用いることができる。)
二酸化炭素	炭酸
二酸化チタン	酸化チタン
乳酸カルシウム	乳酸 Ca
乳酸ナトリウム	乳酸 Na
ノルビキシシカリウム	ノルビキシシ K, 水溶性アナトー, アナトー, アナトー色素, カロチノイド, カロチノイド色素, カロテノイド, カロテノイド

ノルビキシナトリウム	色素 ノルビキシン Na, 水溶性アナトー, アナトー, アナトー色素, カロチノイド, カロチノイド色素, カロテノイド, カロテノイド色素
パラオキシ安息香酸イソブチル パラオキシ安息香酸イソプロピル	パラオキシ安息香酸, イソブチルパラベン パラオキシ安息香酸, イソプロピルパラベン
パラオキシ安息香酸エチル パラオキシ安息香酸ブチル パラオキシ安息香酸プロピル	パラオキシ安息香酸, エチルパラベン パラオキシ安息香酸, ブチルパラベン パラオキシ安息香酸, プロピルパラベン
L-バリン	バリン
パントテン酸カルシウム	パントテン酸 Ca
パントテン酸ナトリウム	パントテン酸 Na
L-ヒスチジン塩酸塩	ヒスチジン塩酸塩, ヒスチジン
ビスベンチアミン	チアミン, ビタミン B1, V.B1
ビタミン A	VA
ビタミン A 脂肪酸エステル	ビタミン A エステル, レチノールエステル, ビタミン A, VA
ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプン	加工デンプン
ヒドロキシプロピルセルロース	HPC
ヒドロキシプロピルデンプン	加工デンプン
ヒドロキシプロピルメチルセルロース	HPMC
氷酢酸	酢酸
ピリドキシン塩酸塩	ピリドキシン, V.B6
ピロ亜硫酸カリウム	亜硫酸塩, 亜硫酸カリウム, 亜硫酸 K, 重亜硫酸カリウム, 重亜硫酸 K
ピロ亜硫酸ナトリウム	亜硫酸塩, 亜硫酸ナトリウム, 亜硫酸 Na, 重亜硫酸ナトリウム, 重亜硫酸 Na, 亜硫酸ソーダ
ピロリン酸四カリウム	ピロリン酸 K
ピロリン酸二水素カルシウム	ピロリン酸カルシウム, ピロリン酸 Ca
ピロリン酸二水素二ナトリウム	ピロリン酸ナトリウム, ピロリン酸 Na
ピロリン酸第二鉄	ピロリン酸鉄
ピロリン酸四ナトリウム	ピロリン酸 Na
L-フェニルアラニン	フェニルアラニン

フェロシアン化カリウム	フェロシアン化K
フェロシアン化カルシウム	フェロシアン化 Ca
フェロシアン化ナトリウム	フェロシアン化 Na
ブチルヒドロキシアニソール	BHA
フマル酸一ナトリウム	フマル酸 Na
プロピオン酸カルシウム	プロピオン酸 Ca
プロピオン酸ナトリウム	プロピオン酸 Na
プロピレングリコール脂肪酸エステル	プロピレングリコールエステル
没食子酸プロピル	没食子酸
ポリアクリル酸ナトリウム	ポリアクリル酸 Na
ポリリン酸カリウム	ポリリン酸K
ポリリン酸ナトリウム	ポリリン酸 Na
D-マンニトール	マンニトール, マンニット
メタリン酸カリウム	メタリン酸K
メタリン酸ナトリウム	メタリン酸 Na
DL-メチオニン	メチオニン
L-メチオニン	メチオニン
メチルヘスペリジン	ヘスペリジン, ビタミンP, V.P
dl-メントール	メントール
l-メントール	メントール
モルホリン脂肪酸塩	モルホリン
L-リシンL-アスパラギン酸塩	リシン, リジン, リシンアスパラギン酸塩, リジンアスパラギン酸塩
L-リシン塩酸塩	リシン, リジン, リシン塩酸塩, リジン塩 酸塩
L-リシンL-グルタミン酸塩	リシン, リジン, リシングルタミン酸塩, リジングルタミン酸塩
5' -リボヌクレオチドカルシウム	リボヌクレオチドカルシウム, リボヌクレ オチド Ca, リボヌクレオチドカルシウ ム, リボヌクレオチド Ca
5' -リボヌクレオチド二ナトリウム	リボヌクレオチドナトリウム, リボヌクレ オチド Na, リボヌクレオチドナトリウ ム, リボヌクレオチド Na
リボフラビン	V.B2
リボフラビン酪酸エステル	リボフラビン, ビタミンB2, V.B2
リボフラビン5' -リン酸エステルナトリ	リボフラビン, ビタミンB2, V.B2

ウム	
硫酸アルミニウムアンモニウム	アンモニウムミョウバン
硫酸アルミニウムカリウム	カリミョウバン, ミョウバン
硫酸カルシウム	硫酸 Ca
硫酸第一鉄	硫酸鉄
硫酸ナトリウム	硫酸 Na
硫酸マグネシウム	硫酸 Mg
DL-リンゴ酸	リンゴ酸
DL-リンゴ酸ナトリウム	リンゴ酸ナトリウム, リンゴ酸 Na
リン酸架橋デンプン	加工デンプン
リン酸化デンプン	加工デンプン
リン酸三カリウム	リン酸カリウム, リン酸 K
リン酸三カルシウム	リン酸カルシウム, リン酸 Ca
リン酸三マグネシウム	リン酸マグネシウム, リン酸 Mg
リン酸水素二アンモニウム	リン酸アンモニウム
リン酸二水素アンモニウム	リン酸アンモニウム
リン酸水素二カリウム	リン酸カリウム, リン酸 K
リン酸二水素カリウム	リン酸カリウム, リン酸 K
リン酸一水素カルシウム	リン酸カルシウム, リン酸 Ca
リン酸二水素カルシウム	リン酸カルシウム, リン酸 Ca
リン酸水素二ナトリウム	リン酸ナトリウム, リン酸 Na
リン酸二水素ナトリウム	リン酸ナトリウム, リン酸 Na
リン酸三ナトリウム	リン酸ナトリウム, リン酸 Na
リン酸モノエステル化リン酸架橋デンプン	加工デンプン

別紙 2

同種の機能の添加物を併用した場合における簡略名の例

1 同種の添加物の酸及び塩を併用した場合

併用する物質名	簡 略 名
安息香酸及び安息香酸ナトリウム	安息香酸 (Na)
クエン酸及びクエン酸ナトリウム	クエン酸 (Na)
ソルビン酸、ソルビン酸カリウム及びソルビン酸カルシウム	ソルビン酸 (K, Ca)
乳酸、乳酸ナトリウム及び乳酸カルシウム	乳酸 (Na, Ca)
氷酢酸及び酢酸ナトリウム	酢酸 (Na)
リン酸及びリン酸三ナトリウム	リン酸 (Na)

2 同種の添加物の塩を併用した場合

併用する物質名	簡 略 名
ケイ酸カルシウム及びケイ酸マグネシウム	ケイ酸塩 (Ca, Mg)
DL-酒石酸水素カリウム及びDL-酒石酸ナトリウム	酒石酸塩 (K, Na)
ステアリン酸カルシウム及びステアリン酸マグネシウム	ステアリン酸塩 (Ca, Mg)
ステアロイル乳酸カルシウム及びステアロイル乳酸ナトリウム	ステアロイル乳酸塩 (Ca, Na)
炭酸ナトリウム及び炭酸マグネシウム	炭酸塩 (Na, Mg)
ピロリン酸二水素カルシウム及びピロリン酸四ナトリウム	リン酸塩 (Ca, Na)
ポリリン酸カリウム及びメタリン酸カリウム	リン酸塩 (K)
ピロリン酸四ナトリウム及びポリリン酸ナトリウム	リン酸塩 (Na)
ピロリン酸四ナトリウム及びメタリン酸カリウム	リン酸塩 (Na, K)
フェロシアン化カリウム及びフェロシアン化ナトリウム	フェロシアン化物 (K, Na)

別紙 3

規則別表第 1 に掲げる添加物のうち用途名併記を要するものの例示

1	甘味料，人工甘味料又は合成甘味料	アセスルファムカリウム アスパルテーム キシリトール グリチルリチン酸二ナトリウム サッカリン サッカリンナトリウム スクラロース
2	着色料又は合成着色料	β-カロテン 食用赤色 2 号及びそのアルミニウムレーキ 食用赤色 3 号及びそのアルミニウムレーキ 食用赤色 40 号及びそのアルミニウムレーキ 食用赤色 102 号 食用赤色 104 号 食用赤色 105 号 食用赤色 106 号 食用黄色 4 号及びそのアルミニウムレーキ 食用黄色 5 号及びそのアルミニウムレーキ 食用緑色 3 号及びそのアルミニウムレーキ 食用青色 1 号及びそのアルミニウムレーキ 食用青色 2 号及びそのアルミニウムレーキ 三二酸化鉄 鉄クロロフィリンナトリウム 銅クロロフィル 銅クロロフィリンナトリウム 二酸化チタン ノルビキシシンカリウム ノルビキシシンナトリウム リボフラビン リボフラビン酪酸エステル リボフラビン 5' - リン酸エステルナトリウム

3	保存料又は合成保存料	安息香酸 安息香酸ナトリウム ソルビン酸 ソルビン酸カリウム ソルビン酸カルシウム デヒドロ酢酸ナトリウム ナイシン パラオキシ安息香酸イソブチル パラオキシ安息香酸イソプロピル パラオキシ安息香酸エチル パラオキシ安息香酸ブチル パラオキシ安息香酸プロピル プロピオン酸 プロピオン酸カルシウム プロピオン酸ナトリウム 亜硫酸ナトリウム 次亜硫酸ナトリウム 二酸化硫黄 ピロ亜硫酸カリウム ピロ亜硫酸ナトリウム
4	増粘剤，安定剤，ゲル化剤又は糊料	アセチル化アジピン酸架橋デンプン アセチル化酸化デンプン アセチル化リン酸架橋デンプン アルギン酸ナトリウム アルギン酸プロピレングリコールエステル オクテニルコハク酸デンプンナトリウム カルボキシメチルセルロースカルシウム カルボキシメチルセルロースナトリウム 酢酸デンプン 酸化デンプン デンプングリコール酸ナトリウム ヒドロキシプロピル化リン酸架橋デンプン ヒドロキシプロピルデンプン ポリアクリル酸ナトリウム メチルセルロース リン酸架橋デンプン

		リン酸化デンプン リン酸モノエステル化リン酸架橋デンプン
5	酸化防止剤	エチレンジアミン四酢酸カルシウム二ナトリウム エチレンジアミン四酢酸二ナトリウム エリソルビン酸 エリソルビン酸ナトリウム クエン酸イソプロピル ジブチルヒドロキシトルエン ブチルヒドロキシアニソール 没食子酸プロピル アスコルビン酸 アスコルビン酸ステアリン酸エステル アスコルビン酸ナトリウム アスコルビン酸パルミチン酸エステル dl- α -トコフェロール 亜硝酸ナトリウム 次亜硫酸ナトリウム 二酸化硫黄 ピロ亜硫酸カリウム ピロ亜硫酸ナトリウム
6	発色剤	亜硝酸ナトリウム 硝酸カリウム 硝酸ナトリウム
7	漂白剤	亜硫酸ナトリウム 次亜硫酸ナトリウム 二酸化硫黄 ピロ亜硫酸カリウム ピロ亜硫酸ナトリウム
8	防かび剤又は防ばい剤	イマザリル オルトフェニルフェノール オルトフェニルフェノールナトリウム チアベンダゾール ジフェニル

別紙 4

各一括名の定義及びその添加物の範囲

1 イーストフード

- (1) 定義 パン、菓子等の製造工程で、イーストの栄養源等の目的で使用される添加物及びその製剤。
- (2) 一括名 イーストフード
- (3) 添加物の範囲 以下の添加物をイーストフードの目的で使用する場合
- | | |
|--------------|--------------|
| 塩化アンモニウム | 塩化マグネシウム |
| グルコン酸カリウム | グルコン酸ナトリウム |
| 焼成カルシウム | 炭酸アンモニウム |
| 炭酸カリウム（無水） | 炭酸カルシウム |
| 硫酸アンモニウム | 硫酸カルシウム |
| 硫酸マグネシウム | リン酸三カルシウム |
| リン酸水素二アンモニウム | リン酸二水素アンモニウム |
| リン酸一水素カルシウム | リン酸二水素カルシウム |

2 ガムベース

- (1) 定義 チューインガム用の基材として使用される添加物製剤。
- (2) 一括名 ガムベース
- (3) 添加物の範囲 以下の添加物をガムベースとしての目的で使用する場合。
- | | |
|-------------------|------------------------------|
| エステルガム | グリセリン脂肪酸エステル |
| 酢酸ビニル樹脂 | ショ糖脂肪酸エステル |
| ソルビタン脂肪酸エステル | 炭酸カルシウム |
| ポリイソブチレン | ポリブテン |
| プロピレングリコール脂肪酸エステル | リン酸一水素カルシウム |
| リン酸三カルシウム | 別添 1 の用途欄に「ガムベース」と記載されている添加物 |

3 かんすい

- (1) 定義 中華麺類の製造に用いられるアルカリ剤で、炭酸カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素ナトリウム及びリン酸類のカリウム又はナトリウム塩のうち1種以上を含む。
- (2) 一括名 かんすい
- (3) 添加物の範囲 以下の添加物をかんすいとしての目的で使用する場合。

炭酸カリウム（無水）
炭酸水素ナトリウム
ピロリン酸二水素二ナトリウム
ポリリン酸カリウム
メタリン酸カリウム
リン酸三カリウム
リン酸二水素カリウム
リン酸二水素ナトリウム

炭酸ナトリウム
ピロリン酸四カリウム
ピロリン酸四ナトリウム
ポリリン酸ナトリウム
メタリン酸ナトリウム
リン酸水素二カリウム
リン酸水素二ナトリウム
リン酸三ナトリウム

4 苦味料

- (1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、苦味の付与又は増強による味覚の向上又は改善のために使用される添加物及びその製剤。
- (2) 一括名 苦味料
- (3) 添加物の範囲 別添1及び別添3の用途欄に「苦味料等」と記載されている添加物（香辛料抽出物を除く）

5 酵素

- (1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、その有する触媒作用を目的として使用された、生活細胞によって生産された酵素類であって、最終食品においても失活せず、効果を有する添加物及びその製剤。
- (2) 一括名 酵素
- (3) 添加物の範囲 別添1の用途欄に「酵素」と記載された添加物

6 光沢剤

- (1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、食品の保護及び表面に光沢を与える目的で使用される添加物及びその製剤。
- (2) 一括名 光沢剤
- (3) 添加物の範囲 別添1の用途欄に「光沢剤」と記載された添加物を光沢剤としての目的で使用する場合。

7 香料

- (1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、香気を付与又は増強するため添加される添加物及びその製剤。
- (2) 一括名 香料又は合成香料
- (3) 添加物の範囲 以下の添加物を香料としての目的で使用する場合。
アセトアルデヒド アセト酢酸エチル

アセトフェノン	アニスアルデヒド
アミルアルコール	α -アミルシンナムアルデヒド
アントラニル酸メチル	イオノン
イソアミルアルコール	イソオイゲノール
イソブチルアルデヒド	イソ吉草酸イソアミル
イソ吉草酸エチル	イソチオシアネート類
イソチオシアン酸アリル	イソバレルアルデヒド
イソブタノール	イソプロパノール
イソペンチルアミン	インドール及びその誘導体
γ-ウンデカラクトン	エステル類
2-エチル-3, 5-ジメチルピラジン	エチルバニリン
及び2-エチル-3, 6-ジメチルピラジン	
ジンの混合物	
2-エチルピラジン	2-エチル-3-メチルピラジン
2-エチル-5-メチルピラジン	5-エチル-2-メチルピリジン
エーテル類	オイゲノール
オクタナール	オクタン酸エチル
ギ酸イソアミル	ギ酸ゲラニル
ギ酸シトロネリル	ケイ皮酸
ケイ皮酸エチル	ケイ皮酸メチル
ケトン類	グラニオール
酢酸イソアミル	酢酸エチル
酢酸ゲラニル	酢酸シクロヘキシル
酢酸シトロネリル	酢酸シンナミル
酢酸テルピニル	酢酸フェネチル
酢酸ブチル	酢酸ベンジル
酢酸1-メンチル	酢酸リナリル
サリチル酸メチル	シクロヘキシルプロピオン酸アリル
シトラール	シトロネラール
シトロネロール	1, 8-シネオール
脂肪酸類	脂肪族高級アルコール類
脂肪族高級アルデヒド類	脂肪族高級炭化水素類
2, 3-ジメチルピラジン	2, 5-ジメチルピラジン
2, 6-ジメチルピラジン	2, 6-ジメチルピリジン
シンナミルアルコール	シンナムアルデヒド
チオエーテル類	チオール類

デカナール

デカン酸エチル

2, 3, 5, 6-テトラメチルピラジン

テルペン系炭化水素類

γ-ノナラクトン

パラメチルアセトフェノン

ヒドロキシシトロネラール

ピペリジン

ピロリジン

フェニル酢酸イソブチル

フェネチルアミン

フェノール類

ブチルアミン

フルフラール及びその誘導体

プロピオンアルデヒド

プロピオン酸イソアミル

プロピオン酸ベンジル

ヘキサン酸アリル

ヘプタン酸エチル

ベンジルアルコール

2-ペンタノール

芳香族アルデヒド類

マルトール

5-メチルキノキサリン

メチルβ-ナフチルケトン

2-メチルブタノール

2-メチルブチルアルデヒド

l-メントール

酪酸イソアミル

酪酸シクロヘキシル

ラクトン類

別添2に掲げる添加物

デカノール

5, 6, 7, 8-テトラヒドロキノキサリン

テルピネオール

2, 3, 5-トリメチルピラジン

バニリン

バレルアルデヒド

ヒドロキシシトロネラールジメチルアセタール

ピペロナール

フェニル酢酸イソアミル

フェニル酢酸エチル

フェノールエーテル類

ブタノール

ブチルアルデヒド

プロパノール

プロピオン酸

プロピオン酸エチル

ヘキサン酸

ヘキサン酸エチル

l-ペリルアルデヒド

ベンズアルデヒド

芳香族アルコール類

d-ボルネオール

N-メチルアントラニル酸メチル

6-メチルキノリン

2-メチルピラジン

3-メチル-2-ブタノール

dl-メントール

酪酸

酪酸エチル

酪酸ブチル

リナロオール

(1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、酸味の付与又は増強による味覚の向上又は改善のために使用される添加物及びその製剤。

(2) 一括名 酸味料

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を酸味料としての目的で使用する場合。

アジピン酸	クエン酸
クエン酸三ナトリウム	グルコノデルタラクトン
グルコン酸	グルコン酸カリウム
グルコン酸ナトリウム	コハク酸
コハク酸一ナトリウム	コハク酸二ナトリウム
酢酸ナトリウム	DL-酒石酸
L-酒石酸	DL-酒石酸ナトリウム
L-酒石酸ナトリウム	二酸化炭素
乳酸	乳酸ナトリウム
氷酢酸	フマル酸
フマル酸一ナトリウム	DL-リンゴ酸
DL-リンゴ酸ナトリウム	リン酸

別添1の用途欄に「酸味料」と記載された添加物

9 チューインガム軟化剤

(1) 定義 チューインガムを柔軟に保つために使用する添加物及びその製剤。

(2) 一括名 軟化剤

(3) 添加物の範囲 以下の添加物をチューインガム軟化剤としての目的で使用する場合。

グリセリン	プロピレングリコール
ソルビトール	

10 調味料

(1) 定義 食品の製造又は加工の工程で、味の付与又は味質の調整等味覚の向上又は改善のために使用される添加物及びその製剤。

ただし、もっぱら甘味の目的で使用される甘味料、酸味の目的で使用される酸味料又は苦味の目的で使用される苦味料を除く。

(2) 一括名 調味料（アミノ酸等）等

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を調味料としての目的で使用する場合。

① アミノ酸

L-アスパラギン酸ナトリウム	DL-アラニン
L-アルギニンL-グルタミン酸塩	L-イソロイシン

グリシン
L-グルタミン酸アンモニウム
L-テアニン
L-トリプトファン
L-トレオニン
L-ヒスチジン塩酸塩
DL-メチオニン
L-リシンL-アスパラギン酸塩
L-リシンL-グルタミン酸塩

L-グルタミン酸
L-グルタミン酸ナトリウム
DL-トリプトファン
DL-トレオニン
L-バリン
L-フェニルアラニン
L-メチオニン
L-リシン塩酸塩
別添1の用途欄に「調味料」と記載された添加物（アミノ酸に限る）

② 核酸

5'-イノシン酸二ナトリウム
5'-グアニル酸二ナトリウム
5'-リボヌクレオチドカルシウム
5'-ウリジル酸二ナトリウム
5'-シチジル酸二ナトリウム
5'-リボヌクレオチド二ナトリウム

③ 有機酸

クエン酸カルシウム
グルコン酸カリウム
コハク酸
コハク酸二ナトリウム
DL-酒石酸水素カリウム
DL-酒石酸ナトリウム
乳酸カルシウム
フマル酸一ナトリウム
クエン酸三ナトリウム
グルコン酸ナトリウム
コハク酸一ナトリウム
酢酸ナトリウム
L-酒石酸水素カリウム
L-酒石酸ナトリウム
乳酸ナトリウム
DL-リンゴ酸ナトリウム

④ 無機塩

塩化カリウム
リン酸水素二カリウム
リン酸水素二ナトリウム
リン酸三ナトリウム
粗製海水塩化カリウム
リン酸三カリウム
リン酸二水素カリウム
リン酸二水素ナトリウム
塩水湖水低塩化ナトリウム液
ホエイソルト

11 豆腐用凝固剤

- (1) 定義 大豆から調製した豆乳を豆腐様に凝固させる際に用いられる添加物及びその製剤。

(2) 一括名 豆腐用凝固剤又は凝固剤

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を豆腐用凝固剤としての目的で使用する場合。

塩化カルシウム

塩化マグネシウム

グルコノデルタラクトン

硫酸カルシウム

硫酸マグネシウム

粗製海水塩化マグネシウム

12 乳化剤

(1) 定義 食品に乳化，分散，浸透，洗浄，起泡，消泡，離型等の目的で使用する添加物及びその製剤。

(2) 一括名 乳化剤

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を乳化剤としての目的で使用する場合

① 乳化剤を主要用途とするもの。

オクテニルコハク酸デンプンナトリウム グリセリン脂肪酸エステル

ショ糖脂肪酸エステル

ステアロイル乳酸カルシウム

ステアロイル乳酸ナトリウム

ソルビタン脂肪酸エステル

プロピレングリコール脂肪酸エステル

ポリソルベート20

ポリソルベート60

ポリソルベート65

ポリソルベート80

別添1の用途欄に「乳化剤」と記載された添加物

② プロセスチーズ，チーズフード及びプロセスチーズ加工品に①に掲げるものに加えて乳化剤として使用されるもの。

クエン酸カルシウム

クエン酸三ナトリウム

グルコン酸カリウム

グルコン酸ナトリウム

ピロリン酸四カリウム

ピロリン酸二水素カルシウム

ピロリン酸二水素二ナトリウム

ピロリン酸四ナトリウム

ポリリン酸カリウム

ポリリン酸ナトリウム

メタリン酸カリウム

メタリン酸ナトリウム

リン酸三カリウム

リン酸三カルシウム

リン酸水素二アンモニウム

リン酸二水素アンモニウム

リン酸水素二カリウム

リン酸二水素カリウム

リン酸一水素カルシウム

リン酸二水素カルシウム

リン酸水素二ナトリウム

リン酸二水素ナトリウム

リン酸三ナトリウム

13 pH調整剤

(1) 定義 食品を適切な pH 領域に保つ目的で使用する添加物及びその製剤。ただし、

中華麺類にかんすいの目的で使用される場合を除く。

(2) 一括名 pH 調整剤

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を pH 調製剤としての目的で使用する場合。

アジピン酸	クエン酸
クエン酸三ナトリウム	グルコノデルタラクトン
グルコン酸	グルコン酸カリウム
グルコン酸ナトリウム	コハク酸
コハク酸一ナトリウム	コハク酸二ナトリウム
酢酸ナトリウム	DL-酒石酸
L-酒石酸	DL-酒石酸水素カリウム
L-酒石酸水素カリウム	DL-酒石酸ナトリウム
L-酒石酸ナトリウム	炭酸カリウム（無水）
炭酸水素ナトリウム	炭酸ナトリウム
二酸化炭素	乳酸
乳酸ナトリウム	氷酢酸
ピロリン酸二水素二ナトリウム	フマル酸
フマル酸一ナトリウム	DL-リンゴ酸
DL-リンゴ酸ナトリウム	リン酸
リン酸水素二カリウム	リン酸二水素カリウム
リン酸水素二ナトリウム	リン酸二水素ナトリウム

別添 1 の用途欄に「酸味料」と記載された添加物

14 膨脹剤

(1) 定義 パン、菓子等の製造工程で添加し、ガスを発生して生地を膨脹させ多孔性にするとともに食感を向上させる添加物及びその製剤。

(2) 一括名 膨脹剤, 膨張剤, ベーキングパウダー又はふくらし粉

(3) 添加物の範囲 以下の添加物を膨脹剤としての目的で使用する場合。

アジピン酸	L-アスコルビン酸
塩化アンモニウム	クエン酸
クエン酸カルシウム	グルコノデルタラクトン
DL-酒石酸	L-酒石酸
DL-酒石酸水素カリウム	L-酒石酸水素カリウム
炭酸アンモニウム	炭酸カリウム（無水）
炭酸カルシウム	炭酸水素アンモニウム
炭酸水素ナトリウム	炭酸ナトリウム
炭酸マグネシウム	乳酸

乳酸カルシウム

ピロリン酸二水素カルシウム

ピロリン酸四ナトリウム

フマル酸一ナトリウム

ポリリン酸ナトリウム

メタリン酸ナトリウム

硫酸アルミニウムアンモニウム

DLーリンゴ酸

リン酸三カルシウム

リン酸二水素カリウム

リン酸二水素カルシウム

リン酸二水素ナトリウム

ピロリン酸四カリウム

ピロリン酸二水素二ナトリウム

フマル酸

ポリリン酸カリウム

メタリン酸カリウム

硫酸カルシウム

硫酸アルミニウムカリウム

DLーリンゴ酸ナトリウム

リン酸水素二カリウム

リン酸一水素カルシウム

リン酸水素二ナトリウム

別紙 5

栄養強化の目的が考えられる添加物の範囲

(1) ビタミン類 (33 品目)

L-アスコルビン酸	L-アスコルビン酸カルシウム
L-アスコルビン酸ステアリン酸エステル	L-アスコルビン酸ナトリウム
L-アスコルビン酸 2-グルコシド	L-アスコルビン酸パルミチン酸エステル
エルゴカルシフェロール	β -カロテン
コレカルシフェロール	ジベンゾイルチアミン
ジベンゾイルチアミン塩酸塩	チアミン塩酸塩
チアミン硝酸塩	チアミンセチル硫酸塩
チアミンチオシアン酸塩	チアミンナフタレン-1,5-ジスルホン酸塩
チアミンラウリル硫酸塩	トコフェロール酢酸エステル
d- α -トコフェロール酢酸エステル	ニコチン酸
ニコチン酸アミド	パントテン酸カルシウム
パントテン酸ナトリウム	ビオチン
ビスベンチアミン	ビタミンA
ビタミンA脂肪酸エステル	ピリドキシン塩酸塩
メチルヘスペリジン	葉酸
リボフラビン	リボフラビン酪酸エステル
リボフラビン 5'-リン酸エステルナトリウム	

(2) ミネラル類 (30 品目)

亜鉛塩類 (グルコン酸亜鉛及び硫酸亜鉛に限る)	L-アスコルビン酸カルシウム
塩化カルシウム	塩化第二鉄
塩化マグネシウム	クエン酸カルシウム
クエン酸第一鉄ナトリウム	クエン酸鉄
クエン酸鉄アンモニウム	グリセロリン酸カルシウム
グルコン酸カルシウム	グリコン酸第一鉄
酸化マグネシウム	水酸化カルシウム
水酸化マグネシウム	ステアリン酸カルシウム

炭酸カルシウム

銅塩類（グルコン酸銅及び硫酸銅に限る）

乳酸鉄

ピロリン酸第二鉄

硫酸第一鉄

リン酸三カルシウム

リン酸一水素カルシウム

炭酸マグネシウム

乳酸カルシウム

ピロリン酸第二水素カルシウム

硫酸カルシウム

硫酸マグネシウム

リン酸三マグネシウム

リン酸二水素カルシウム

(3) アミノ酸類（24品目）

L-アスパラギン酸ナトリウム

L-アルギニンL-グルタミン酸塩

グリシン

L-グルタミン酸カリウム

L-グルタミン酸ナトリウム

L-システイン塩酸塩

DL-トリプトファン

DL-トレオニン

L-バリン

L-フェニルアラニン

L-メチオニン

L-リシン塩酸塩

DL-アラニン

L-イソロイシン

L-グルタミン酸

L-グルタミン酸カルシウム

L-グルタミン酸マグネシウム

L-テアニン

L-トリプトファン

L-トレオニン

L-ヒスチジン塩酸塩

DL-メチオニン

L-リシンL-アスパラギン酸塩

L-リシンL-グルタミン酸塩

別添 1

既存添加物名簿収載品目リスト

番号	品 名	名 別 名	簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
1	アウレオバシジウム培養液 (アウレオバシジウム培養液から得られた、 β -1,3-1,6-グルカンを主成分とするものをいう。)			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は β -1,3-1,6-グルカンである。	増粘安定剤	<i>Aureobasidium cultured solution</i>
2	削除 (アカネ色素 平成16年7月9日)					
3	アガラーゼ			担子菌 (<i>Coliolum</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus Pseudomonas</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素	Agarase
4	アクチニジン			マタタビ科キウイ (<i>Actinidia chinensis</i> PLANCH) の果肉より、搾汁して得られたもの、又はこれを、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは膜で濃縮して得られたものである。	酵素	Actinidine
5	アグロバクテリウムスクシノグリカン (アグロバクテリウムの培養液から得られた、クシノグリカンを主成分とするものをいう。)		スクシノグリカン	細菌 (<i>Agrobacterium tumefaciens</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。主成分はスクシノグリカンである。	増粘安定剤	<i>Agrobacterium succinoglycan</i>
6	アシラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus ochraceus</i> , <i>Aspergillus melleus</i>) の培養液より、水で抽出して得られたもの、冷時～室温時除菌したもの、又はこれより、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Acylase
7	アスコルビン酸オキシダーゼ	アスコルベートオキシダーゼ ビタミンCオキシダーゼ	オキシダーゼ V.Cオキシダーゼ	ウリ、カボチャ、キャベツ、キュウリ若しくはホウレンソウより、搾汁して得られたもの、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時アセトンで処理して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Trichoderma lignorum</i>) 若しくは放線菌 (<i>Eupenicillium brefeldianum</i>) の培養液より、除菌後、濃縮して得られたものである。	酵素	Ascorbate oxidase
8	L-アスパラギン		アスパラギン	植物性タンパク質を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギンである。	調味料 強化剤	L-Asparagine
9	L-アスパラギン酸		アスパラギン酸	発酵又は酵素法により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アスパラギン酸である。	調味料	L-Aspartic acid
10	アスペルギルス・テレーウス糖たん白質 (アスペルギルス・テレーウスの培養液から得られた、糖タンパク質を主成分とするものをいう。)	ムタステイン		糸状菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) によるブドウ糖、澱粉及び大豆ミールの発酵培養液を除菌し、硫酸アンモニウムにより分画した後、脱塩して得られたものである。主成分は糖タンパク質である。	製造用剤	<i>Aspergillus terreus glycoprotein</i>
11	N-アセチルグルコサミン		アセチルグルコサミン	「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はN-アセチル-D-グルコサミンである。	甘味料	N-Acetylglucosamine
12	α -アセトラクタートデカルボキシラーゼ	α -アセトラクタートデカルボキシラーゼ	リアーゼ	細菌 (<i>Bacillus subtilis</i> , <i>Serratia</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素	α -Acetolactate decarboxylase
13	5'-アデニル酸	アデノシン5'-リン酸	5'-AMP	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、熱時水で抽出した核酸を酵素で加水分解した後、分離して得られたものである。成分は5'-アデニル酸である。	強化剤	5'-Adenylic acid
14	アナトー色素 (ベニノキの種子の被覆物から得られた、ノルビキシン及びビキシンを主成分とするものをいう。)		アナトー カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	ベニノキ科ベニノキ (<i>Bixa orellana</i> LINNE) の種子の被覆物より、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで抽出して得られたもの、室温時ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたもの、又は熱時アルカリ性水溶液で抽出し、加水分解し、中和して得られたものである。主色素はビキシン及びノルビキシンである。黄色～橙色を呈する。	着色料	Annatto extract
15	アマシードガム (アマの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		アマシード	アマ科アマ (<i>Linum usitatissimum</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、室温時～温時水又は含水アルコールで抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Linseed gum Linseed extract
16	アミノペプチダーゼ			細菌 (<i>Aeromonas caviae</i> , <i>Lactobacillus casei</i> , <i>Lactococcus lactis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。	酵素	Aminopeptidase
17	α -アミラーゼ	液化アミラーゼ G3分解酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aureus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes latus</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) 若しくは放線菌 (<i>Thermomonospora viridis</i>) の培養液より、又は麦芽より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの若しくは濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	α -Amylase
18	β -アミラーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus polymyxa</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、又は麦芽若しくは穀類の種子より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの若しくは濃縮して得られたもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	β -Amylase

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
19	L-アラニン		アラニン	タンパク質原料の加水分解又は発酵若しくは酵法により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アラニンである。	調味料 強化剤	L-Alanine
20	アラビアガム (アカシアの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	アカシアガム	アカシア	マメ科アラビアゴムノキ (<i>Acacia senegal</i> WILDENOW) 又はその他同属植物の分泌液を、乾燥して得られたもの、又はこれを脱塩して得られたものをいう。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Gum Arabic Arabic gum Acacia gum
21	アラビノガラクトタン			マツ科セイヨウカラマツ (<i>Larix occidentalis</i> NUTT.) 又はその他同属植物の根又は幹より、室温水で抽出して得られたものである。成分は多糖類 (構成糖はガラクトース、アラビノース等) である。	増粘安定剤	Arabino galactan
22	L-アラビノース		アラビノース	アラビアガム、ガディガム又はコーンファイバーの配糖体又はサトウダイコンのバルブ (シュガービートバルブ) の多糖類 (アラビナン) を、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-アラビノースである。	甘味料	L-Arabinose
23	アルカネット色素 (アルカネットの根から得られた、アルカニン主成分とするものをいう。)	アルカンナ色素	アルカンナ	ムラサキ科アルカネット (<i>Anchusa officinalis</i> LINNE) の根より、エタノールで抽出して得られたものである。主色素はアルカニンである。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Alkanet colour
24	L-アルギニン		アルギニン	タンパク質原料の加水分解により又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-アルギニンである。	調味料 強化剤	L-Arginine
25	アルギン酸	昆布類粘質物		褐藻類 (Phaeophyceae) より、温時～熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。成分はアルギン酸である。	増粘安定剤	Alginate acid
26	アルギン酸リアーゼ			細菌 (<i>Alteromonas macleodii</i> , <i>Flavobacterium multivolum</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Xanthomonas</i>) の培養液より、室温水で抽出して得られたものである。	酵素	Alginate lyase
27	アルミニウム	アルミ末		²⁷ Al	着色料	Aluminium
28	アロエベラ抽出物 (アロエの葉から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ユリ科アロエ (<i>Aloe vera</i> LINNE) の葉より、搾汁して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Aloe vera extract
29	アントシアナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、又は麦芽若しくは穀類の種子より、冷時～室温水で抽出して得られたもの又はこれを冷時エタノール又は含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Anthocyanase
30	イソアミラーゼ	枝切り酵素		細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium odoratum</i> , <i>Pseudomonas amyloclavata</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたものである。	酵素	Isoamylase
31	イソアルファー苦味酸 (ホップの花から得られた、イソフムロン類を主成分とするものをいう。)	イソアルファー酸	ホップ	クワ科ホップ (<i>Humulus lupulus</i> LINNE) の雌花より、水、二酸化炭素又は有機溶剤で抽出し、熱処理して得られたものである。主成分はイソフムロン類である。	苦味料等	Iso- α -bitter acid
32	イソマルトデキストラナーゼ			細菌 (<i>Arthrobacter</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素	Isomaltodextranase
33	イタコン酸	メチレンコハク酸		麹菌 (<i>Aspergillus terreus</i>) による穀粉又は粗糖発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はイタコン酸である。	酸味料	Itaconic acid
34	イナワラ灰抽出物 (イネの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)	ワラ灰抽出物	植物灰抽出物	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の茎又は葉を灰化したものより、室温水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Rice straw ash extract
35	イヌリナーゼ	イヌラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Penicillium purpurogenum</i> , <i>Trichoderma</i>) の培養液より、室温水で抽出して得られたものである。	酵素	Inulinase
36	イノシトール	イノシット		「フィチン酸」を分解したものより、又はアカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>tapa</i> DUMORTIER) の糖液又は糖蜜より、分離して得られたものである。成分はイノシトールである。	強化剤	Inositol

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
37	イモカロテン (サツマイモの塊根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	イモカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロテノイド カロテノイド色素 カロテン カロテン色素	ヒルガオ科サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> POIR.) の塊根より、熱時油脂で、又は室温時へキサンで若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られたものである。主成分はカロテノイド (カロテン等) である。黄色を呈する。	強化剤 着色料	Sweet potato carotene
38	インベルターゼ	サッカラーゼ シュクラーゼ スクラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i>)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i>) 又は酵母 (<i>Kluyveromyces lactis</i> , <i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の培養液より、冷時～室温時菌体を回収して得られたもの、冷時～室温時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮して得られたもの、又はアセトン若しくはアルコールで処理し、イオン交換処理後、アセトン若しくはアルコールで処理及び透析除去したものである。	酵素	Invertase
39	ウェランガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ウェラン多糖類		グラム陰性細菌 (<i>Alcaligenes</i>) の培養液より、分離して得られた多糖類である。	増粘安定剤	Welan gum
40	ウコン色素 (ウコンの根茎から得られた、クルクミンを主成分とするものをいう。)	クルクミン ターメリック色素	ウコン	ショウガ科ウコン (<i>Curcuma longa</i> LINNE) の根茎の乾燥品より、温時エタノールで、熱時油脂若しくはプロピレングリコールで、又は室温時～熱時へキサン若しくはアセトンで抽出して得られたものである。主色素はクルクミン類である。黄色を呈する。	着色料	Turmeric oleoresin Curcumin
41	ウルシロウ (ウルシの果実から得られた、グリセリンパルミタートを主成分とするものをいう。)			ウルシ科ウルシ (<i>Rhus verniciflua</i> LINNE) の果実より、融解、さらして得られたものである。主成分はグリセリンパルミタートである。	ガムベース 光沢剤	Urushi Wax
42	ウレアーゼ		アミダーゼ	乳酸菌 (<i>Lactobacillus fermentum</i>) 又は細菌 (<i>Arthrobacter</i>) の培養液を、室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたもの、又は濃縮し、微温時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Urease
43	エキソマルトテトラオヒドラーゼ	G4生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (<i>Pseudomonas stutzeri</i>) の培養液より、室温時除菌し、膜で濃縮して得られたもの、又はこれをエタノールで処理して得られたものである。	酵素	Exomaltotetrahydrolase
44	エゴノキ抽出物 (アンソクコウノキの分泌液から得られた、安息香酸を主成分とするものをいう。)	安息香	エゴノキ	エゴノキ科アンソクコウノキ (<i>Styrax benzoin</i> DRY.) の樹脂より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分は安息香酸である。	保存料	Japanese styrax benzoin extract
45	エステラーゼ			動物の肝臓、魚類、糸状菌 (<i>Aspergillus</i>)、細菌 (<i>Pseudomonas</i>) 若しくは酵母 (<i>Candida</i> , <i>Torulopsis</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの若しくは濃縮したもの、又は冷時～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Esterase
46	エラグ酸			ウルシ科ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> LINNE) に発生する五倍子、ミロバン (<i>Terminalia chebula</i> RETZ.) の実、ヒシ科ヒシ (<i>Trapa japonica</i> FLEROV.) の実、フトモモ科ユーカリ (<i>Eucalyptus globulus</i> LABILL.) の葉等を脱脂後、水又はエタノールで抽出して得られたものである。成分はエラグ酸である。	酸化防止剤	Ellagic acid
47	エレミ樹脂 (エレミの分泌液から得られた、β-アミリンを主成分とするものをいう。)			カンラン科エレミ (<i>Canarium luzonicum</i> A. GRAY.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分はβ-アミリンである。	増粘安定剤 ガムベース	Elemi resin
48	塩水湖水低塩化ナトリウム液 (塩水湖水から塩化ナトリウムを析出分離して得られた、アルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類を主成分とするものをいう。)		塩水湖水ミネラル液	塩水湖の塩水を、天日蒸散により濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離し、残りの液体をろ過したものである。主成分はアルカリ金属塩類及びアルカリ土類金属塩類である。	調味料	Sodium chloride- decreased brine (saline lake)
49	オキアミ色素 (オキアミの甲殻又は眼から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 甲殻類色素	オキアミ科オキアミ (<i>Euphausia similis</i> G. O. SARS) 又はナンキョクオキアミ (<i>Euphausia superba</i> DANA) の甲殻又は眼より、圧搾し、分離して得られたもの、室温時アセトンで抽出して得られたもの、加圧下に二酸化炭素で抽出して得られたもの、又はへキサンで抽出して得られたものである。主色素はアスタキサンチンの脂肪酸エステルである。橙色～赤色を呈する。	着色料	Krill colour
50	オゾケライト	セレシン		ワックスシュールの鉱脈に含まれるロウを精製したものである。主成分はC ₂₅ ～C ₃₅ の炭化水素である。	ガムベース	Ozokerite
51	オゾン			O ₃	製造用剤	Ozone
52	オリゴ-N-アセチルグルコサミン	キチンオリゴ糖	オリゴアセチルグルコサミン	「キチン」を、塩酸で加水分解し、精製して得られたN-アセチル-D-グルコサミンの1～6量体の混合物からなる。	甘味料	Oligo-N- acetylglucosamine

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
53	オリゴガラクトuron酸			「ベクテン」をベクチナーゼで酵素分解し、限外ろ過して得られたものであって、ガラクトuron酸の1~9量体の混合物からなる。	製造用剤	Oligogalacturonic acid
54	オリゴグルコサミン	キトサンオリゴ糖	キトオリゴ糖	「キトサン」を、塩酸又は酵素（キトナーゼ）で加水分解し、精製して得られたD-グルコサミンの1~6量体の混合物からなる。	増粘安定剤	Oligoglucosamine
55	γ-オリザノール (米ぬか又は胚芽油から得られた、ステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルを主成分とするものをいう。)		オリザノール	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか又は胚芽油より、室温時含水エタノール及びn-ヘキサン又はアセトンで分配した後、含水エタノール画分から得られたものである。主成分はステロールとフェルラ酸及びトリテルペンアルコールとフェルラ酸のエステルである。	酸化防止剤	γ-Oryzanol
56	オレガノ抽出物 (オレガノの葉から得られた、カルバクロール及びチモールを主成分とするものをいう。)			シソ科オレガノ (<i>Origanum vulgare</i> LINNE) の葉より、室温時~温時エタノール、含水エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。成分としてチモール及びカルバクロールを含む。	製造用剤	Oregano extract
57	オレンジ色素 (アマダイダイの果実又は果皮から得られた、カロテン及びキサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 果実色素	ミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) の果実又は果皮より、搾汁したもの、又は熱時エタノール、ヘキサン若しくはアセトンで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はβ-クリプトキサンチンの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Orange colour
58	海藻灰抽出物 (褐藻類の灰化物から得られた、ヨウ化カリウムを主成分とするものをいう。)			褐藻類を焼成灰化したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はヨウ化カリウムである。	製造用剤	Seaweed ash extract
59	カオリン	白陶土	不溶性鉱物性物質	白陶土より得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤	Kaolin
60	カカオ色素 (カカオの種子から得られた、アントシアニンの重合物を主成分とするものをいう。)	ココア色素	カカオ フラボノイド フラボノイド色素	アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子 (カカオ豆) を発酵後、焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアントシアニンが熱により重合したものである。褐色を呈する。	着色料	Cacao colour
61	カカオ炭末色素 (カカオの種子の被覆物から得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の果実 (カカオ豆) の殻を、焙焼したものである。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Cacao carbon black
62	カキ色素 (カキの果実から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		果実色素 フラボノイド フラボノイド色素	カキノキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の果実を発酵後、焙焼したものより、温時含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。	着色料	Japanese persimmon colour
63	花こう斑岩		麦飯石 不溶性鉱物性物質	花こう斑岩を洗浄、粉碎したものを、乾燥後、滅菌して得られたものである。	製造用剤	Granite porphyry
64	カシアガム (エビスグサモドキの種子を粉碎して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	カシヤガム		マメ科エビスグサモドキ (<i>Cassia tora</i> LINNE) の種子の胚乳部を、粉碎して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Cassia gum
65	ガストリックムチン (は乳類の胃粘膜から得られた、ムコ多糖類を主成分とするものをいう。)		ムチン	は乳類 (羊、豚等) の胃粘膜を、酵素で消化した後、上澄み液より、エタノールで沈殿させて得られたものである。主成分はムコ多糖類である。	製造溶剤	Gastric mucin
66	カタラーゼ		オキシダーゼ	ブタの肝臓より、水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus foetidus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Penicillium amarasakiense</i>) 細菌 (<i>Micrococcus lyzodeikticus</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時~室温時水で抽出して得られたもの、温時溶菌後、除菌し、冷時~室温時濃縮して得られたもの、又はこれを冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Catalase
67	活性炭 (含炭素物質を炭化し、賦活化して得られたものをいう。)			鋸屑、木片、ヤシ殻の植物性繊維質、亜炭又は石油等の含炭素物質を炭化後、賦活化を行って得られたものである。	製造用剤	Active carbon
68	活性白土		不溶性鉱物性物質	「酸性白土」を、硫酸処理して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤	Activated acid clay
69	ガティガム (ガティノキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ガティ	シクンシ科ガティノキ (<i>Anogeissus latifolia</i> WALL.) の幹の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Gum ghatti
70	カテキン			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O.KZE.) の茎若しくは葉、マメ科ベグアセンヤク (<i>Acacia catechu</i> WILLD.) の幹枝又はアカネ科ガンビール (<i>Uncaria gambir</i> ROXBURGH) の幹枝若しくは葉より、乾留した後、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたもの、又は熱時水で抽出した後、メタノール若しくは酢酸エチルで分配して得られたものである。成分はカテキン類である。	酸化防止剤	Catechin
71	カードラン (アグロバクテリウム又はアルカリゲネスの培養液から得られた、β-1,3-グルカンを主成分とするものをいう。)		ブドウ糖多糖	グラム陰性細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Alcaligenes faecalis</i> CAST) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はβ-1,3-グルカンである。	増粘安定剤 製造用剤	Curdlan

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
72	カニ色素 (アメリカザリガニの甲殻又は眼から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 甲殻類色素	ザリガニ科アメリカザリガニ (<i>Procambarus clarkii</i> GIRARD) の甲殻又は眼より、熱時油脂で抽出して得られたものである。主色素はアスタキサンチンである。橙色～赤色を呈する。	着色料	Crayfish colour
73	カフェイン (抽出物) (コーヒーの種子又はチャの葉から得られた、カフェインを主成分とするものをいう。)		カフェイン	アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子 (コーヒー豆) 又はツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又は二酸化炭素で抽出し、分離、精製して得られたものである。主成分はカフェインである。	苦味料等	Caffeine (extract)
74	カラギナン (イバラノリ、キリンサイ、ギンナンソウ、スギノリ又はツノマタの全藻から得られた、 ι -カラギナン、 κ -カラギナン及び λ -カラギナンを主成分とするものをいう。)	カラギーナン カラゲナン カラゲナン カラゲニン			増粘安定剤	Carrageenan
	加工ユーケマ藻類		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) の全藻より、熱時水酸化カリウムで処理し、中和し、乾燥、粉碎して得られたものである。		Semirefined carrageenan Processed eucheuma algae Processed red algae
	精製カラギナン		紅藻抽出物	イバラノリ科イバラノリ属 (<i>Hypnea</i>)、ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) 又はスギノリ科ツノマタ属 (<i>Chondrus</i>)、スギノリ属 (<i>Gigartina</i>) 若しくはギンナンソウ属 (<i>Iridaea</i>) の全藻より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。		Purified carrageenan Refined carrageenan
	ユーケマ藻末		ユーケマ	ミリン科キリンサイ属 (<i>Eucheuma</i>) の全藻を、乾燥、粉碎して得られたものである。		Powdered red algae
75	α -ガラクトシダーゼ	メリビアーゼ	カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Mortierella</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus stearothermophilus</i>) の培養液より、室温時～微温時水、酸性水溶液若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの、冷時含水エタノールで処理したもの、又は除菌後、濃縮して得られたものである。	酵素	α -Galactosidase
76	β -ガラクトシダーゼ	ラクターゼ	カルボヒドラーゼ	動物の臓器より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Penicillium multicolor</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、細菌 (<i>Bacillus circulans</i> , <i>Streptococcus</i>) 若しくは酵母 (<i>Kluyveromyces fragilis</i> , <i>Kluyveromyces lactis</i> , <i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、室温時自己消化処理して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	β -Galactosidase (Lactase)
77	カラシ抽出物 (カラシの種子から得られた、イソチオシアネート酸アリルを主成分とするものをいう。)	マスタード抽出物		アブラナ科カラシナ (<i>Brassica juncea</i> LINNE) の種子の脂肪油を除いた圧搾粕より、水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はイソチオシアネート酸アリルである。	製造用剤	Mustard extract
78	カラメル I (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメル II」、「カラメル III」及び「カラメル IV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物を、熱処理して得られたもの、又は酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel I (plain)
79	カラメル II (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメル IV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、アンモニウム化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel II (caustic sulfite process)
80	カラメル III (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物にアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。ただし、「カラメル IV」を除く。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、アンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたもので、亜硫酸化合物を使用していないものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel III (ammonia process)
81	カラメル IV (でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて熱処理して得られたものをいう。)	カラメル	カラメル色素	でん粉加水分解物、糖蜜又は糖類の食用炭水化物に、亜硫酸化合物及びアンモニウム化合物を加えて、又はこれに酸若しくはアルカリを加えて熱処理して得られたものである。褐色を呈する。	着色料 製造用剤	Caramel IV (sulfite ammonia process)
82	カラヤガム (カラヤ又はキバナワタモドキの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		カラヤ	アオギリ科カラヤ (<i>Sterculia urens</i> ROXB.) 又はベニノキ科キバナワタモドキ (<i>Cochlospermum gossypium</i> A.P. DeCandolle) の幹枝の分泌液を、乾燥して得られた多糖類である。	増粘安定剤	Karaya gum

番号	品名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用途	備考
	名称	別名				
83	カルナウバロウ (ブラジルロウヤシの葉から得られた、ヒドロキシセロチン酸セリルを主成分とするものをいう。)	カルナウバワックス ブラジルワックス	植物ワックス	ヤシ科ブラジルロウヤシ (<i>Copernicia cerifera</i> MART.) (パーム樹) の葉より、剥ぎ取ったものを、若しくは熱湯水で分離したものを、精製して得られたものである。主成分はヒドロキシセロチン酸セリルである。	ガムベース 光沢剤	Carnauba wax Brazil wax
84	カルボキシペプチダーゼ			イネ科コムギ (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の種皮及び果皮 (ふすま) より、酢酸水溶液で抽出したもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) の培養液より、冷時～室温湯水で抽出して得られたもの若しくは冷時～室温時濃縮し、冷エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Carboxypeptidase
85	カロブ色素 (イナゴマメの種子の胚芽を粉砕して得られたものをいう。)	カロブジャーム	カロブ フラボノイド フラボノイド色素	マメ科イナゴマメ (<i>Cerastonia siliqua</i> LINNE) の種子の胚芽を、粉砕して得られたものである。淡黄色を呈する。	着色料 製造用剤	Carob germ colour
86	カロブビーンガム (イナゴマメの種子の胚乳を粉砕し、又は溶解し、沈殿して得られたものをいう。)	ローカストビーン ガム	ローカスト	マメ科イナゴマメ (<i>Cerastonia siliqua</i> LINNE) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたもの、又はこれを熱湯水に溶解後、ろ過し、イソプロピルアルコールで沈殿して得られたものである。多糖類を含む。	増粘安定剤	Carob bean gum Locust bean gum
87	カラワヨモギ抽出物 (カラワヨモギの全草から得られた、カビリンを主成分とするものをいう。)		カラワヨモギ	キク科カラワヨモギ (<i>Artemisia capillaris</i> THUNB.) の全草より、室温時エタノール若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留して得られたものである。有効成分はカビリン等である。	保存料	Rumput roman extract
88	カンゾウ抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、グリチルリチン酸を主成分とするものをいう。)	カンゾウエキ グリチルリチン リコリス抽出物	カンゾウ カンゾウ甘味料 リコリス	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎より、熱湯水で抽出して得られたもの又は室温時若しくは微温時アルカリ性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主甘味成分はグリチルリチン酸である。	甘味料	Licorice extract
89	カンゾウ油性抽出物 (ウラルカンゾウ、チョウカカンゾウ又はヨウカンゾウの根又は根茎から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		油性カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又はマメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根又は根茎を水で洗浄した残渣より、室温時～温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Licorice oil extract
90	カンデリラロウ (カンデリラの茎から得られた、ヘントリアコンタンを主成分とするものをいう。)	カンデリラワックス キャンデリラロウ キャンデリラワックス	植物ワックス	トウダイグサ科カンデリラ (<i>Euphorbia antisiphilitica</i> ZUCC.) の茎より、熱湯水で分離したものを、精製して得られたものである。主成分はヘントリアコンタンである。	ガムベース 光沢剤	Candelilla wax
91	キサントガム (キサントモナスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	キサントガム ザンサンガム	キサントガム	グラム陰性細菌 (<i>Xanthomonas campestris</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Xanthan gum
92	キシラナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> reesei, <i>Trichoderma viride</i>) の培養液より、分離して得られたものである。	酵素	Xylanase
93	D-キシロース		キシロース	木材又はアオイ科ワタ (<i>Gossypium arboreum</i> LINNE)、イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE)、イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) 若しくはイネ科トウモロコシ (<i>Zea Mays</i> LINNE) 又はその他同属植物の茎、実又は穀より、熱時酸性水溶液で加水分解し、分離して得られたものである。成分はD-キシロースである。	甘味料	D-Xylose
94	キダチアロエ抽出物 (キダチアロエの葉から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		キダチアロエ	ユリ科キダチアロエ (<i>Aloe arborescens</i> MILL.) の葉より、搾汁して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Aloe extract
95	キチナーゼ			糸状菌 (<i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>)、放線菌 (<i>Amiclatopsis orientalis</i> , <i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Aeromonas</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、濃縮し、硫酸アンモニウムで分画したもの、若しくはエタノールで処理したものから得られたものである。	酵素	Chitinase

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
96	キチン			エビ、カニ等甲殻類の甲殻又はイカの甲を、室温時～温時酸性水溶液で炭酸カルシウムを除去した後、温時～熱時弱アルカリ性水溶液でタンパク質を除去したもので、N-アセチル-D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤	Chitin
97	キトサナーゼ			細菌 (<i>Aeromonas</i> , <i>Bacillus</i>) 又は糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i> , <i>Verticillium</i>) の培養液より、除菌後、冷時～微温時濃縮したもの又はエタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	酵素	Chitosanase
98	キトサン			「キチン」を、温時～熱時水酸化ナトリウム水溶液で脱アセチル化したもので、D-グルコサミンの多量体からなる。	増粘安定剤 製造用剤	Chitosan
99	キナ抽出物 (アカキナの樹皮から得られた、キニジン、キニーネ及びシンコニンを主成分とするものをいう。)			アカネ科アカキナ (<i>Cinchona succirubra</i> PAVON) の樹皮より、水又はエタノール等で抽出して得られたものである。有効成分はキニーネ、キニジン及びシンコニンである。	苦味料等	Redbark cinchona extract
100	キハダ抽出物 (キハダの樹皮から得られた、ベルベリンを主成分とするものをいう。)		キハダ	ミカン科キハダ (<i>Phellodendron amurense</i> RUPR.) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はベルベリンである。	苦味料等	Phellodendron bark extract
101	魚鱗箔 (魚類の上部から抽出して得られたものをいう。)			イワシ科マイワシ (<i>Sardinops melanosticta</i> TEAMINCK et SCHLEGEL)、タチウオ科タチウオ (<i>Trichiurus lepturus</i> LINNE) 又はニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> CUVIER et VALENCIENNES) の魚体の上部部を採り、室温時水又は弱アルカリ性水溶液で洗浄後、室温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素は不明であるが、グアニンを含む。白色～淡黄灰色を呈する。	着色料	Fish scale foil
102	キラヤ抽出物 (キラヤの樹皮から得られた、サポニン主成分とするものをいう。)	キラヤサポニン	サポニン	バラ科キラヤ (<i>Quillaja saponaria</i> MOLINA) の樹皮より、熱時水で抽出したものより得られたものである。主成分はサポニン (キラヤサポニン等) である。	乳化剤	Quillaja extract Quillaja extract
103	金	金箔		¹⁹⁷ Au	着色料 製造用剤	Gold
104	銀	銀箔		¹⁰⁷ Ag, ¹⁰⁹ Ag	着色料	Silver
105	グアーガム (グアーの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。ただし、「グアーガム酵素分解物」を除く。)	グアーフラワー グアルガム	グアー	マメ科グアー (<i>Cyamopsis tetragonolobus</i> TAUB.) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Guar gum
106	グアーガム酵素分解物 (グアーの種子を粉砕し、分解して得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	グアーフラワー酵素分解物 グアルガム酵素分解物	グアー分解物	「グアーガム」を、酵素 (α-ガラクトシダーゼ、ヘミセルラーゼ) で分解して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Enzymatically hydrolyzed guar gum
107	グアヤク脂 (ニソウボクの幹枝から得られた、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジン主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ニソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の幹枝を、加熱して得られたものである。有効成分は、グアヤコン酸、グアヤレチック酸及びβ-レジンである。	酸化防止剤	Guaiac resin Guajac resin
108	グアヤク樹脂 (ニソウボクの分泌液から得られた、α-グアヤコン酸及びβ-グアヤコン酸を主成分とするものをいう。)			ハマビシ科ニソウボク (<i>Guaiacum officinale</i> LINNE) の分泌液を、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はα-、β-グアヤコン酸である。	ガムベース	Guajac resin. (extract)
109	クエルセチン	ケルセチン	ルチン分解物	「ルチン (抽出物)」を、酵素又は酸性水溶液で加水分解して得られたものである。成分はクエルセチンである。	酸化防止剤	Quercetin
110	クチナシ青色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> ELLIS) の果実より、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。青色を呈する。	着色料	Gardenia blue
111	クチナシ赤色素 (クチナシの果実から得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物にβ-グルコシダーゼを添加して得られたものをいう。)		クチナシ クチナシ色素	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT.) の果実より、微温時水で抽出して得られたイリド配糖体のエステル加水分解物とタンパク質分解物の混合物に、β-グルコシダーゼを添加した後、分離して得られたものである。赤色を呈する。	着色料	Gardenia red
112	クチナシ黄色素 (クチナシの果実から得られた、クロシン及びクロセチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 クチナシ クチナシ色素 クロシン	アカネ科クチナシ (<i>Gardenia augusta</i> MERRILL var. <i>grandiflora</i> HORT., <i>Gardenia jasminoides</i> ELLIS) の果実より、室温時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又はこれを加水分解して得られたものである。主色素はクロシン及びクロセチンである。黄色を呈する。	着色料	Gardenia yellow

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
113	グッタハンカン (グッタハンカンの分泌液から得られた、アミリンアセター及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタハンカン (<i>Palaequium leiocarpum</i> BOERL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソブレン及びアミリンアセターである。	ガムベース	Gutta hang kang
114	グッタベルカ (グッタベルカの分泌液から得られた、ポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科グッタベルカ (<i>Palaequium gutta</i> BURCK.) の幹枝より得られたラテックスを、熱湯水で洗浄し、水溶成分を除去したものより得られたものである。主成分はトランスポリイソブレンである。	ガムベース	Gutta percha
115	クリストバル石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したクリストバル石を、粉碎乾燥、800～1200℃で焼成、又は硫酸処理して焼成したものである。	製造用剤	Cristobalite
116	グリーンタフ		不溶性鉱物性物質	グリーンタフを洗浄後、乾燥、粉碎したものを、精選して得られたものである。	製造用剤	Green tuff
117	グルカナナーゼ		カルボヒドラーゼ ヘミセルラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時～室温で濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は除菌後、硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Glucanase
118	グルコアミラーゼ	糖化アミラーゼ	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i> , <i>Humicola grisea</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i>)、担子菌 (<i>Corticium rolsfii</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時除菌後、濃縮したもの、冷時～室温時濃縮後、エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Glucoamylase
119	グルコサミン			「キチン」を、塩酸で加水分解し、分離して得られたものである。成分はグルコサミンである。	増粘安定剤 製造用剤	Glucosamine
120	α-グルコシダーゼ	マルターゼ		糸状菌 (<i>Absidia</i> , <i>Acremonium</i> , <i>Aspergillus</i>)、細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Pseudomonas</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	α-Glucosidase
121	β-グルコシダーゼ	ゲンチオビアーゼ セロビアーゼ		ソテツ科ソテツ (<i>Cycas revoluta</i> THUNB.) より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Penicillium decumbens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	β-Glucosidase
122	α-グルコシルトランスフェラーゼ	4-α-グルカノトランスフェラーゼ 6-α-グルカノトランスフェラーゼ		細菌 (<i>Agrobacterium radiobacter</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Erwinia</i> , <i>Pimelobacter</i> , <i>Protaminobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia</i> , <i>Thermus</i>) の培養液又はバレイショ (<i>Solanum tuberosum</i> LINNE) の塊茎より、冷時～室温時除菌したもの、冷時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮して得られたものである。なお、基質特異性により、4-α-グルカノトランスフェラーゼ、6-α-グルカノトランスフェラーゼと呼ばれるものがある。	酵素	α-Glucosyltransferase 4-α-Glucanotransferase 6-α-Glucanotransferase
123	α-グルコシルトランスフェラーゼ処理ステビア (「ステビア抽出物」から得られた、α-グルコシルステビオンドを主成分とするものをいう。)	酵素処理ステビア	ステビア ステビア甘味料 糖転移ステビア	「ステビア抽出物」に、α-グルコシルトランスフェラーゼ等を用いてグルコースを付加して得られたものである。主甘味成分はα-グルコシルステビオンドである。	甘味料	α-Glucosyltransferase-treated stevia
124	グルコースイソメラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i>)、放線菌 (<i>Actinoplanes missouriensis</i> , <i>Streptomyces griseofuscus</i> , <i>Streptomyces murinus</i> , <i>Streptomyces phaeochromogenes</i> , <i>Streptomyces rubiginosus</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus coagulans</i>) の培養液より、室温時水で抽出して得られたものである。	酵素	Glucose isomerase
125	グルコースオキシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～微温時除菌後、除菌したもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Glucose oxidase
126	グルタミナーゼ		アミダーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Glutaminase

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
127	L-グルタミン		グルタミン	糖類を原料とした発酵により得られたものから分離して得られたものである。成分はL-グルタミンである。	調味料 強化剤	L-Glutamine
128	グレープフルーツ種子抽出物 (グレープフルーツの種子から得られた、脂肪酸及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)		グレープフルーツ種子	ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.) の種子より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分は脂肪酸及びフラボノイドである。	製造用剤	Grapefruit seed extract
129	クロー色素 (ソメモノイモの根から抽出して得られたものをいう。)	ソメモノイモ色素	フラボノイド フラボノイド色素	ヤマノイモ科ソメモノイモ (<i>Dioscorea matsudai</i> HAYATA) の根より、熱時水、弱アルカリ性水溶液若しくはプロピレングリコールで抽出したもの、又は室温時含水エタノールで抽出して得られたものである。赤褐色を呈する。	着色料	Kooroo colour Matsudai colour
130	クローブ抽出物 (チョウジのつぼみ、葉又は花から得られた、オイゲノールを主成分とするものをいう。)	チョウジ抽出物	チョウジ油	フトモモ科チョウジ (<i>Syzgium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ、葉又は花より、エタノール又はアセトンで抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得られたものである。主成分はオイゲノール等である。	酸化防止剤	Clove extract
131	クロロフィリン		葉緑素	「クロロフィル」を、温時アルカリ性エタノール水溶液で加水分解し、希塩酸で中和した後、含水エタノールで抽出して得られたものである。主成分はマグネシウムクロロフィリンである。緑色を呈する。	着色料	Chlorophylline
132	クロロフィル		葉緑素	アカザ科ホウレンソウ (<i>Spinacia oleracea</i> LINNE)、アブラナ科カブ (<i>Brassica rapa</i> LINNE)、アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus acanthiformis</i> MOREL)、イラクサ科イラクサ (<i>Urtica platyphlla</i> WEDD.)、クロレラ科クロレラ (<i>Chlorella pyrenoides</i> CHIK)、クロコクワ (<i>Morus bombycis</i> KOIDZ.)、シナノキ科タイワンツナリ (<i>Corchorus olitorius</i> LINNE)、セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LINNE)、マメ科クズ (<i>Pueraria lobata</i> OHWI.)、マメ科ムラサキウマゴヤシ (<i>Medicago sativa</i> LINNE)、ムラサキ科コンフリー (<i>Symphytum officinale</i> LEDEB.) 若しくはユレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) GEITLER) 又はその他同属植物より、室温時又は微温時エタノール、メタノール、アセトン又はアセトン水溶液で抽出して得られたものである。主色素はクロロフィルである。緑色を呈する。	着色料	Chlorophyll
133	クワ抽出物 (クワの根茎の皮から得られた、スチルベン誘導体及びフラボノイドを主成分とするものをいう。)			クワ科クワ (<i>Morus bombycis</i> KOIDZ.) の根茎の皮より、水、温時エタノール、又は室温時～微温時アセトンで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイド及びスチルベン誘導体等である。	製造用剤	Mulberry bark extract
134	くん液 (サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を燃焼して発生したガス成分を捕集し、又は乾溜して得られたものをいう。)	スモークフレーバー			製造用剤	Smoke flavourings
	木酢液			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、乾溜して得られたものである。		Wood vinegar Pyroligneous acid
	リキッドスモーク			サトウキビ、竹材、トウモロコシ又は木材を、限定された空気存在下で、燃焼して発生したガス成分を捕集して得られたものである。		Liquid smoke
135	ケイソウ土		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したケイソウ土 (珪藻土) を、粉砕乾燥、800～1200℃で焼成、又は少量の炭酸アルカリ塩を加えて800～1200℃で焼成したものである。	製造用剤	Diatomaceous earth
136	ゲンチアナ抽出物 (ゲンチアナの根又は根茎から得られた、アマルゲンチン及びゲンチオビクロシドを主成分とするものをいう。)			リンドウ科ゲンチアナ (<i>Gentiana lutea</i> LINNE) の根又は根茎より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はゲンチオビクロシド (ゲンチオビクリン) 及びアマルゲンチンである。	苦味料等	Gentian root extract
137	高級脂肪酸 (動植物性油脂又は動植物性硬化油脂を加水分解して得られたものをいう。)		脂肪酸	動植物性油脂又は動植物性硬化油脂より、加水分解したものより得られたものである。	製造用剤	Higher fatty acid

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
138	香辛料抽出物 (アサノミ、アサフェチダ、アジョウ ン、アニス、アンゼリカ、ウイキョ ウ、ウコン、オールスパイス、オレガ ノ、オレギペール、カショウ、カッ シア、カモミール、カラシナ、カルダ モン、カレーリーフ、カンゾウ、キャ ラウエー、クチナシ、クミン、クレゾ ン、クローブ、ケシノミ、ケーパー、 コショウ、ゴマ、コリアンダー、サツ サfras、サフラン、サボリー、サル ビア、サンショウ、シソ、シナモン、 シャロット、ジュンバーベリ、ショ ウガ、スターアニス、スベアミント、 セイヨウワサビ、セロリー、ソーレ ル、タイム、タマネギ、タマリンド、 タラゴン、チャイブ、チャービル、 ディル、トウガラシ、ナツメグ、ニガ ヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニ ク、バジル、バセリ、ハッカ、パニ ラ、パプリカ、ヒソップ、フェネグ リク、ペパーミント、ホースミン ト、マジョラム、ミョウガ、ラベン ダー、リンデン、レモングラス、レモ ンバーム、ローズ、ローズマリー、 ローレル又はワサビから抽出し、又は これを水蒸気蒸留して得られたものを いう。ただし、「ウコン色素」、「オ レガノ抽出物」、「オレギン色素」、 「カラシ抽出物」、「カンゾウ抽出 物」、「カンゾウ油性抽出物」、「ク チナシ黄色素」、「クローブ抽出 物」、「ゴマ油不けん化物」、「シソ 抽出物」、「ショウガ抽出物」、「精油 除去ウイキョウ抽出物」、「セイヨウ ワサビ抽出物」、「セージ抽出物」、 「タマネギ色素」、「タマリンド色 素」、「タマリンドシードガム」、 「タンニン(抽出物)」、「トウガラ シ色素」、「トウガラシ水性抽出 物」、「ニガヨモギ抽出物」、「ニン ジンカロテン」、「ニンニク抽出 物」、「ペパー抽出物」、「ローズマ リー抽出物」及び「ワサビ抽出物」を 除く。)	スパイス抽出物	香辛料 スパイス	アサノミ、アサフェチダ、アジョウ、アニス、 アンゼリカ、ウイキョウ、ウコン、オレガノ、 オールスパイス、オレギペール、カショウ、 カッシア、カモミール、カラシナ、カルダモン、 カレーリーフ、カンゾウ、キャラウエー、クチナ シ、クミン、クレゾン、クローブ、ケシノミ、 ケーパー、コショウ、ゴマ、コリアンダー、サツ サfras、サフラン、サボリー、サルビア、サン ショウ、シソ、シナモン、シャロット、ジュニ バーベリ、ショウガ、スターアニス、スベアミ ント、セイヨウワサビ、セロリー、ソーレル、タ イム、タマネギ、タマリンド、タラゴン、チャイ ブ、チャービル、ディル、トウガラシ、ナツメ グ、ニガヨモギ、ニジェラ、ニンジン、ニンニ ク、バジル、バセリ、ハッカ、パニラ、パプリ カ、ヒソップ、フェネグリーク、ペパーミント、 ホースミント、マジョラム、ミョウガ、ラベン ダー、リンデン、レモングラス、レモンバーム、 ローズ、ローズマリー、ローレル又はワサビより 水、エタノール、二酸化炭素若しくは有機溶剤で 抽出して得られたもの、又は水蒸気蒸留により得 られたものである。	苦味料等	Spice extracts
139	酵素処理イソクエルシトリン (「ルチン酵素分解物」から得られ た、 α -グルコシルイソクエルシトリン を主成分とするものをいう。)	糖転移イソクエル シトリン	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン酵素分解物」とでん粉又はデキストリン の混合物に、シクロデキストリングルコシルトラ ンスフェラーゼを用いてグルコースを付加して得 られたものである。主成分は α -グルコシルイソ クエルシトリンである。	酸化防止剤	Enzymatically modified isoquercitrin
140	酵素処理カンゾウ (「カンゾウ抽出物」にシクロデキス トリングルコシルトランスフェラーゼ を用いてグルコースを付加して得られ た、 α -グルコシルグリチルリチン酸 類を主成分とするものをいう。)	糖転移カンゾウ	カンゾウ カンゾウ甘味料	「カンゾウ抽出物」とデキストリンの混合物に、 熱時シクロデキストリングルコシルトランスフェ ラーゼを用いてグルコースを α -1,4付加して得ら れたものである。主成分は α -グルコシルグリチ ルリチン酸類である。	甘味料	Enzymatically modified licorice extract
141	酵素処理チャ抽出物 (「チャ抽出物」にシクロデキスト リングルコシルトランスフェラーゼを 用いてグルコースを付加して得られた ものをいう。)	糖転移チャ抽出物	チャ抽出物	「チャ抽出物」とデキストリンの混合物に、シク ロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを 用いてグルコースを付加して得られたものであ る。	製造用剤	Enzymatically modified tea extract
142	酵素処理ナリンジン (「ナリンジン」から得られた、 α - グルコシルナリンジンを主成分とする ものをいう。)	糖転移ナリンジン	ナリンジン	「ナリンジン」とデキストリンの混合物に、シク ロデキストリングルコシルトランスフェラーゼを 用いてグルコースを付加させたものである。有効 成分は α -グルコシルナリンジンである。	苦味料等	Enzymatically modified naringin
143	酵素処理ヘスベリジン (「ヘスベリジン」にシクロデキス トリングルコシルトランスフェラーゼを 用いてグルコースを付加して得られた ものをいう。)	糖転移ヘスベリジ ン 糖転移ビタミンP	ヘスベリジン	「ヘスベリジン」とデキストリンの混合物に、シ クロデキストリングルコシルトランスフェラーゼ を用いてグルコースを付加して得られたものであ る。	強化剤	Enzymatically modified hesperidin
144	酵素処理ルチン(抽出物) (「ルチン(抽出物)」から得られ た、 α -グルコシルルチンを主成分と するものをいう。)	糖転移ルチン(抽 出物)	酵素処理ルチン 糖転移ルチン	「ルチン(抽出物)」とでん粉又はデキストリン の混合物に、シクロデキストリングルコシルトラ ンスフェラーゼを用いてグルコースを α -1,4付加 して得られたものである。主成分は α -グルコシ ルルチンである。	酸化防止剤 強化剤 着色料	Enzymatically modified rutin (extract)
145	酵素処理レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチ ン」から得られた、ホスファチジルグ リセロールを主成分とするものをい う。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」とグリセ リンの混合物に、ホスホリパーゼDを用いて得ら れたものである。主成分はホスファチジルグリセ ロールである。	乳化剤	Enzymatically modified lecithin
146	酵素分解カンゾウ (「カンゾウ抽出物」を酵素分解して 得られた、グリチルリチン酸-3-グル クロニドを主成分とするものをい う。)		カンゾウ	「カンゾウ抽出物」を、酵素分解して得られたも のである。主成分はグリチルリチン酸-3-グル クロニドである。	甘味料	Enzymatically hydrolyzed licorice extract
147	酵素分解ハトムギ抽出物 (ハトムギの種子を酵素分解して得ら れたものをいう。)		ハトムギエキス	ハトムギ(Coix lachryma-jobi var. ma-yuen STAPF)の種子より、熱時水で抽出し、酵素(α -ア ミラーゼ)分解した後、エタノールで処理したも のである。主成分はグルコースを構成糖とするオリ ゴ糖である。	保存料	Enzymatically hydrolyzed coix extract

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
148	酵素分解リンゴ抽出物 (リンゴの果実を酵素分解して得られた、カテキン類及びクロロゲン酸を主成分とするものをいう。)		リンゴ抽出物 リンゴエキス	バラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) の果実を搾汁し、パルプを分離した後、得られた上清を酵素処理し、精製して得られたものである。有効成分はクロロゲン酸及びカテキン類である。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed apple extract
149	酵素分解レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、フォスファチジン酸及びリゾレシチンを主成分とするものをいう。)		レシチン	「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」を、水又はアルカリ性水溶液でpH調整後、室温時～温時酵素分解して得られたもの、又はこれをエタノール、イソプロピルアルコール若しくはアセトンで抽出して得られたものである。なお、卵黄から引きつづき製造されることもある。主成分はリゾレシチン及びフォスファチジン酸である。	乳化剤	Enzymatically decomposed lecithin
150	酵母細胞壁 (サッカロミセスの細胞壁から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	酵母細胞膜		酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i>) を、自己消化させて分離した細胞壁、又はこれを脱色したものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤 製造用剤	Yeast cell wall
151	コウリヤン色素 (コウリヤンの種子から得られた、アビゲニニン及びルテオリニン等を主成分とするものをいう。)	キビ色素	フラボノイド フラボノイド色素	イネ科コウリヤン (<i>Sorghum nervosum</i> BESS.) の実及び殻より、温時～熱時水、含水エタノール若しくは酸性含水エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時～温時アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はアビゲニニン及びルテオリニンである。赤褐色を呈する。	着色料	Kaoliang colour
152	コチニール色素 (エンジウムから得られた、カルミン酸を主成分とするものをいう。)	カルミン酸色素	カルミン酸 コチニール	カイガラムシ科エンジウム (<i>Coccus cacti</i> LINNE (<i>Dactylopius coccus</i> COSTA)) の乾燥体より、温時～熱時水で、又は温時含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はカルミン酸である。橙色～赤紫色を呈する。	着色料	Cochineal extract Carminic acid
153	骨炭 (ウシの骨から得られた、炭末及びリン酸カルシウムを主成分とするものをいう。)			ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の骨を、炭化し、粉砕して得られたものである。主成分はリン酸カルシウム及び炭末である。	製造用剤	Bone charcoal
154	骨炭色素 (骨を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE var. <i>domesticus</i> GENEL.) 等の骨を、炭化した物である。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Bone carbon black
155	コーパル樹脂 (コーパルの分泌液から得られた、アガテンジカルボン酸を主成分とするものをいう。)			ナンヨウスギ科アガティス・ロランティフォリア (<i>Agathis loranthifolia</i> SALISB.) の幹の分泌液より、低沸点部分を蒸留により除去した後、室温時エタノールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得られたものである。主構成成分はアガテンジカルボン酸である。	ガムベース	Copal resin
156	コバルト			⁵⁹ Co	製造用剤	Cobalt
157	ゴマ油不けん化物 (ゴマの種子から得られた、セサモリンを主成分とするものをいう。)		ゴマ油抽出物	ゴマ科ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の種子又は種子の搾油槽より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセサモリンである。	酸化防止剤	Sesame seed oil unsaponified matter
158	ゴマ柄灰抽出物 (ゴマの茎又は葉の灰化物から抽出して得られたものをいう。)			ゴマ (<i>Sesamum indicum</i> LINNE) の茎又は葉を灰化し、室温時水で抽出し、上澄み液をろ過して得られたものである。	製造用剤	Sesame straw ash extract
159	ゴム (パラゴムの分泌液から得られた、ポリイソプレンを主成分とするものをいう。ただし、「低分子ゴム」を除く。)	カウチョック		トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを酸性水溶液で凝固させ、水洗、脱水したものより得られたものである。主成分はシスポリイソプレンである。	ガムベース	Rubber
160	ゴム分解樹脂 (「ゴム」から得られた、ジテルペン、トリテルペン及びテトラテルペンを主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解したもの、又は酵素分解して得られた低分子の樹脂状物質である。主成分はC ₂₀ ～C ₄₀ のテルペノイドである。	ガムベース	Resin of depolymerized natural rubber
161	コメヌカ油抽出物 (米ぬか油から得られた、フェルラ酸を主成分とするものをいう。)	コメヌカ油不けん化物		イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油の不けん化物より、エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はフェルラ酸である。	酸化防止剤	Rice bran oil extract
162	コメヌカ酵素分解物 (脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる脱脂米ぬかを酵素分解したものより、水で抽出して得られたものである。主成分はペプチド及びフィチン酸である。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rice bran
163	コメヌカワックス (米ぬか油から得られた、リグノセリン酸ミシルを主成分とするものをいう。)	コメヌカワックス ライスワックス	植物ワックス	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られる米ぬか油より、分離して得られたものである。主成分はリグノセリン酸ミシルである。	ガムベース 光沢剤	Rice bran wax
164	サイリウムシードガム (ブロードサイリウムの種皮から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	サイリウムハスク	サイリウム	オオバコ科ブロードサイリウム (<i>Plantago ovata</i> FORSK.) の種子の外皮を、粉砕して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Psyllium seed gum
165	ササ色素 (ササの葉から得られた、クロロフィルを主成分とするものをいう。)		ササ末	イネ科クマザサ (<i>Sasa albo-marginata</i> MAKINO et SHIBATA)、イネ科チシマザサ (<i>Sasa kurilensis</i> MAKINO et SHIBATA) 等のササの葉を、粉砕したものである。主色素はクロロフィルである。緑色を呈する。	着色料	Bamboo grass colour

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
166	サトウキビロウ (サトウキビの茎から得られた、パル ミチン酸ミリスルを主成分とするもの をいう。)	カーンワックス ケーンワックス	植物ワックス	イネ科サトウキビ (<i>Saccharum officinarum</i> LINNE) の茎の搾汁残渣より、分離、精製して得 られたものである。主成分はパルミチン酸ミリス ルである。	ガムベース 光沢剤	Cane wax
167	サバクヨモギシードガム (サバクヨモギの種子から得られた、 多糖類を主成分とするものをいう。)	アルテミシアシ ードガム サバクヨモギ種子 多糖類		キク科サバクヨモギ (<i>Artemisia halodendron</i> TURCZ. ex BESS., <i>Artemisia ordosica</i> KRASCHEN., <i>Artemisia sphaerocephala</i> KRASCH) の種子の外皮を、脱脂、乾燥して得られたもので ある。主成分は、 α -セルロースを基本骨格に持 つ、中性多糖類及び酸性多糖類である。	製造用剤 増粘安定剤	<i>Artemisia sphaerocephala</i> seed gum <i>Artemisia seed gum</i>
168	酸性白土		不溶性鉱物性物質	モンモリロナイト系粘土鉱物を、精製して得られ たものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウム である。	製造用剤	Acid clay
169	酸性ホスファターゼ	ホスホモノエステ ラーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus</i> <i>oryzae</i>) の培養液より、冷時～温時水で抽出し、 除菌した後、冷時～室温時濃縮し、冷時エタノ ール若しくは含水エタノールで処理して得られたも のである。	酵素	Acid phosphatase
170	酸素			O ₂	製造用剤	Oxygen
171	サンダラック樹脂 (サンダラックの分泌液から得られ た、サンダラコピマル酸を主成分と するものをいう。)			ヒノキ科サンダラック (<i>Tetraclinis articulata</i> (VAHL.) MAST.) の分泌液より、室温時エタノ ールで抽出し、ろ液からエタノールを留去して得ら れたオレオレジンから得られたものである。主構 成成分はサンダラコピマル酸である。	ガムベース	Sandarac resin
172	シアナット色素 (シアノキの果実又は種子から抽出し て得られたものをいう。)		シアナット フラボノイド フラボノイド色素	アカテツ科シアノキ (<i>Butyrospermum parkii</i> KOTSCHY.) の果実又は種子より、室温時弱アルカ リ性水溶液で抽出し、中和して得られたものであ る。褐色を呈する。	着色料	Shea nut colour
173	シアノコバラミン	ビタミンB ₁₂	V. B ₁₂	放線菌 (<i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Agrobacterium</i> , <i>Bacillus</i> , <i>Flavobacterium</i> , <i>Propionibacterium</i> , <i>Rhizobium</i>) の培養液より、 分離して得られたものである。成分はシアノコバ ラミンである。	強化剤	Cyanocobalamin Vitamin B ₁₂
174	シェラック (ラックカイガラムシの分泌液から得 られた、アレウリチン酸とシェロ ール酸又はアレウリチン酸とジャ ーラル酸のエステルを主成分とす るものをいう。)	セラック			ガムベース 光沢剤	Shellac
	白シェラック	白セラック 白ラック		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> <i>lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、温時アル カリ性水溶液で抽出し、漂白したものより得られ たものである。主成分はアレウリチン酸とジャ ーラル酸又はアレウリチン酸とシェロール酸のエ ステル等である。		White shellac
	精製シェラック	精製セラック		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> <i>lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エ タノールで抽出又は温時アルカリ性水溶液で抽出 し、精製して得られたものである。主成分はアレ ウリチン酸とジャーラル酸又はアレウリチン酸と シェロール酸のエステル等である。		Purified shellac
175	シェラックロウ (ラックカイガラムシの分泌液から得 られた、ろう分を主成分とするもの をいう。)	セラックロウ		カイガラムシ科ラックカイガラムシ (<i>Laccifer</i> <i>lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質を、室温時エ タノール又は温時アルカリ性水溶液に溶解し、ろ 液からろう分を分離して得られたものである。主 成分は樹脂酸エステルである。	ガムベース 光沢剤	Shellac wax
176	ジェランガム (シュドモナスの培養液から得られ た、多糖類を主成分とするものをい う。)	ジェラン多糖類	ジェラン	グラム陰性細菌 (<i>Pseudomonas elodea</i>) の培養液 より、分離して得られたものである。主成分は多 糖類である。	増粘安定剤	Gellan gum
177	ジェルトン (ジェルトンの分泌液から得られた、 アミリンアセタート及びポリイソプ レンを主成分とするものをいう。)	ボンチアナック		キョウチクトウ科ジェルトン (<i>Dyera costulata</i> HOOK F., <i>Dyera lowii</i> HOOK F.) の幹枝から得ら れたラテックスを、熱水で洗浄し、水溶成分を 除去して得られたものである。主成分はアミリン アセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Jelutong
178	シクロデキストリン	サイクロデキスト 分岐サイクロデキ ストリン 分岐シクロデキス トリン	環状オリゴ糖	デンプンを、酵素処理し、非還元性環状デキスト リンとして得られたものである。成分はシクロデ キストリンである。	製造用剤	Cyclodextrin
179	シクロデキストリングルカノトランス フェラーゼ	シクロデキストリ ングルコシルトラ ンスフェラーゼ	トランスフェラーゼ	細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Corynebacterium</i>) の培養液より、冷時～室温時 水で抽出して得られたもの、又は除菌後、冷時～ 室温時濃縮したもの、又はこれを、含水エタノ ールで処理して得られたものである。	酵素	Cyclodextrin glucanotransferase
180	シコン色素 (ムラサキの根から得られた、シコ ニンを主成分とするものをいう。)		シコン	ムラサキ科ムラサキ (<i>Lithospermum</i> <i>erythrorhizon</i> SIEBOLD et ZUCCARINI) の根よ り、室温時エタノールで抽出して得られたもので ある。主色素はシコニンである。赤色～赤紫色を 呈する。	着色料	Shikon colour <i>Lithospermum root colour</i>
181	L-シスチン		シスチン	動物性タンパク質 (特に動物毛、羽毛) を、加水 分解し、分離して得られたものである。成分はL- シスチンである。	調味料 強化剤	L-Cystine

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
182	シソ抽出物 (シソの種子又は葉から得られた、テルペノイドを主成分とするものをいう。)	シソエキス		シソ科シソ (<i>Perilla crispa</i> TANAKA) の種子又は葉より、酸性水溶液又は温時含水エタノールで抽出したものから得られたものである。主成分はテルペノイドである。	製造用剤	Perilla extract
183	シタン色素 (シタンの幹枝から得られた、サンタリンを主成分とするものをいう。)	サンドルウッド色素	サンドルウッド フラボノイド フラボノイド色素	マメ科シタン (<i>Pterocarpus santalinus</i> LINNE) の幹枝より、水、熱時プロピレングルコール又は温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素はサンタリンである。紫赤色を呈する。	着色料	Sandalwood red
184	5'-シチジル酸		5'-CMP	酵母 (<i>Candida utilis</i>) の菌体より、食塩存在下熱時水で抽出した核酸を酵素で加水分解後、分離して得られたものである。成分は5'-シチジル酸である。	強化剤	5'-Cytidylic acid
185	ジャマイカカッシア抽出物 (ジャマイカカッシアの幹枝又は樹皮から得られた、クアシン及びネオクアシンを主成分とするものをいう。)	カッシアエキス	カッシア	ニガキ科ジャマイカカッシア (<i>Quassia excelsa</i> SW.) の幹枝又は樹皮より、水で抽出して得られたものである。有効成分はクアシン及びネオクアシンである。	苦味料等	Jamaica quassia extract
186	ショウガ抽出物 (ショウガの根茎から得られた、ショウガオール及びジングロールを主成分とするものをいう。)	ジンジャー抽出物		ショウガ科ショウガ (<i>Zingiber officinale</i> ROSC.) の根茎より、室温時エタノール、アセトン又はヘキサンで抽出して得られたものである。主成分はジングロール類及びショウガオール類である。	製造用剤	Ginger extract
187	焼成カルシウム (うに殻、貝殻、造礁サンゴ、ホエイ、骨又は卵殻を焼成して得られた、カルシウム化合物を主成分とするものをいう。)		焼成Ca		強化剤 製造用剤	Calcinated calcium
	うに殻焼成カルシウム		うに殻カルシウム うに殻Ca	うに殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated sea urchin shell calcium
	貝殻焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、焼成して得られたものである。成分は酸化カルシウムである。		Calcinated shell calcium
	骨焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、焼成して得られたものである。成分はリン酸カルシウムである。		Calcinated bone calcium
	造礁サンゴ焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目の (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated coral calcium
	乳清焼成カルシウム	乳清第三リン酸カルシウム ホエイ第三リン酸カルシウム ホエイリン酸三カルシウム	乳清リン酸カルシウム 乳清リン酸Ca ホエイリン酸カルシウム ホエイリン酸Ca	乳清 (酸カゼインホエイ) より乳清タンパクと乳糖を分離、除去したものを、精製し焼成して得られたものである。主成分はリン酸三カルシウムである。		Tricalcium phosphate
	卵殻焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。		Calcinated eggshell calcium
188	植物性ステロール (油糧種子から得られた、フィトステロールを主成分とするものをいう。)	フィトステロール	ステロール	油糧種子を粉砕し、抽出して得られた植物性油脂より、室温時～温時メタノール、エタノール、イソプロパノール、酢酸エチル、アセトン、又はヘキサンで抽出したものより得られたものである。主成分はフィトステロールである。	乳化剤	Vegetable sterol
189	植物炭末色素 (植物を炭化して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	植物を、水蒸気賦活法で高温に加熱し炭化したものである。主色素は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Vegetable carbon black
190	植物レシチン (アブラナ又はダイズの種子から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		アブラナ科アブラナ (<i>Brassica campestris</i> LINNE)、マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子より得られた油脂より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Vegetable lecithin
191	しらこたん白抽出物 (魚類の精巢から得られた、塩基性タンパク質を主成分とするものをいう。)	しらこたん白 しらこ分解物 プロタミン	核たん白 しらこ	アイナメ科アイナメ (<i>Hexagrammos otakii</i> JORDAN et STARKS)、サケ科カラフトマス (<i>Oncorhynchus gorbuscha</i> WALBAUM)、サケ科シロザケ (<i>Oncorhynchus keta</i> WALBAUM)、サケ科ベニザケ (<i>Oncorhynchus nerka</i> WALBAUM)、サバ科カツオ (<i>Katsuwonus pelamis</i> LINNAEUS) 若しくはニシン科ニシン (<i>Clupea pallasii</i> VALENCIENNES) の精巢 (しらこ) 中の核酸及び塩基性タンパク質を、室温時酸性水溶液で分解後、中和して得られたものである。主成分は塩基性タンパク質 (プロタミンヒストン) である。	保存料	Milt protein
192	水素			H ₂	製造用剤	Hydrogen
193	スクレログラム (スクレロチウムの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	スクレログルカン		不完全菌類 (<i>Sclerotium gluconicum</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Sclero gum Scleroglucan
194	ステビア抽出物 (ステビアの葉から抽出して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)	ステビアエキス ステビオサイド ステビオシド レバウジオリド レバウジオリド	ステビア ステビア甘味料	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉より、室温時～熱時水で抽出し、精製して得られたものである。主甘味成分はステビオール配糖体 (ステビオシド及びレバウジオリド等) である。	甘味料	Stevia extract
195	ステビア末 (ステビアの葉を粉砕して得られた、ステビオール配糖体を主成分とするものをいう。)		ステビア	キク科ステビア (<i>Stevia rebaudiana</i> BERTONI) の葉を、粉末としたものである。主甘味成分はステビオール配糖体 (ステビオシド及びレバウジオリド) である。	甘味料	Powdered stevia

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
196	スピルリナ色素 (スピルリナ全藻から得られた、 フィコシアニンを主成分とするものをいう。)	スピルリナ青色素	スピルリナ青	ユレモ科スピルリナ (<i>Spirulina platensis</i> (NORD.) GEITLER) の全藻より、室温時水で抽出して得られたものである。主色素はフィコシアニンである。青色を呈する。	着色料	Spirulina colour
197	スフィンゴ脂質 (ウシの脳又は米ぬかから得られた、 スフィンゴシン誘導体を主成分とするものをいう。)			ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の脳、イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子又は小麦 (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の胚芽から得られた米ぬかより、室温時～温時エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出したものより得られたものである。主成分はスフィンゴシン誘導体である。	乳化剤	Sphingolipid
198	生石灰			石灰石を、焼成して得られたものである。主成分は酸化カルシウムである。	製造用剤	Quicklime
199	精油除去ウイキョウ抽出物 (ウイキョウの種子から得られた、 グルコシルシナビルアルコールを主成分とするものをいう。)	精油除去フェンネル抽出物		セリ科ウイキョウ (<i>Foeniculum vulgare</i> LINNE) の種子を水蒸気蒸留した残渣より、熱時水で抽出し、濃縮して得られたものである。主成分は4-O- α -D-グルコシルシナビルアルコールである。	酸化防止剤	Essential oil-removed fennel extract
200	セイヨウワサビ抽出物 (セイヨウワサビの根から得られた、 イソチオシアナートを主成分とするものをいう。)	ホースラディッシュ抽出物		アブラナ科セイヨウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i> P. GAERTN., B. MEYER et SCHERR.) の根を、粉砕後、水蒸気蒸留で抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。	酸化防止剤 製造用剤	Horseradish extract
201	ゼイン (トウモロコシの種子から得られた、 植物性タンパク質を主成分とするものをいう。)	トウモロコシたん白		イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子を粉末化したものより、エタノール又はアセトンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はプロラミンに属する植物性タンパク質である。	製造用剤	Zein
202	ゼオライト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したゼオライトを精製して得られたものである。主成分は結晶性アルミノケイ酸塩である。	製造用剤	Zeolite
203	セサモリン		ゴマ油抽出物	「ゴマ油不けん化物」より、分離して得られたものである。成分はセサモリンである。	酸化防止剤	Sesamolin
204	セージ抽出物 (サルビアの葉から得られた、カルノ シン酸及びフェノール性ジテルペンを 主成分とするものをいう。)			シソ科サルビア (<i>Salvia officinalis</i> LINNE) の葉より、水、エタノール又はヘキサンで抽出して得られたものである。有効成分はフェノール性ジテルペノイド (ジテルペン) 及びカルノシン酸である。	酸化防止剤	Sage extract
205	セスパニアガム (シロゴチョウの種子から得られた、 多糖類を主成分とするものをいう。)			マメ科シロゴチョウ (<i>Sesbania grandiflora</i> PERS.) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Sesbania gum
206	セピオライト			鉱石セピオライトを、粉砕して得られたものである。主成分はイノケイ酸のマグネシウム塩である。	製造用剤	Sepiolite
207	L-セリン		セリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-セリンである。	調味料 強化剤	L-Serine
208	セルラーゼ	繊維素分解酵素	カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Acremonium cellulolyticus</i> , <i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Humicola insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma insolens</i> , <i>Trichoderma koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma reesei</i> , <i>Trichoderma viride</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i> , <i>Irpep</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Actinomyces</i> , <i>Streptomyces</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus circulans</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Cellulase
209	粗製海水塩化カリウム (海水から塩化ナトリウムを析出分離 して得られた、塩化カリウムを主成分 とするものをいう。)			海水を、濃縮し、塩化ナトリウムを析出分離させた後、そのろ液を、室温まで冷却し、析出分離させたものである。主成分は塩化カリウムである。	調味料	Crude potassium chloride (sea water)
210	粗製海水塩化マグネシウム (海水から塩化カリウム及び塩化ナト リウムを析出分離して得られた、塩化 マグネシウムを主成分とするものをい う。)	塩化マグネシウム 含有物		海水より、塩化ナトリウムを析出分離し、その母液を冷却して析出する塩化カリウム等を分離した残りのものである。主成分は塩化マグネシウムである。	製造用剤	Crude magnesium chloride (sea water)
211	ソバ柄灰抽出物 (ソバの茎又は葉の灰化物から抽出し て得られたものをいう。)		植物灰抽出物	タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH.) の茎又は葉を灰化したものより、熱時水で抽出して得られたものであって、アルカリ金属及びアルカリ土類金属を含む。	製造用剤	Buckwheat ash extract
212	ソルバ (ソルバの分泌液から得られた、アミ リンアセタート及びポリイソブレンを 主成分とするものをいう。)	ベリージョ ペンダーレ レッチャカスピ		キョウチクトウ科ソルバ (<i>Couma macrocarpa</i> BARB. RODR.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース	Sorva Leche caspi
213	ソルビンハ (ソルビンハの分泌液から得られた、 アミリンアセタート及びポリイソブ レンを主成分とするものをいう。)	ソルバベケーニヤ		キョウチクトウ科ソルビンハ (<i>Couma utilis</i> MUELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びシスポリイソブレンである。	ガムベース	Sorvinha

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
214	L-ソルボース		ソルボース	グルコン酸菌 (<i>Gluconobacter</i>) 又は酢酸菌 (<i>Acetobacter</i>) によるD-グルコース又はその還元物質の発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はL-ソルボースである。	甘味料	L-Sorbose
215	ダイズサポニン (ダイズの種子から得られた、サポニンを主成分とするものをいう。)		サポニン	マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> HERRILL) の種子を粉砕し、水又はエタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はサポニン (ソヤサポニン等) である。	乳化剤	Soybean saponin
216	タウマチン (タウマトコッカスダニエリの種子から得られた、タウマチンを主成分とするものをいう。)	ソーマチン		クズウコン科タウマトコッカス・ダニエリ (<i>Thaumatococcus daniellii</i> BENTH) の種子より、室温時酸性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はタウマチンである。	甘味料	Thaumatococcus
217	タウリン (抽出物) (魚類又はほ乳類の臓器又は肉から得られた、タウリンを主成分とするものをいう。)		タウリン	魚類又はほ乳類の臓器又は肉より、水で抽出し、精製して得られたものである。主成分はタウリンである。	調味料	Taurine (extract)
218	タマネギ色素 (タマネギのりん茎から得られた、クエルセチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素 野菜色素	ユリ科タマネギ (<i>Allium cepa</i> LINNE) のりん茎より、温時～熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はクエルセチンである。黄色を呈する。	着色料	Onion colour
219	タマリンド色素 (タマリンドの種子から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)		フラボノイド フラボノイド色素	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子を焙焼したものより、温時弱アルカリ性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。赤褐色を呈する。	着色料	Tamarind colour
220	タマリンドシードガム (タマリンドの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	タマリンドガム タマリンド種子多糖類	タマリンド	マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子の胚乳部分より、温時～熱時水若しくはアルカリ性水溶液で抽出して得られたもの又はこれを酵素 (β -ガラクトシダーゼ、ラクターゼ) 処理したものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tamarind seed gum
221	タラガム (タラの種子から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			マメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOL.) (O. KUNTZE)) の種子の胚乳部分を、粉砕して得られたもの又はこれを温時～熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tara gum
222	タルク		不溶性鉱物性物質	カンラン岩、輝石、又はドロマイト若しくはマグネサイト等の滑石片岩等より、混在物を除き、微粉末化したものである。主成分は含水ケイ酸マグネシウムである。	ガムベース 製造用剤	Talc
223	胆汁末 (胆汁から得られた、コール酸及びデソキシコール酸を主成分とするものをいう。)	コール酸 デソキシコール酸		動物の胆汁を、粉末化して得られたものである。主成分はコール酸及びデソキシコール酸である。	乳化剤	Powdered bile
224	単糖・アミノ酸複合物 (アミノ酸と単糖類の混合物を加熱して得られたものをいう。)		糖・アミノ酸複合物	アミノ酸と単糖類の混合液を、常圧下で加熱して得られたものである。	酸化防止剤	Amino acid-sugar reaction product
225	タンナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は濃縮後、冷時～室温時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Tannase
226	タンニン (抽出物) (カキの果実、クリの渋皮、五倍子、タマリンドの種皮、タラ末、没食子又はミモザの樹皮から得られた、タンニン及びタンニン酸を主成分とするものをいう。)	タンニン酸 (抽出物)	タンニン タンニン酸		製造用剤	Tannin (extract)
	柿タンニン	柿渋 柿抽出物		カキ科カキ (<i>Diospyros kaki</i> THUNB.) の実より、搾汁したもの、又は水若しくはエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of persimmon
	栗皮タンニン			ブナ科クリ (<i>Castanea crenata</i> SIEB. et ZUCC.) の渋皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of chestnut skin
	植物タンニン			五倍子、タラ末又は没食子より、温時水で抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Vegetable tannin
	タマリンドタンニン			マメ科タマリンド (<i>Tamarindus indica</i> LINNE) の種子の種皮より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tamarind tannin
	ミモザタンニン			マメ科ミモザ (<i>Acacia dealbata</i> LINNE) の樹皮より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はタンニン及びタンニン酸である。		Tannin of silver wattle
227	ダンマル樹脂 (ダンマルの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			フタバガキ科 (<i>Shorea wiesneri</i> SCHRFF.) 又はナンヨウスギ科 (<i>Agathis dammara</i> L. C. RICHARD, <i>Agathis lanceolata</i> PANCH.) の分泌液より、熱時エタノール又は酢酸エチルで抽出し、ろ液から溶媒を留去し、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤 ガムベース	Dammar resin
228	チクル (サボジラの分泌液から得られた、アミリンアセート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	クラウンガム チクブル ニスベロ		アカテツ科サボジラ (<i>Achras zapota</i> LINNE) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したもので得られたものである。主成分はアミリンアセート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Chicle Chiquibul Crown gum Nispero

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
229	窒素			N ₂	製造用剤	Nitrogen
230	チャ乾留物 (チャの葉を乾留して得られたものをいう。)			ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶を、乾留して得られたものである。有効成分は特定できないが、アミノ酸、カフェイン、タンニン、カテキン類を含む。	製造用剤	Tea dry distillate
231	チャ種子サポニン (チャの種子から得られた、サポニン を主成分とするものをいう。)	ティーシードサポ ニン	サポニン	ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の種子を、ヘキサンで脱脂した後、エタノールで還流抽出して得られたものである。主成分はサポニン(ティーサポニン等)である。	乳化剤	Tea seed saponin
232	チャ抽出物 (チャの葉から得られた、カテキン類 を主成分とするものをいう。)	ウーロンチャ抽出 物 緑茶抽出物		ツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より製した茶より、室温時、温時又は熱時、水、酸性水溶液、含水エタノール、エタノール、含水メタノール、メタノール、アセトン、酢酸エチル又はグリセリン水溶液で抽出したものより得られたものである。成分としてカテキン類を含む。なお、チャの葉の処理方法によりウーロンチャ抽出物と呼ばれるものがある。	酸化防止剤 製造用剤	Tea extract
233	チルテ (チルテの分泌液から得られた、アミ リンアセタート及びポリイソブレンを 主成分とするものをいう。)			トウダイグサ科チルテ (<i>Cnidocolus elasticus</i> LUNDELL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Chilte
234	L-チロシン	L-チロジン	チロシン チロジン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-チロシンである。	調味料 強化剤	L-Tyrosine
235	ツヌー (ツヌーの分泌液から得られた、アミ リンアセタート及びポリイソブレンを 主成分とするものをいう。)			クワコツヌー (<i>Castilla fallax</i> COOK) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものより得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Tunu
236	ツヤプリシン(抽出物) (ヒバの幹枝又は根から得られた、ツ ヤプリシン類を主成分とするものをい う。)	ヒノキチオール (抽出物)	ヒノキチオール	ヒノキ科ヒバ(<i>Thuopsis dolabrata</i> SIEB. et ZUCC.) の幹枝又は根より水蒸気蒸留して得られたものを、室温時アルカリ性水溶液で精油を除去し、中和後、ヘキサンで再結晶させた後、溶媒を除去したものである。主成分はβ-ツヤプリシンである。	保存料	Thujaplicin (extract) Hinokitilol (extract)
237	5'-デアミナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus oryzae</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	5'-Deaminase
238	低分子ゴム (パラゴムの分泌液を分解して得られ た、ポリイソブレンを主成分とするも のをいう。)			トウダイグサ科パラゴム (<i>Hevea brasiliensis</i> MUELL.-ARG.) の幹枝より得られるラテックスを、加熱分解して得られたもの、又は酵素分解して得られたものである。主成分はシスポリイソブレンである。	ガムベース	Depolymerized natural rubber
239	デオブロミン			アオギリ科カカオ (<i>Theobroma cacao</i> LINNE) の種子、アオギリ科コーラ (<i>Cola acuminata</i> SCHOTT et ENDL.) の種子又はツバキ科チャ (<i>Camellia sinensis</i> O. KZE.) の葉より、水又はエタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はデオブロミンである。	苦味料等	Theobromine
240	デキストラナーゼ			糸状菌 (<i>Chaetomium erraticum</i> , <i>Chaetomium gracile</i> , <i>Penicillium lilacinum</i>) の培養液より、冷時～室温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、除菌後、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Dextranase
241	デキストラン		ブドウ糖多糖	グラム陽性細菌 (<i>Leuconostoc mesenteroides</i> , <i>Streptococcus bovis</i> ORLA-JENSEN) の培養液より、分離して得られたものである。成分はデキストランである。	増粘安定剤	Dextran
242	鉄			⁵⁴ Fe, ⁵⁶ Fe, ⁵⁷ Fe, ⁵⁸ Fe	強化剤 製造用剤、	Iron
243	デュナリエカロテン (デュナリエの全藻から得られた、β- カロテンを主成分とするものをいう。)	藻類カロチン 藻類カロテン デュナリエカロ チン ドナリエカロチ ン ドナリエカロテ ン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロテン カロチン色素	オオヒゲマワリ科デュナリエ (<i>Dunaliella bardawil</i> , <i>Dunaliella salina</i>) の全藻より、熱時油脂で、又は室温時～熱時ヘキサン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られたものである。主成分はカロチノイド(β-カロテン等)である。黄色を呈する。	強化剤 着色料	Dunaliella carotene
244	電気石	トルマリン		電気石(トルマリン)の結晶を粉碎、精製して得られたものである。	製造用剤	Tourmaline
245	銅			⁶³ Cu, ⁶⁵ Cu	製造用剤	Copper
246	トウガラシ色素 (トウガラシの果実から得られた、カ プサンチン類を主成分とするものをい う。)	カプシカム色素 パプリカ色素	カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素	ナス科トウガラシ (<i>Capsicum annum</i> LINNE) の果実より、熱時油脂で抽出して得られたもの、室温時～微温時ヘキサン又はエチルアルコールで抽出して得られたもの、温時加圧下に二酸化炭素で抽出して得られたもの、又はこれらより、温時加圧下に二酸化炭素で辛味成分を除去したものである。主色素はカプサンチンの脂肪酸エステルである。橙色～赤色を呈する。	着色料	Paprika colour Paprika oleoresin

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
247	トウガラシ水性抽出物 (トウガラシの果実から抽出して得られた、水溶性物質を主成分とするものをいう。)	ガブシカム水性抽出物 パブリカ水性抽出物	カプシカム抽出物 トウガラシ抽出物 パブリカ抽出物	ナス科トウガラシ (<i>Capsicum annuum</i> LINNE) の果実より、室温時含水エタノールで抽出したもので、タンパク質、ペプチド、ビタミンを含む。	製造用剤	Capsicum water-soluble extract
248	動物性ステロール (魚油又は「ラノリン」から得られた、コレステロールを主成分とするものをいう。)	コレステロール	ステロール	魚油の不けん化物又は「ラノリン」より、加水分解したもの、又は有機溶剤で抽出したものより得られたものである。主成分はコレステロールである。	乳化剤	Cholesterol
249	ドクダミ抽出物 (ドクダミの葉から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	ドクダミ科ドクダミ (<i>Houttuynia cordata</i> THUNB.) の葉より、エタノールで抽出し、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。	酸化防止剤	Dokudami extract
250	トコリエノール			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬか油、ヤシ科アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> JACQ.) のパーム油等より、分離して得られたものである。成分はトコリエノールである。	酸化防止剤	Tocotrienol
251	d- α -トコフェロール	α -ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール α -トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd- α -トコフェロールである。	酸化防止剤 強化剤	d- α -Tocopherol
252	d- γ -トコフェロール	γ -ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール γ -トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd- γ -トコフェロールである。	酸化防止剤 強化剤	d- γ -Tocopherol
253	d- δ -トコフェロール	δ -ビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール δ -トコフェロール ビタミンE V.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トウモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂又は「ミックストコフェロール」より、分離して得られたものである。成分はd- δ -トコフェロールである。	酸化防止剤 強化剤	d- δ -Tocopherol
254	トマト色素 (トマトの果実から得られた、リコピンを主成分とするものをいう。)	トマトリコピン	カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 野菜色素	ナス科トマト (<i>Lycopersicon esculentum</i> MILL.) の果実より、油脂で抽出したもの、果実を脱水し、室温時若しくは熱時、ヘキサン、酢酸エチル若しくはアセトンで抽出し、溶媒を留去したもの、又はトマトの果実の搾汁より分離して得られたものである。主色素はリコピンである。黄色～赤色を呈する。	着色料	Tomato colour Tomato lycopene
255	トラガントガム (トラガントの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		トラガント	マメ科トラガント (<i>Astragalus gummifer</i> LABILL.) の分泌液を、乾燥して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tragacanth gum
256	トランスグルコシダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus usami</i>)、細菌 (<i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Transglucosidase
257	トランスグルタミナーゼ			動物の肝臓より、又は放線菌 (<i>Streptomyces</i> , <i>Streptoverticillium mobaraense</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、室温時水で抽出後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Transglutaminase
258	トリアシルグリセロールリパーゼ			グラム陰性細菌 (<i>Serratia marcescens</i>) の培養液より、除菌後、濃縮したものより得られたものである。	酵素	Triacylglycerol lipase
259	トリプシン			動物のすい臓、若しくは魚類又は甲殻類の臓器より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、冷時～室温時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Trypsin
260	トレハロース			担子菌 (<i>Agaricus</i> 等)、細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Brevibacterium</i> , <i>Pinellobacter</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Thermus</i> 等) 又は酵母 (<i>Saccharomyces</i> 等) の培養液又は菌体より、水若しくはアルコールで抽出して得られたもの、これを酵素によるでん粉の糖化液より分離して得られたもの、又はマルトースを酵素処理して得られたものである。成分はトレハロースである。	製造用剤	Trehalose
261	トレハロースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リゾチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	酵素	Trehalose phosphorylase
262	トロロアオイ (トロロアオイの根から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			アオイ科トロロアオイ (<i>Abelmoschus manihot</i> MED.) の根を、乾燥、粉砕して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Tororoaoi
263	納豆菌ガム (納豆菌の培養液から得られた、ポリグルタミン酸を主成分とするものをいう。)	納豆菌粘質物	ポリグルタミン酸	納豆菌 (<i>Bacillus subtilis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分はポリグルタミン酸である。	増粘安定剤	Bacillus natto gum

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
264	ナフサ	石油ナフサ		石油蒸留物を、精製して得られたものである。成分はパラフィン系及びナフタレン系炭化水素である。	製造用剤	Petroleum naphtha
265	生コーヒー豆抽出物 (コーヒーの種子から得られた、クロロゲン酸及びポリフェノールを主成分とするものをいう。)			アカネ科コーヒー (<i>Coffea arabica</i> LINNE) の種子より、温時アスコルビン酸又はクエン酸酸性水溶液で抽出して得られたものである。有効成分は、クロロゲン酸及びポリフェノールである。	酸化防止剤	Coffee bean extract
266	ナリンジナーゼ	ナリンジナーゼ		糸状菌 (<i>Aspergillus usami</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Naringinase
267	ナリンジン	ナリンギン		ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACR.) の果皮、果汁又は種子より、水又は室温時エタノール若しくはメタノールで抽出し、分離して得られたものである。成分はナリンジンである。	苦味料等	Naringin
268	ニガキ抽出物 (ニガキの幹枝又は樹皮から得られた、クアシンを主成分とするものをいう。)	クワツシャエキス	クワツシャ	ニガキ科ニガキ (<i>Picrasma quassioides</i> BENN.) の幹枝又は樹皮より、水で抽出して得られたもの、又はメタノールで抽出したものから得られたものである。有効成分はクアシンである。	苦味料等	Quassia extract
269	ニガークグッタ (ニガークグッタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソプレンを主成分とするものをいう。)			クワ科ニガークグッタ (<i>Ficus platyphylla</i> DELILE.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水浴成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソペンである。	ガムベース	Niger gutta
270	ニガヨモギ抽出物 (ニガヨモギの全草から得られた、セスキテルペンを主成分とするものをいう。)		ニガヨモギ	キク科ニガヨモギ (<i>Artemisia absinthium</i> LINNE) の全草より、水又は室温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はセスキテルペン (アブシンチン等) である。	苦味料等	Absinth extract
271	ニストース	結晶ニストース		ショ糖を酵素 (フルクトシルトランスフェラーゼ) 処理した後、分離して得られたものである。成分はニストースである。	製造用剤	Nystose
272	ニッケル			⁵⁸ Ni, ⁶⁰ Ni, ⁶¹ Ni, ⁶² Ni, ⁶⁴ Ni	製造用剤	Nickel
273	ニューコウ (ニューコウの分泌液から得られた、α-ボスウェリン酸及びβ-ボスウェリン酸を主成分とするものをいう。)			カンラン科ニューコウ (<i>Boswellia frereana</i> BIRDW.) の分泌液より分離して得られたオレオレジン、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分は、α、β-ボスウェリン酸である。	ガムベース	Olibanum
274	ニンジンカロテン (ニンジンの根から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	キャロットカロチン キャロットカロチン ニンジンカロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロテン カロテン色素	セリ科ニンジン (<i>Daucus carota</i> LINNE) の根の乾燥物より、熱時油脂で、又は室温時若しくは微温時ヘキサン、アセトン若しくは加圧下二酸化炭素で抽出して得られたものである。主成分はカロチノイド (カロテン等) である。黄色～橙色を呈する。	強化剤 着色料	Carrot carotene
275	ニンニク抽出物 (ニンニクのりん茎から得られた、アリルスルフィドを主成分とするものをいう。)			ユリ科ニンニク (<i>Allium sativum</i> LINNE) のりん茎より、有機溶剤で抽出して得られたものである。主成分はアリルスルフィドである。	製造用剤	Garlic extract
276	ばい煎コメヌカ抽出物 (米ぬかから得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の米ぬかを脱脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去したものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted rice bran extract
277	ばい煎ダイズ抽出物 (ダイズの種子から得られた、マルトールを主成分とするものをいう。)			マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子を脱脂し、ばい煎したものを、熱時水で抽出後、温時エタノールでタンパク質を除去して得られたものである。成分としてマルトールを含む。	製造用剤	Roasted soybean extract
278	パーオキシダーゼ	ペルオキシダーゼ		アブラナ科セイウワサビ (<i>Armoracia rusticana</i>)、アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus acanthiformis</i>) 若しくはキュウリ科キュウリ (<i>Cucumis sativus</i>) より搾汁したもの、又は糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Coprinus cinereus</i> , <i>Oidiodendron</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、若しくは冷時～室温時濃縮後、エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Peroxidase
279	白金			¹⁹² Pt, ¹⁹⁴ Pt, ¹⁹⁵ Pt, ¹⁹⁶ Pt, ¹⁹⁸ Pt	製造用剤	Platinum
280	パパイン			パパイヤ科パパイヤ (<i>Carica papaya</i> LINNE) の果実より、搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	酵素	Papain
281	パフィア抽出物 (パフィアの根から得られた、エクスステロイド及びサポニンを主成分とするものをいう。)	パフィアエキス		ヒコ科パフィア (<i>Paffia iresinoides</i> SPRENGEL) の根より、微温時含水エタノールで抽出したものより得られたものである。主成分はエクスステロイド及びサポニン等である。	製造用剤	Paffia extract
282	パーム油カロテン (アブラヤシの果実から得られた、カロテンを主成分とするものをいう。)	パーム油カロチン 抽出カロチン 抽出カロテン	カロチノイド カロチノイド色素 カロチン カロチン色素 カロチノイド カロチノイド色素 カロテン カロテン色素	ヤシ科アブラヤシ (<i>Elaeis guineensis</i> JACQ.) の果実から得られたパーム油より、室温時シリカゲルで吸着し、ヘキサンで分離して得られたもの、又はパーム油の不けん化物より、熱時含水メタノールで分別して得られたものである。主成分はカロテンである。黄色～橙色を呈する。	強化剤 着色料	Palm oil carotene

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
283	パーライト		不溶性鉱物性物質	ガラス質鉱物より得られた鉱物性二酸化ケイ素を、800～1200℃で焼成し、多孔質として得られたものである。	製造用剤	Perlite
284	パラジウム			¹⁰² Pd, ¹⁰⁴ Pd, ¹⁰⁶ Pd, ¹⁰⁸ Pd, ¹¹⁰ Pd	製造用剤	Palladium
285	パラフィンワックス	パラフィン		原油を減圧蒸留して得られる潤滑油分画より、冷時プロパンで脱レキシ、脱ロウシ、脱油したものより得られたもの、又は熟時エチルメチルケトンで処理し、溶剤を除去したものより得られたものでC ₂₀ ～C ₄₀ の炭化水素を含む。	ガムベース 光沢剤	Paraffin wax
286	パンクレアチン			動物のすい臓より、室温時水で抽出し、冷時～室温時アセトンで処理して得られたものである。	酵素	Pancreatin
287	ヒアルロン酸		ムコ多糖	鶏冠より、微温時～温時水、アルカリ性水溶液若しくは酸性水溶液で抽出し、エタノール若しくは含水エタノールで処理、若しくは酵素処理した後エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Streptococcus zooepidemicus</i>) の培養液を、冷時～温時、除菌し、エタノール若しくは含水エタノールで処理し、精製して得られたものである。成分はヒアルロン酸である。	製造用剤	Hyaluronic acid
288	ヒキオコシ抽出物 (ヒキオコシの茎又は葉から得られた、エンメインを主成分とするものをいう。)		ヒキオコシ	シソ科ヒキオコシ (<i>Isodon japonicus</i> HARA) の茎又は葉より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はジテルペノイド (エンメイン等) である。	苦味料等	Isodonis extract
289	微結晶セルロース (バルブから得られた、結晶セルロースを主成分とするものをいう。)	結晶セルロース	セルロース	バルブを、鉱酸で加水分解し、非結晶領域を除いて得られたものである。主成分は結晶セルロースである。	製造用剤	Microcrystalline cellulose
290	微小繊維状セルロース (バルブ又は綿を微小繊維状にして得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	バルブ又は綿を、均質化処理し、微小繊維状にして得られたものである。主成分はセルロースである。	増粘安定剤 製造用剤	Microfibrillated cellulose
291	L-ヒスチジン		ヒスチジン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-ヒスチジンである。	調味料 強化剤	L-Histidine
292	ビートレッド (ビートの根から得られた、イソペタニン及びペタニンを主成分とするものをいう。)	アカビート色素	アカビート 野菜色素	アカザ科ビート (<i>Beta vulgaris</i> LINNE) の赤い根より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水、酸性水溶液若しくは含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はペタニン及びイソペタニンである。赤色を呈する。	着色料	Beet red
293	L-ヒドロキシプロリン	L-オキシプロリン	オキシプロリン ヒドロキシプロリン	ゼラチン等を、加水分解し、分離して得られたものである。主成分はL-ヒドロキシプロリンである。	調味料 強化剤	L-Hydroxyproline
294	ヒマワリ種子抽出物 (ヒマワリの種子から得られた、イソクロゲン酸及びクロゲン酸を主成分とするものをいう。)	ヒマワリエキス ヒマワリ種子エキ ス ヒマワリ抽出物	ヒマワリ種子	キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE) の種子又は種子の搾油相より、熱時水又は含水エタノールで抽出して得られたものである。有効成分はイソクロゲン酸及びクロゲン酸である。	酸化防止剤	Sunflower seed extract
295	ヒメマツタケ抽出物 (ヒメマツタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)		ヒメマツタケ	担子菌ヒメマツタケ (<i>Agaricus blazei</i> MURR.) の菌糸体若しくは子実体又はその培養液より、水で抽出して得られたものである。	苦味料等	Himematsutake extract
296	ビメント果抽出物 (ビメントの果実から得られた、オイゲノール及びチモールを主成分とするものをいう。)	ビメント果抽出物		フトモモ科ビメント (<i>Pimenta dioica</i> MERRILL) の果実より、エタノールで抽出し、濃縮して得られたものである。有効成分はオイゲノール及びチモールである。	酸化防止剤	Pimento extract
297	ひる石		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘したひる石を、1000℃で焼成し、洗浄した後、乾燥して得られたものである。主成分はケイ酸塩である。	製造用剤	Vermiculite
298	ファーセララン (フルセラリアの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)			ススカケベニ科フルセラリア (<i>Furcellaria fastigiata</i> HUD.) の全藻より、熱時水又はアルカリ性水溶液で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Furcellaran
299	ファフィア色素 (ファフィアの培養液から得られた、アスタキサンチンを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロテノイド色素	酵母 (<i>Phaffia rhodozyma</i> MILLER) の培養液より、室温時アセトン、エタノール、含水エタノール、ヘキサン又はこれらの混合液で抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主色素はアスタキサンチンである。橙色～赤色を呈する。	着色料	Phaffia colour
300	フィシン	ファイシン		クワ科イチジク (<i>Ficus carica</i> LINNE) 又はクワ科ヒゴ (<i>Ficus glabrata</i> H.B. et K.) の樹液を、乾燥したもの、又はこれより、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。成分はフィシンである。	酵素	Ficin
301	フィターゼ		ホスホヒドロラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i>) の培養液より水で抽出し、濃縮して得られたものである。	酵素	Phytase
302	フィチン酸 (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸を主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水又は酸性水溶液で抽出し、精製して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸である。	酸味料 製造用剤	Phytic acid

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
303	フィチン (抽出物) (米ぬか又はトウモロコシの種子から得られた、イノシトールヘキサリン酸マグネシウムを主成分とするものをいう。)		フィチン	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の種子より得られた米ぬか又はイネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種子より、室温時水で抽出して得られたものである。主成分はイノシトールヘキサリン酸マグネシウムである。	製造用剤	Phytin (extract)
304	フェリチン		鉄たん白 鉄たん白質	ウシ科ウシ (<i>Bos taurus</i> LINNE) の脾臓より、熱時水で抽出し、塩析法で分離し、膜ろ過により得られたものである。成分はフェリチンである。	強化剤 (	Ferritin
305	フェルラ酸			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の糠より得られた米糠油を、室温時弱アルカリ性下で含水エタノール及びヘキサンで分配した後、含水エタノール画分に得られたγ-オリザノールを、加圧下熱時硫酸で加水分解し、精製して得られたもの、又は細菌 (<i>Pseudomonas</i>) を、フトモ科チョウジノキ (<i>Syzgium aromaticum</i> MERRILL et PERRY) のつぼみ及び葉より水蒸気蒸留で得られた丁子油、又は丁子油から精製して得られたオイゲノールを含む培養液で培養し、その培養液を、分離、精製して得られたものである。成分はフェルラ酸である。	酸化防止剤	Ferulic acid
306	フクロノリ抽出物 (フクロノリの全藻から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	フクロノリ多糖類 フクロノリ多糖類 フクロノリ抽出物		フノリ科フクロノリ (<i>Gloiopeltis furcata</i> POSTEL et RUPR) の全藻より、熱時水で抽出して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Fukuronori extract
307	ブタン			石油若しくは天然ガス成分中、n-ブタンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Butane
308	ブドウ果皮色素 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、アントシアニンを主成分とするものをいう。)	エノシアン	アントシアニン アントシアニン色素 ブドウ色素	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の果皮より、室温時水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニン (マルビジン-3-グルコシド等) である。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Grape skin colour Grape skin extract
309	ブドウ果皮抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの果皮から得られた、ポリフェノールを主成分とするものをいう。)			ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) のうち、生食用又は醸造用ブドウの甲州、シャルドネ若しくはリースリング種の果皮搾粕より、室温時～微温時エタノールで抽出して得られたものである。主成分はポリフェノールである。	製造用剤	Grape skin-derived substance
310	ブドウ種子抽出物 (アメリカブドウ又はブドウの種子から得られた、プロアントシアニンを主成分とするものをいう。)		プロアントシアニン	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の種子より、熱時水、温時エタノール若しくは室温時アセトンで抽出したものより得られたもの、又はこの抽出物を、酵母を用いて発酵処理したものより得られたもの、若しくはタンナーゼにより加水分解処理したものより得られたものである。主成分はプロアントシアニンである。	酸化防止剤 製造用剤	Grape seed extract
311	ブラジルカンゾウ抽出物 (ブラジルカンゾウの根から得られた、ペリアンドリンを主成分とするものをいう。)	ペリアンドリン	ブラジルカンゾウ	マメ科ブラジルカンゾウ (<i>Periandra dulcis</i> MART.) の根より、水で抽出したものより得られたものである。甘味成分はペリアンドリンである。	甘味料	Brazilian licorice extract
312	フルクトシルトランスフェラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium rouxii</i>) 又は細菌 (<i>Arthrobacter</i> , <i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は除菌後、冷時～室温時濃縮して得られたものである。	酵素	Fructosyl transferase
313	プルランナーゼ		アミラーゼ カルボヒドラーゼ	細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Klebsiella</i> , <i>Sulfolobus solfataricus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもので、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分離した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Pullulanase
314	プルラン			黒酵母 (<i>Aureobasidium pullulans</i> (DE BARY) ARN.) の培養液より、分離して得られた多糖類である。成分はプルランである。	増粘安定剤 製造用剤	Pullulan

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
315	プロテアーゼ	たん白分解酵素		動物、魚類若しくは甲殻類の筋肉若しくは臓器より、冷時～温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus melleus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus saitoi</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Monascus pilosus</i> , <i>Monascus purpureus</i> , <i>Mucor circinelloides</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor michei</i> , <i>Mucor rouxii</i> , <i>Penicillium citrinum</i> , <i>Penicillium dupontii</i> , <i>Rhizomucor michei</i> , <i>Rhizopus chinensis</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、担子菌 (<i>Pycnoporus coccineus</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Bacillus amyloliquefaciens</i> , <i>Bacillus coagulans</i> J4, <i>Bacillus lentus</i> , <i>Bacillus licheniformis</i> , <i>Bacillus polymixa</i> , <i>Bacillus stearothermophilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i> , <i>Bacillus thermoproteolyticus</i> , <i>Pseudomonas paucimobilis</i>) 若しくは酵母 (<i>Saccharomyces</i>) の培養より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時～室温時樹脂精製して得られたもの、若しくはこれより、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの若しくは硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Protease
316	プロパン			石油若しくは天然ガス成分中、n-プロパンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Propane
317	プロポリス抽出物 (ミツバチの巣から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)			ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis mellifera</i> LINNE, <i>Apis indica</i> RODOSZKOWSKI) の巣より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はフラボノイドである。	酸化防止剤	Propolis extract
318	ブロメライン	ブロメリン		パイナップル (<i>Ananas comosus</i> MERRILL) の果実若しくは根茎より、搾汁した後、乾燥したもの、又はこれより、室温時水で抽出し、冷時～室温時エタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	酵素	Bromelain
319	L-プロリン		プロリン	タンパク質原料の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-プロリンである。	調味料 強化剤	L-Proline
320	分別レシチン (「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」から得られた、スフィンゴミエリン、フォスファチジルイノシトール、フォスファチジルエタノールアミン及びフォスファチジルコリンを主成分とするものをいう。)	レシチン分別物 レシチン		「植物レシチン」又は「卵黄レシチン」より、室温時～温時メタノール、エタノール、含水エタノール、イソプロピルアルコール、アセトン、ヘキサン又は酢酸エチルで抽出して得られたものである。主成分は、フォスファチジルコリン、フォスファチジルエタノールアミン、フォスファチジルイノシトール、スフィンゴミエリンである。	乳化剤	Fractionated lecithin Cephalin Lipoinositol
321	粉末セルロース (パルプを分解して得られた、セルロースを主成分とするものをいう。ただし、「微結晶セルロース」を除く。)		セルロース	パルプ繊維を、加水分解したもの、又は短繊維を、分解して得られたセルロースである。	製造用剤	Powdered cellulose
322	粉末モミガラ (イネのもみ殻から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)			イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) のもみ殻を、微粉砕して得られたものである。主成分はセルロースである。	ガムベース	Powdered rice hulls
323	ペカンナッツ色素 (ピーカンの果皮又は渋皮から得られた、フラボノイドを主成分とするものをいう。)	ピーカンナッツ色素	フラボノイド フラボノイド色素	クルミ科ピーカン (<i>Carya pecan</i> ENGL. et GRAEBN.) の果皮又は渋皮より、熱時水若しくは含水エタノールで抽出して得られたもの又は熱時酸性水溶液で抽出し、中和して得られたものである。主色素はフラボノイドである。褐色を呈する。	着色料	Pecan nut colour
324	ヘキサン			石油成分中、n-ヘキサンの沸点付近の留分である。	製造用剤	Hexane
325	ペクチナーゼ		カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus alliaceus</i> , <i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus japonicus</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus pulverulentus</i> , <i>Aspergillus ussami</i> , <i>Rhizopus oryzae</i> , <i>Trichoderma</i>)、細菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>) 若しくは酵母 (<i>Trichosporon</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又は冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Pectinase
326	ペクチン			アカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER)、キク科ヒマワリ (<i>Helianthus annuus</i> LINNE)、ミカン科アマダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK)、ミカン科グレープフルーツ (<i>Citrus paradisi</i> MACF.)、ミカン科ライム (<i>Citrus aurantifolia</i> SWINGLE)、ミカン科レモン (<i>Citrus limon</i> BURM. f.) 又はバラ科リンゴ (<i>Malus pumila</i> MILLER) より、熱時水又は酸性水溶液で抽出したものより得られたもの又はこれをアルカリ性水溶液若しくは酵素で分解したものより得られたものである。成分はメチル化ポリガラクトuron酸等の多糖類である。	増粘安定剤	Pectin
327	ペクチン分解物 (「ペクチン」から得られた、ガラクトuron酸を主成分とするものをいう。)		分解ペクチン	「ペクチン」を、酵素で分解して得られたものである。主成分はガラクトuron酸である。	保存料	Pectin digests

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
328	ヘゴ・イチョウ抽出物 (イチョウ及びヘゴの葉から抽出して得られたものをいう。)			ヘゴ科ヘゴ (<i>Cyathea fauriei</i> COPEL.) 及びイ チョウ科イチョウ (<i>Ginkgo biloba</i> LINNE) の葉 を9:1の比率で混合し、熱湯水で抽出して得られ たものである。	酸化防止剤	Hego-Ginkgo leaf extract
329	ヘスベリジナーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus</i> , <i>Penicillium decumbens</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時～ 室温時濃縮後、冷時エタノールで処理して得られ たものである。	酵素	Hesperidinase
330	ヘスベリジン	ビタミンP		柑橘類の果皮、果汁又は種子より、室温時アルカ リ性水溶液で抽出して得られたものである。成分 はヘスベリジンである。	強化剤	Hesperidin Vitamin P
331	ヘスベレチン			「ヘスベリジン」を、弱酸性水溶液で加水分解 後、水不溶物より分離して得られたものである。 成分はヘスベレチンである。	酸化防止剤	Hesperetin
332	ベタイン			アカザ科サトウダイコン (<i>Beta vulgaris</i> LINNE var. <i>rapa</i> DUMORTIER) の糖蜜より、分離して得 られたものである。成分はベタインである。	調味料	Betaine
333	ベニコウジ黄色素 (ベニコウジカビの培養液から得られ た、キサントモナシン類を主成分とす るものをいう。)	モナスカス黄色素	紅麹 紅麹色素 モナスカス モナスカス色素	子う菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus purpureus</i> WENT.) の培養液を乾燥し、粉碎したものより、 微温時弱塩酸性エタノールで抽出し、中和して 得られたものである。主色素はキサントモナシン 類である。黄色を呈する。	着色料	Monascus yellow
334	ベニコウジ色素 (ベニコウジカビの培養液から得られ た、アンカフラビン及びモナスコルブ リンを主成分とするものをいう。)	モナスカス色素	紅麹 モナスカス	子う菌類ベニコウジカビ (<i>Monascus pilosus</i> K. SATO ex D. HAWKSWORTH et PITT, <i>Monascus</i> <i>purpureus</i> WENT.) の菌体より、室温時～微温時 含水エタノール又は含水プロピレングリコールで 抽出して得られたものである。主色素はモナスコ ルプリン及びアンカフラビン等である。赤色を呈 する。	着色料	Monascus colour
335	ベニコキ末色素 (ベニコキの種子から得られた、ノル ビキシン及びビキシンを主成分とする ものをいう。)	アナトー末色素	アナトー アナトー末 カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 ベニコキ末	ベニコキ科ベニコキ (<i>Bixa orellana</i> LINNE) の 被覆物を含む種子を、乾燥し、粉碎したものであ る。主色素はビキシン及びノルビキシンである。 赤色を呈する。	着色料	Powdered annatto
336	ベニバナ赤色素 (ベニバナの花から得られた、カルタ ミンを主成分とするものをいう。)	カーサマス赤色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花赤 紅花色素	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> LINNE) の花又はこれを発酵若しくは酵素処理したものよ り、黄色素を除去した後、室温時弱アルカリ性水 溶液で抽出し、中和して得られたものである。主 色素はカルタミンである。赤色を呈する。	着色料	Carthamus red
337	ベニバナ黄色素 (ベニバナの花から得られた、サフ ライエロー類を主成分とするものを いう。)	カーサマス黄色素	フラボノイド フラボノイド色素 紅花黄 紅花色素	キク科ベニバナ (<i>Carthamus tinctorius</i> LINNE) の花より、室温時～微温時水で抽出して得られた ものである。主色素はサフライエロー (サフロ ミン) 類である。黄色を呈する。	着色料	Carthamus yellow
338	ベネズエラチクル (ベネズエラチクルの分泌液から得ら れた、アミリンアセタート及びポリイ ソブレンを主成分とするものをい う。)	カプーレ		アカテツ科ベネズエラチクル (<i>Manilkara</i> <i>williamsii</i> STANDL.) の幹枝より得られるラテッ クスを、脱水したものより得られたものである。 主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレン である。	ガムベース	Venezuelan chicle
339	ペパー抽出物 (コショウの果実から得られた、フェ ルベリン類を主成分とするものをい う。)	コショウ抽出物		コショウ科コショウ (<i>Piper nigrum</i> LINNE) の果 実より、エタノールで抽出して得られたもの、又 は水蒸気蒸留により得られたものである。有効成 分はフェルベリン類である。	酸化防止剤	Pepper extract
340	ペプシン			動物胃粘膜又は魚類より、室温時酸性水溶液で抽 出し、冷時～微温時エタノール又はアセトンで処 理して得られたものである。	酵素	Pepsin
341	ヘプタン			石油成分中、n-ヘプタンの沸点付近の留分であ る。	製造用剤	Heptane
342	ペプチダーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus</i> <i>oryzae</i> , <i>Aspergillus sojae</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i> , <i>Lactococcus lactis</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られ たもの、除菌したもの、若しくはこれより、冷時 エタノールで処理して得られたもの、又は培養液 を固液分離、濃縮、ろ過して得られたものである。	酵素	Peptidase
343	ヘマトコッカス藻色素 (ヘマトコッカスの全藻から得られ た、アスタキサンチンを主成分とする ものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素	コナヒゲムシ科ヘマトコッカス (<i>Haematococcus</i> C. A. AGARCH) の全藻を、乾燥後、粉碎したも の、又はこれを、二酸化炭素で抽出したもの、若 しくは室温時含水エタノール、エタノール、アセ トン、ヘキサン若しくはこれらを2種以上混合し たもので抽出し、溶媒を除去したものである。主 色素はアスタキサンチンの脂肪酸エステルであ る。橙色～赤色を呈する。	着色料	Haematococcus algae colour
344	ヘミセルラーゼ	ベントサナーゼ	カルボヒドラーゼ	枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i>)、糸状菌 (<i>Aspergillus aculeatus</i> , <i>Aspergillus</i> <i>awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus</i> <i>oryzae</i> , <i>Aspergillus usami</i> , <i>Hemicola</i> <i>insolens</i> , <i>Trichoderma harzianum</i> , <i>Trichoderma</i> <i>koningii</i> , <i>Trichoderma longibrachiatum</i> , <i>Trichoderma viride</i>) 若しくは担子菌 (<i>Corticium</i> , <i>Pycnoporus coccineus</i>) の培養液 より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、 除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時 エタノール若しくは含水エタノールで処理して得 られたもの、又は培養液を固液分離、濃縮、ろ過 して得られたものである。	酵素	Hemicellulase

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
345	ヘム鉄			ヘモグロビンをタンパク分解酵素で処理したものより、分離して得られたものである。主成分はヘム鉄である。	強化剤	Heme iron
346	ヘリウム			⁴ He	製造用剤	Helium
347	ベントナイト		不溶性鉱物性物質	鉱床より採掘して得られたベントナイトを乾燥して得られたものである。主成分は含水ケイ酸アルミニウムである。	製造用剤	Bentonite
348	ホウセンカ抽出物 (ホウセンカの全草から抽出して得られたものをいう。)			ツリガネソウ科ホウセンカ (<i>Impatiens balsamina</i> LINNE) の全草より、室温時含水エタノールで抽出して得られたものである。	酸化防止剤	Garden balsam extract
349	ホコッシ抽出物 (ホコッシの種子から得られた、バクテオールを主成分とするものをいう。)			マメ科ホコッシ (<i>Psoralea corylifolia</i> O. KZE.) の種子より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はバクテオールである。	製造用剤	Hokosshi extract
350	ホスホジエステラーゼ			糸状菌 (<i>Aspergillus niger</i> , <i>Penicillium citrinum</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出し、冷時エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Phosphodiesterase
351	ホスホリパーゼ	ホスファチダーゼ レシチナーゼ		動物のすい臓若しくはアブラナ科キャベツ (<i>Brassica oleracea</i> LINNE) より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、又は糸状菌 (<i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus niger</i>)、担子菌 (<i>Corticium</i>)、放線菌 (<i>Actinomadura</i> , <i>Nocardiosis</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はこれより含水エタノール若しくは含水アセトンで処理して得られたもの、樹脂精製後、アルカリ性水溶液で処理したものである。	酵素	Phospholipase
352	没食子酸			ウルシ科ヌルデ (<i>Rhus javanica</i> LINNE) に発生する五倍子、ブナ科 (<i>Quercus infectoria</i> OIV.) に発生する没食子より、水、エタノール又は有機溶剤で抽出したタンニン、又はマメ科タラ (<i>Caesalpinia spinosa</i> (MOLINA) KUNTZE) の実の夾より、温時水で抽出したタンニンを、アルカリ又は酵素 (タンナーゼ) により加水分解して得られたものである。成分は没食子酸である。	酸化防止剤	Gallic acid
353	ホホバロウ (ホホバの果実から得られた、イコセン酸イコセニルを主成分とするものをいう。)	ホホバワックス		ツゲ科ホホバ (<i>Simmondsia californica</i> NUTT.) の果実より採油したホホバ脂より、分離して得られた高融点ロウ物質である。主成分はイコセン酸イコセニルである。	ガムベース	Jojoba wax
354	ポリフェノールオキシダーゼ	フェノラーゼ		糸状菌 (<i>Alternaria</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Coriolus</i>) 若しくは担子菌 (<i>Cyathus</i> , <i>Polyporus cinereus</i> , <i>Polyporus coccineus</i> , <i>Polyporus versicolor</i> , <i>Trametes</i>) の培養液より、冷時～室温時水で抽出して得られたもの、冷時～室温時濃縮したもの、冷時エタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたもの、除菌後、冷時含水エタノールで処理して得られたもの、又は硫酸アンモニウム等で分画した後、脱塩処理して得られたものである。	酵素	Polyphenol oxidase
355	ε-ポリリシン	ε-ポリリジン	ポリリジン	放線菌 (<i>Streptomyces albulus</i>) の培養液より、イオン交換樹脂を用いて吸着、分離して得られたものである。成分はε-ポリリシンである。	保存料	ε-Polyllysine
356	マイクロクリスタリンワックス	マイクロクリスタリンワックス		原油の減圧蒸留残渣油を、冷時プロパンで脱レキし、脱ロウし、脱油し、分離して得られたもの、又は熱時フルフラールで処理後、フルフラールを除去したものより得られたものである。成分としてC ₃₀ ～C ₄₀ の分岐炭化水素を含む。	ガムベース 光沢剤	Microcrystalline wax
357	マクロホモプシスガム (マクロホモプシスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	マクロホモプシス 多糖類		不完全菌類 (<i>Macrophomopsis</i>) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Macrophomopsis gum
358	マスチック (ヨウニウコウの分泌液から得られた、マスチカジエノン酸を主成分とするものをいう。)			ウルシ科ヨウニウコウ (<i>Pistacia lentiscus</i> LINNE) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、熱時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。主構成成分はマスチカジエノン酸である。	ガムベース	Mastic gum
359	マッサランドバチョコレート (マッサランドバチョコレートの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドバチョコレート (<i>Manilkara solimoesensis</i> GILLY.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba chocolate
360	マッサランドババラタ (マッサランドババラタの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)			アカテツ科マッサランドババラタ (<i>Manilkara huberi</i> (DUCKE) CHEVAL.) の幹枝より得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Massaranduba balata
361	マリーゴールド色素 (マリーゴールドの花から得られた、キサントフィルを主成分とするものをいう。)		カロチノイド カロチノイド色素 カロチノイド カロチノイド色素 マリーゴールド	キク科マリーゴールド (<i>Tagetes erecta</i> WILLD.) の花より、室温時ヘキサンで抽出して得られたものである。主色素はルテインの脂肪酸エステルである。黄色を呈する。	着色料	Marigold colour
362	マルトースホスホリラーゼ			細菌 (<i>Plesiomonas</i>) の培養液の菌体を酵素 (リゾチーム) 処理した後、冷時～室温時水で抽出して得られたものである。	酵素	Maltose phosphorylase

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
363	マルトトリオヒドラーゼ	G3生成酵素	アミラーゼ カルボヒドラーゼ	糸状菌 (<i>Penicillium</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus subtilis</i> , <i>Microbacterium</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌した後、濃縮して得られたものである。	酵素	Maltotriohydrolase
364	未焼成カルシウム (貝殻、真珠の真珠層、造礁サンゴ、骨又は卵殻を乾燥して得られた、カルシウム塩を主成分とするものをいう。)		未焼成Ca		強化剤	Non-calcinated-calcium
	貝殻未焼成カルシウム		貝カルシウム 貝Ca	貝殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated shell calcium
	骨未焼成カルシウム		骨カルシウム 骨Ca	獣骨又は魚骨を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分はリン酸カルシウムである。		Non-calcinated bone calcium
	サンゴ未焼成カルシウム		コーラルカルシウム コーラルCa サンゴカルシウム サンゴCa	イシサンゴ目 (<i>Scleractinia</i>) の造礁サンゴを、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated coral calcium
	真珠層未焼成カルシウム		真珠層カルシウム 真珠層Ca	ウグイスガイ科アコヤガイ (<i>Pinctada fucata</i>) から得られる真珠の核を除いた真珠層を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated mother-of-pearl layer calcium
	卵殻未焼成カルシウム		卵殻カルシウム 卵殻Ca	卵殻を、殺菌、乾燥し、粉末にして得られたものである。主成分は炭酸カルシウムである。		Non-calcinated eggshell calcium
365	ミックストコフェロール (植物性油脂から得られた、 α -トコフェロール、 β -トコフェロール、 γ -トコフェロール及び δ -トコフェロールを主成分とするものをいう。)	ミックスビタミンE 抽出トコフェロール 抽出ビタミンE	抽出V.E トコフェロール ビタミンE V.E ミックスV.E	アオイ科ワタ、アブラナ科アブラナ、イネ科イネ、イネ科トモロコシ、キク科サフラン、キク科ヒマワリ、ゴマ科ゴマ、マメ科ダイズ、マメ科ラッカセイ、ヤシ科アブラヤシ、その他油糧植物原料より得られた植物性油脂より、メタノール、アセトン、ヘキサン、プロパノール、ヘプタン又はエタノールで分離して得られたものである。主成分は α -、 β -、 γ -、 δ -トコフェロールである。	酸化防止剤 強化剤	Mixed tocopherols
366	ミツロウ (ミツバチの巣から得られた、パルミチン酸ミリスルを主成分とするものをいう。)	オウロウ ビースワックス ベースワックス		ミツバチ科ミツバチ (<i>Apis indica</i> RADOSZKO., <i>Apis mellifera</i> LINNE) の巣より、加熱圧搾後、ろ過したものより得られたものである。主成分はパルミチン酸ミリスルである。	ガムベース 光沢剤	Bees wax
367	ミルラ (ボツヤクの分泌液から抽出して得られたものをいう。)	ミル		カンラン科ボツヤク (<i>Commiphora mukul</i> ENGL.) の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去し、室温時エタノールで抽出し、エタノールを留去して得られたものである。成分としてコモホルを含む。	ガムベース	Myrrh
368	ムラサキイモ色素 (サツマイモの塊根から得られた、シアニンシアシグルコシド及びペオニジンシアシグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	ヒルガオ科サツマイモ (<i>Ipomoea Batatas</i> POIR.) の紫色の塊根より、乾燥、粉碎して得られたもの、又は室温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニンシアシグルコシド及びペオニジンシアシグルコシドである。紫赤色を呈する。	着色料	Purple sweet potato colour
369	ムラサキトモロコシ色素 (トモロコシの種子から得られた、シアニン-3-グルコシドを主成分とするものをいう。)	ムラサキコーン色素	アントシアニン アントシアニン色素	イネ科トモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の紫色の種子より、温水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニン-3-グルコシド等である。赤色～紫赤色を呈する。	着色料	Purple corn colour
370	ムラサキヤマモ色素 (ヤマモの塊根から得られた、シアニンシアシグルコシドを主成分とするものをいう。)		アントシアニン アントシアニン色素 ムラサキヤマモ野菜色素	ヤマノイモ科ヤマモ (<i>Dioscorea alata</i> LINNE) の紫色の塊根より、室温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニンシアシグルコシドである。紫赤色を呈する。	着色料	Purple yam colour
371	ムラミダーゼ			放線菌 (<i>Actinomyces</i> , <i>Streptomyces</i>) 又は細菌 (<i>Bacillus</i>) の培養液より、冷時～室温時除菌後、冷時～室温時濃縮し、冷時含水エタノールで抽出して得られたものである。	酵素	Muramidase
372	メチルチオアデノシン (サッカロミセスから得られた、5'-デヒドロキシ-5'-メチルチオアデノシンを主成分とするものをいう。)	アデノシルメチルチオペントース		パン酵母 (<i>Saccharomyces cerevisiae</i> MEYEN et HANSEN) より、水で抽出した後、精製して得られたものである。主成分は5'-デヒドロキシ-5'-メチルチオアデノシンである。	苦味料等	Methylthioadenosine
373	メナキノン (抽出物) (アルトロバクターの培養液から得られた、メナキノン-4を主成分とするものをいう。)	ビタミンK ₂ (抽出物)	ビタミンK ₂ ビタミンK V.K ₂ V.K メナキノン	細菌 (<i>Arthrobacter nicotianae</i>) の培養液より、室温時ブタノールで抽出後、室温時ヘキサンで抽出し、精製して得られたものである。主成分はメナキノン-4である。	強化剤	Menaquinone (extract) Vitamin K ₂ (extract)
374	メバロン酸			酵母 (<i>Saccharomycopsis fibuligera</i>) によるコーンステープリカー又はカゼイン由来のペプトンを主原料とする発酵培養液より、有機溶剤で抽出して得られたものである。成分はメバロン酸である。	製造用剤	Mevalonic acid
375	メラロイカ精油 (メラロイカの葉から得られた、精油を主成分とするものをいう。)			フトモモ科メラロイカ (<i>Melaleuca alternifolia</i> CHEEL) の葉より、水蒸気蒸留により得られたものである。成分は精油 (シネオール、ゲルビネン及びシネオール、ゲルビネン等) である。	酸化防止剤	Melaleuca oil
376	モウソウチク乾留物 (モウソウチクの茎を乾留して得られたものをいう。)		竹乾留物	イネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎をチップ状にしたものを、減圧加熱下で乾留したものより得られたものである。	製造用剤	Mousouchiku dry distillate

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
377	モウソウチク炭抽出物 (モウソウチクの茎の炭化物から抽出して得られたものをいう。)			イネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎を、熱時高圧下に蒸し、活性炭化したものを、熱時加圧下に水で抽出したものとより得られたものである。成分として糖類、酢酸を含む。	製造用剤	Mousouchiku charcoal extract
378	モウソウチク抽出物 (モウソウチクの茎の表皮から得られた、2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを主成分とするものをいう。)			イネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎の表皮を、粉砕したものとより、微温時エタノールで抽出して得られたものである。成分として2,6-ジメトキシ-1,4-ベンゾキノンを含む。	製造用剤	Mousouchiku extract
379	木材チップ (ハシバミ又はブナの幹枝を粉砕して得られたものをいう。)	シュベエネ		カバノキ科ハシバミ (<i>Corvulus heterophylla</i> FISCHER var. <i>thunbergii</i> BLUME) 又はブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) の幹枝を熱水殺菌したものを、粉砕して得られたものである。	製造用剤	Wood chip
380	木炭 (竹材又は木材を炭化して得られたものをいう。)			イネ科マダケ (<i>Phyllostachys bambusoides</i> SIEB. et ZUCC.) 若しくはイネ科モウソウチク (<i>Phyllostachys heterocycla</i> MITF.) の茎又はカバノキ科シラカバ (<i>Betula platyphylla</i> SUKAT. var. <i>japonica</i> HARA)、チョウセンマツ (<i>Pinus koraiensis</i> SIEB. et ZUCC.)、ブナ科ウバメガシ (<i>Quercus phylliraeoides</i>) 等の幹枝又は種子を、炭化して得られたものである。	製造用剤	Charcoal
381	モクロウ (ハゼノキの果実から得られた、グリセリンハルミタートを主成分とするものをいう。)	日本ロウ ハゼ脂	植物ワックス	キクウルシ科ハゼノキ (<i>Rhus succedanea</i> LINNE) の果実より、酸解、さらしたものとより得られたものである。主成分はグリセリンハルミタートである。	カムベース	Japan wax
382	木灰 (竹材又は木材を灰化して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME) 等の幹枝を、灰化して得られたものである。	製造用剤	Timber ash
383	木灰抽出物 (「木灰」から抽出して得られたものをいう。)			ブナ科ブナ (<i>Fagus crenata</i> BLUME)、クスノキ科クスノキ (<i>Cinnamomum Camphora</i> SIEB.) 等の幹枝を灰化して得られた灰化物を、精製して得られたものである。	製造用剤	Timber ash extract
384	モモ樹脂 (モモの分泌液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)		ピーチガム	バラ科モモ (<i>Prunus persica</i> BATSCH) の幹枝の樹脂成分を、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Peach gum
385	モリン			クワ科ファスチック (<i>Broussonetia xanthoxylum</i> MARTIUS) の幹枝又は根より、エタノールで抽出し、精製して得られたものである。成分はモリンである。	酸化防止剤	Morin
386	モンタンロウ (褐炭又はリグナイトから得られた、脂肪酸とテトラコシルトリアコンタニルアルコール又は脂肪酸とヘキサコシルトリアコンタニルアルコールのエステルを主成分とするものをいう。)	モンタンワックス リグナイト		褐炭又はリグナイトより、有機溶剤で抽出したものとより得られたものである。主成分はC ₂₉ ~C ₃₀ の脂肪酸とテトラコシルトリアコンタニルアルコール又はヘキサコシルトリアコンタニルアルコールのエステルである。	ガムベース 光沢剤	Montan wax
387	ヤマモモ抽出物 (ヤマモモの果実、樹皮又は葉から抽出して得られたものをいう。)			ヤマモモ科ヤマモモ (<i>Myrica rubra</i> SIEBOLD) の果実、樹皮又は葉より、水、エタノール又はメタノールで抽出して得られたものである。成分としてミリスチリンを含む。	酸化防止剤	Chinese bayberry extract
388	油煙色素 (植物性油脂を燃焼して得られた、炭素を主成分とするものをいう。)	炭末色素	炭末	植物性油脂を、燃焼して得られたものである。主成分は炭素である。黒色を呈する。	着色料	Vegetable oil soot colour
389	ユーカリ葉抽出物 (ユーカリの葉から得られた、β-ジケトン主成分とするものをいう。)			フトモモ科ユーカリ (<i>Eucalyptus globulus</i> LABILL) の葉より、水蒸気蒸留して得られたもの、又はエタノールで抽出して得られたものである。有効成分はβ-ジケトン類である。	酸化防止剤	Eucalyptus leaf extract
390	ユッカフォーム抽出物 (ユッカアラボレスセンス又はユッカシジガラ全草から得られた、サボニン主成分とするものをいう。)	ユッカ抽出物	ユッカフォーム ユッカ・フォーム	ユリ科ユッカ・アラボレスセンス (<i>Yucca arborescens</i> TREL.) 又はユリ科ユッカ・シジガラ (<i>Yucca schidigera</i> ROEHL ex Ortgies) の全草より、熱時水で、又は室温時~微温時含水エタノール又は含水イソプロピルアルコールで抽出して得られたものである。主成分はサボニン (サルササボニン等) である。	乳化剤 製造用剤	Yucca foam extract Yucca joshua.tree
391	ラカンカ抽出物 (ラカンカの果実から得られた、モグロシド類を主成分とするものをいう。)	ラカンカエキス	ラカンカ	ウリ科ラカンカ (<i>Momordica grosvenori</i> SWINGLE) の果実より、水、含水メタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は室温時~温時含水メタノールで抽出し、植物油を用いて油性成分を除去したものとより得られたものである。主成分はモグロシド類である。	甘味料	Rakanka extract
392	ラクトパーオキシダーゼ			脱脂生乳又は乳清より、イオン交換樹脂で分離して得られたものである。	酵素	Lactoperoxidase
393	ラクトフェリン濃縮物 (乳類の乳から得られた、ラクトフェリンを主成分とするものをいう。)		ラクトフェリン	乳類の乳を脱脂分離したもの又は乳清より、精製し、濃縮して得られたものである。主成分は、ラクトフェリンである。	製造用剤	Lactoferrin concentrates
394	ラック色素 (ラックカイガラシの分泌液から得られた、ラッカイン酸類を主成分とするものをいう。)	ラッカイン酸	ラック	カイガラシ科ラックカイガラシ (<i>Laccifer lacca</i> KERR) の分泌する樹脂状物質より、室温時~熱時水で抽出して得られたものである。主成分はラッカイン酸類である。	着色料	Lac colour
395	ラノリン (ヒツジの毛に付着するろう様物質から得られた、高級アルコールとα-ヒドロキシ酸のエステルを主成分とするものをいう。)	羊毛ロウ		ウシ科ヒツジ (<i>Ovis aries</i> LINNE) の毛に付着するろう様物質より得られたものである。主成分は高級アルコールとC ₁₂ ~C ₂₂ のα-ヒドロキシ酸のエステルである。	ガムベース 光沢剤	Lanolin

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
396	ラムザンガム (アルカリゲネスの培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	ラムザン多糖類	ラムザン	グラム陰性細菌 (<i>Alcaligenes</i> (ATCC31961)) の培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Rhamsan gum
397	L-ラムノース		ラムノース	「ルチン (抽出物)」又はミカン科アマダイダイ (<i>Citrus sinensis</i> OSBECK) 若しくはミカン科ウンシュウミカン (<i>Citrus unshiu</i> MARCOV.) の果皮、樹皮若しくは花に含まれる配糖体、又は大豆油、菜種油若しくはコーン油を発酵、濃縮分離して得られたものを、加水分解し、分離して得られたものである。成分はL-ラムノースである。	甘味料	L-Rhamnose
398	卵黄レシチン (卵黄から得られた、レシチンを主成分とするものをいう。)	レシチン		卵黄より得られた卵黄油より、分離して得られたものである。主成分はレシチンである。	乳化剤	Yolk lecithin
399	L-リジン	L-リジン	リジン リジン	糖類を原料とした発酵により得られたものを、分離して得られたものである。成分はL-リジンである。	調味料 強化剤	L-Lysine
400	リゾチーム	卵白リゾチーム		卵白より、冷時～室温時アルカリ性水溶液及び食塩水で処理し、樹脂精製して得られたもの、又は冷時～熱時樹脂処理若しくは加塩処理した後、カラム精製若しくは再結晶により得られたものである。	酵素	Lysozyme
401	リパーゼ	脂肪分解酵素	エステラーゼ	動物若しくは魚類の臓器、又は動物の舌下部より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの又は糸状菌 (<i>Aspergillus awamori</i> , <i>Aspergillus niger</i> , <i>Aspergillus oryzae</i> , <i>Aspergillus phoenicis</i> , <i>Aspergillus usami</i> , <i>Geotrichum candidum</i> , <i>Humicola</i> , <i>Mucor javanicus</i> , <i>Mucor miehei</i> , <i>Penicillium camembertii</i> , <i>Penicillium chrysogenum</i> , <i>Penicillium roquefortii</i> , <i>Rhizomucor miehei</i> , <i>Rhizopus delemar</i> , <i>Rhizopus japonicus</i> , <i>Rhizopus miehei</i> , <i>Rhizopus niveus</i> , <i>Rhizopus oryzae</i>)、放線菌 (<i>Streptomyces</i>)、細菌 (<i>Alcaligenes</i> , <i>Arthrobacter</i> , <i>Chromobacterium viscosum</i> , <i>Pseudomonas</i> , <i>Serratia marcescens</i>) 又は酵母 (<i>Candida</i>) の培養液より、冷時～微温時水で抽出して得られたもの、除菌したもの、冷時～室温時濃縮したもの、又はエタノール、含水エタノール若しくはアセトンで処理して得られたものである。	酵素	Lipase
402	リポキシゲナーゼ	リポキシダーゼ		植物油粕より、又は糸状菌 (<i>Rhizopus</i>) の培養液より、水で抽出して得られたものである。	酵素	Lipoxygenase
403	D-リボース		リボース	グラム陽性細菌 (<i>Bacillus pumilus</i> , <i>Bacillus subtilis</i>) によるD-グルコースの発酵培養液より、分離して得られたものである。成分はD-リボースである。	甘味料	D-Ribose
404	流動パラフィン	ミネラルオイルホワイト	パラフィン	石油の軽質留分を留去した残渣より、分留し、精製して得られたものである。	製造用剤	Liquid paraffin
405	リンターセルロース (ワタの単毛から得られた、セルロースを主成分とするものをいう。)		セルロース	アオイ科ワタ (<i>Gossypium hirsutum</i> LINNE) の実の単毛を、精製して得られたものである。主成分はセルロースである。	製造用剤	Linter cellulose
406	ルチン酵素分解物 (「ルチン (抽出物)」から得られた、イソクエルシトリンを主成分とするものをいう。)		イソクエルシトリン	「ルチン (抽出物)」を、酵素 (ナリンジナーゼ、ヘスペリジナーゼ又はラムノシダーゼ) 処理した後、精製して得られたものである。主成分はイソクエルシトリンである。	酸化防止剤	Enzymatically decomposed rutin
407	ルチン (抽出物) (アズキの全草、エンジュのつばみ若しくは花又はソバの全草から得られた、ルチンを主成分とするものをいう。)		フラボノイド ルチン		酸化防止剤 着色料	Rutin (extract)
	エンジュ抽出物			マメ科エンジュ (<i>Sophora japonica</i> LINNE) のつばみ又は花より、熱時水で抽出して得られたもの、温時エタノールで抽出して得られたもの、又は室温時メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。主成分はルチンである。		Enju extract Japanese pagoda tree extract
	アズキ全草抽出物			マメ科アズキ (<i>Azuki angulalis</i> OHWI) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Azuki extract
	ソバ全草抽出物			タデ科ソバ (<i>Fagopyrum esculentum</i> MOENCH) の全草より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はルチンである。		Buckwheat extract
408	ルテニウム			⁹⁸ Ru, ⁹⁹ Ru, ¹⁰⁰ Ru, ¹⁰¹ Ru, ¹⁰² Ru, ¹⁰⁴ Ru	製造用剤	Ruthenium
409	レイシ抽出物 (マンネンタケの菌糸体若しくは子実体又はその培養液から抽出して得られたものをいう。)	マンネンタケ抽出物	レイシ	サルノコシカケ目マンネンタケ (<i>Ganoderma lucidum</i> KARST.) の菌糸体若しくは子実体、又はその培養液より、水、エタノール又は二酸化炭素で抽出して得られたものである。	香味料等	Mannentake extract
410	レッチュデバカ (レッチュデバカの分泌液から得られた、アミリンエステルを主成分とするものをいう。)			クワ科レッチュデバカ (<i>Brosimum utile</i> (H.B.K.) PIIT.) の幹枝から得られたラテックスを、熱時水で洗浄し、水溶成分を除去して得られたものである。主成分はアミリンエステルである。	ガムベース	Leche de vaca
411	レバン (枯草菌の培養液から得られた、多糖類を主成分とするものをいう。)	フラクタン		枯草菌 (<i>Bacillus subtilis</i> (EHR.) COHN) によるショ糖又はラフィノースの発酵培養液より、分離して得られたものである。主成分は多糖類である。	増粘安定剤	Levan

番号	品 名		簡略名又は 類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
	名 称	別 名				
412	レモン果皮抽出物 (レモンの果皮から得られた、グラニオール及びシトラールを主成分とするものをいう。)			ミカン科レモン (<i>Citrus limon</i> BURM. f.) の果皮より、圧搾又は水蒸気蒸留で抽出したものであり得られたものである。主成分はモノテルペノイド(シトラール及びグラニオール等)である。	製造用剤	Lemon peel extract
413	レンネット	キモシン レンニン		反すう動物の第四胃より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、又は酵母菌 (<i>Kluyveromyces lactis</i>)、糸状菌 (<i>Mucor miehei</i> , <i>Mucor pusillus</i> LINDT, <i>Mucor</i> spp., <i>Rhizomucor miehei</i>)、担子菌 (<i>Irpelex lacteus</i>) 若しくは細菌 (<i>Bacillus cereus</i> , <i>Cryphonectria parasitica</i> , <i>Escherichia coli</i> K-12等) の培養液より、室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたもの、室温時濃縮したもの、又は、冷時エタノール若しくは含水エタノールで処理して得られたものである。	酵素	Rennet
414	L-ロイシン		ロイシン	動物性若しくは植物性タンパク質の加水分解により、又は糖類を原料とした発酵法により得られたものより、分離して得られたものである。成分はL-ロイシンである。	調味料 強化剤	L-Leucine
415	ログウッド色素 (ログウッドの心材から得られた、ヘマトキシリンを主成分とするものをいう。)			マメ科ログウッド(<i>Haematoxylon campechianum</i>) の心材より、熱湯水で抽出して得られたものである。主色素はヘマトキシリンである。黒褐色を呈する。	着色料	Logwood colour
416	ロシディンハ (ロシディンハの分泌液から得られた、アミリンアセタート及びポリイソブレンを主成分とするものをいう。)	ロジディンハ		アカテツ科シデロキシロン属 (<i>Sideroxylon</i>) の幹枝より得られたラテックスを、脱水したものであり得られたものである。主成分はアミリンアセタート及びポリイソブレンである。	ガムベース	Rosidinha
417	ロジン (マツの分泌液から得られた、アビエチン酸を主成分とするものをいう。)	ロジン		マツ科マツ (<i>Pinus palustris</i> MILL.) の樹皮の分泌液より、低沸点部を蒸留により除去して得られたものである。主構成成分はアビエチン酸である。	ガムベース	Rosin
418	ローズマリー抽出物 (マンネンロウの葉又は花から得られた、カルノシン酸、カルノソール及びロスマノールを主成分とするものをいう。)	マンネンロウ抽出物		シソ科マンネンロウ (<i>Rosmarinus officinalis</i> LINNE) の葉又は花より、二酸化炭素、温時～熱時含水エタノール若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は温時～熱時ヘキサン、メタノール若しくは含水メタノールで抽出し、溶媒を除去して得られたものである。有効成分は、フェノール性ジテルペノイド(ロスマノール、カルノソール及びカルノシン酸等)である。	酸化防止剤	Rosemary extract
419	ワサビ抽出物 (ワサビの根茎又は葉から得られた、イソチオシアナートに主成分とするものをいう。)			アブラナ科ワサビ (<i>Wasabia japonica</i> MATSUM.) の根茎又は葉より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はイソチオシアナートである。	製造用剤	Wasabi extract

天然香料基原物質リスト

基原物質名	別 名	備 考
アイスランドモス	アイスランド苔	Iceland moss
アカヤジオウ		Akayajio
アケビ		Akebia
アサ	麻	Hemp
アサフェチダ		Asafetida
アジアンタム		Maidenhair fern
アジョワン		Ajowan
アズキ	小豆	Red beans
アスパラサスリネアリス	ルイボス、ロオイボス	Rooibos
アップルミント		Apple mint
アーティチョーク	チョウセンアザミ	Artichoke
アニス		Anise
アボカド		Avocado
アマ		Flax
アマチャ	甘茶	Amacha
アマチャヅル		Amachazuru
アミガサユリ		Amigasayuri
アミリス		Amyris
アーモンド		Almond
アリタソウ		Aritaso
アルカンナ		Alkanet
アルテミシア		Artemisia
アルニカ		Arnica
アルファルファ		Alfalfa
アロエ		Aloe
アロニア		Chokeberry
アンゴスツラ		Angostura
アンゴラウィード		Angola weed
アンズ	アブリコット	Apricot
アンズタケ		Anzutake, Chanterelle
アンゼリカ	アンゲリカ	Angelica
アンバー		Amber
アンバーgris	竜涎香	Ambergris
アンブレット		Ambrette
イカ		Squid
イカリソウ		Ikariso
イグサ		Rush
イースト	酵母	Yeasts
イタドリ		Itadori
イチゴ	ストロベリー	Strawberry
イチゴノキ	ストロベリーツリー	Strawberry tree
イチジク	フィグ	Fig
イチョウ		Ginkgo, Gingko
イヌゴマ	ベトニー	Betony
イノコヅチ		Inokozuchi
イランイラン		Ylang-ylang
イワオウギ		Iwaohgi
インペラトリア		Imperatoria
インモルテル		Immortelle, Everlasting flower
ウィンターグリーン		Wintergreen
ウォータークレス	オランダガラシ	Water cress
ウコギ		Ukogi
ウコン	ターメリック	Turmeric
ウスバサイシン		Usubasaishin
ウッドラフ	クルマバソウ	Woodruff
ウニ		Sea urchin
ウメ		Ume, Japanese apricot
ウーロンチャ		Oolong tea
エゴマ		Egoma
エノキダケ		Enokidake
エビ		Lobster, Prawn, Shrimp
エビスグサ		Ebisugusa
エリゲロン		Erigeron
エルダー	セイヨウニワトコ	Elder
エレウテロコック		Eleutherococcus
エレカンペン		Elecampane

基原物質名	別 名	備 考
エレミ		Elemi
エンゴサク		Engosaku
エンジュ		Enju, Japanese-pagoda-tree
エンダイブ	キクヂシャ	Endive
欧州アザミ		Blessed thistle
オウレン		Goldthread
オオアザミ		Milk thistle
オオバコ	ブランテン	Plantain
オカゼリ		Cnidium fruit
オキアミ		Krill
オーク		Oak
オークモス		Oak moss
オケラ		Oker
オスマンサス	モクセイ	Osmanthus
オポポナックス		Opoponax
オミナエシ		Ominaeshi
オモダカ		Sagiomodaka
オランダセンニチ		Para cress
オリガナム		Origanum
オリス		Orris
オリバナム	乳香	Olibanum
オリーブ		Olive
オールスパイン		Allspice
オレンジ		Orange
オレンジフラワー		Orange flower
カイ	貝	Shellfish
海藻	シーウィード	Seaweed
カイニンソウ		Kaininso
カカオ	ココア	Cacao
カキ	柿	Japanese persimmon
カサイ	果菜	Fruit vegetables
カシューナッツ		Cashew nut
カスカラ		Cascara
カスカリラ		Cascarilla
カストリウム	海狸香	Castoreum
カタクリ		Katakuri
カツオブシ		Dried bonito
カッシー		Cassie
カッシャフィスチュラ		Purging cassia
カテキュ		Catechu
カニ		Crab
カーネーション		Carnation
カノコソウ		Valerian
カモミル		Camomile
カヤプテ		Cajeput, Cajuput
カラクサケマン		Fumitory
カラシ	マスタード	Mustard
カラスウリ		Karasuuri
カラスビシャク		Karasubishaku, Dragon root
カラバッシュナツメグ		Calabash nutmeg
ガラナ		Guarana
カラマンシー	シキキツ	Calamondin
カラミント		Calamint
カラムス		Calamus
ガラंगा		Galanga
カーラント		Currant
カリッサ		Carissa, Karanda
カリン		Chinese quince
カルダモン	ショウズク	Cardamon
ガルバナム		Galbanum
カレー		Curry powder
カレーリーフ	カリリーフ	Curry leaf
カワミドリ		Kawamidori
カンゾウ	リコリス	Licorice
ガンビア		Gambir
カンラン		Chinese olive
キウイーフルーツ		Kiwifruit
キカイガラタケ		Kikaigaratake
キキョウ		Kikyo, Baloon flower
キク		Chrysanthemum
キクラゲ		Kikurage, Jew's-ear

基原物質名	別 名	備 考
キササゲ		Kisasage
ギシギシ		Gishigishi, Dock
キダチアロエ		Kidachi aloe
キナ		Cinchona
キハダ		Kihada
キバナオウギ		Kibanaohgi
ギボウシ		Giboshi
ギムネマシルベスタ		Gymnema sylvestre
キャットニップ	イヌハッカ	Catnip
キャラウェイ	ヒメウイキョウ	Caraway
キャロブ	イナゴマメ、カロブ	Carob, Locust bean
キュウリ	キューカンパー	Cucumber
キラヤ		Quillaja, Quillaia
キンミズヒキ		Agrimony
グアバ		Guava
グアヤク		Guaiacum
クコ		Kuko
クサスギカズラ		Kusasugikazura
クサボケ	シドミ	Kusaboke, Dwarf Japanese quince
クズ		Kuzu, Thunberg kudzu vine
クスノキ		Camphor tree
クスノハガシワ		Kamala
グーズベリー		Gooseberry
クチナシ	ガーデニア	Gardenia
クベバ		Cubeb
クマコケモモ		Bearberry
グミ		Gumi, Oleaster
クミン		Cumin
グラウンドアイビー	カキドウシ	Ground ivy
クララ	クサエンジュ	Kurara
クラリセージ		Clary sage
クランベリー		Cranberry
クリ	チェスナッツ	Chestnut
クルミ	ウォルナッツ	Walnut
クリーム		Cream
グレインオブパラダイス		Grains of paradise
クレタディタニー		Dittany of Crete
グレープフルーツ		Grapefruit
クローバー		Clover
クローブ		Clove
クロモジ		Kuromoji
クロレラ		Chlorella
クワ	マルベリー	Mulberry
クワッシャ	ニガキ	Quassia
ケイパー	ケーパー	Caper
ゲットウ	月桃	Getto
ケード		Cade
ケブラコ		Quebracho
ゲルマンダー		Germander
ケンチュール		Kencur
ケンボナシ		Kenponashi, Japanese raisin tree
ゲンノショウコ	フウロソウ	Gennoshoko
コウジ		Koji
コウタケ		Koutake
コウチャ	紅茶	Black tea
コウホネ		Kohone
コカ		Coca
コガネバナ		Koganebana
コクトウ	黒糖	Brown sugar
コクスイ	穀類	Cereals
ココナッツ	ココヤシ	Coconut
コゴメグサ	アイブライト	Eyebright
ゴシュユ		Goshuyu
コショウ	ペパー	Pepper
コスタス		Costus
コストマリー		Costmary
コパイバ		Copaiba
コーヒー		Coffee
コブシ	ヤマモクレン	Kobushi
ゴボウ		Burdock
ゴマ	セサミ	Sesame

基原物質名	別 名	備 考
コーラ		Cola
コリアンダー	コエンドロ	Coriander
コルツフート	フキタンポポ	Coltsfoot
ゴールドデンロッド		Golden rod
コロンボ		Colombo
コンサイ	根菜	Root and tuber vegetables
コンズランゴ		Kondurango
コンブ		Kombu kelp
コンフリー		Comfrey
サイプレス	イトスギ、シプレス	Cypress
魚	フィッシュ	Fish
サクラ		Cherry tree
サ克蘭ボ	チェリー	Cherry
ザクロ	グレナディン	Common pomegranate
サケカス	酒粕	Pressed sake cake
ササ		Sasa, Bamboo grass
ササクサ		Sasakusa
サーチ		Sea buckthorn
サッサfras		Sassafras
サフラン		Saffron
サボジラ		Sapodilla
サボテン		Cactus
サラシナショウマ		Sarashinashoma
サルサパリラ		Sarsaparilla
サルシファイ	セイヨウゴボウ	Salsify
サルノコシカケ		Sarunokoshikake
サンザシ	ホウソーン	Hawthorn
サンシュユ		Sanshuyu
サンショウ		Japanese pepper
サンタハーブ		Santa herb
サンダラック		Sandarac
サンドルウッド	ビャクダン	Sandalwood
サンドルレッド	シタン	Red sandalwood
シイタケ		Shiitake
ジェネ	エニシダ	Genet
シソ		Perilla
シダー	セダー	Cedar
シトラス	カシキツ	Citrus
シトロネラ		Citronella
シヌス		Schinus molle
シベット	霊猫香	Civet
シマルーバ		Simarouba
シメジ		Shimeji
シャクヤク		Shakuyaku, Chinese peony
ジャスミン		Jasmin
ジャノヒゲ		Janohige
ジャボランジ	ヤボランジ	Jaborandi
シャロット		Shallot
シュクシャ		Shukusha
ジュウニヒトエ	ビューグル	Bugle
ジュニパーベリー	ネズ	Juniper berry
ショウガ	ジンジャー	Ginger
ショウユ		Soy sauce
ショウユカス		Pressed soy sauce cake
ジョウリュウシュ	蒸留酒	Spirits
ショウロ		Shoro
シルバーウィード		Silver weed
シロタモギタケ	ブナシメジ	Elm-mushroom
ジンセン	高麗ニンジン	Ginseng
シンナモン		Cinnamon
酢	ビネガー	Vinegar
スイカ	ウォーターメロン	Watermelon
スイセン	ナルシス	Narcissus
スギ		Sugi, Peacock pine
スターアニス	ダイウイキョウ	Star anise
スターフルーツ	キャランボラ	Starfruit, Carambola
スチラックス		Styrax
スッポン		Suppon, Snapping turtle
スッポンタケ		Suppontake
ズドラベツ		Zdravetz
スネークルート		Snakeroot, Serpentry

基原物質名	別 名	備 考
スパイクナード		Spikenard
スピネル		Spignel
スプルース	ヘムロック	Spruce
スピアミント	ミドリハッカ	Spearmint
スベリヒユ		Suberihyu, Pigweed
スローベリー		Sloe berry
セイボリー	キダチハッカ	Savory
セイヨウダイコンソウ		Avens, Herb bennet
セイヨウナナカマド		Rowan tree, European mountain ash
セキショウ		Sekisho
セージ		Sage
ゼドアリー		Zedoary
セネガ		Senega
ゼラニウム		Geranium
セロリー		Celery
センキュウ		Senkyu
センタウリア		Centaury
センダン		Sendan
セントジョーンズウォルト	セイヨウオトギリソウ	St. John's wort
センナ		Senna
ソース		Sauces
ダイオウ	ルバーブ	Rhubarb
ダイズ	大豆	Soybeans
タイム	タチジャコウソウ	Thyme
タケノコ		Bamboo shoot
タコ		Octopus
タデ		Tade, Water pepper
ダバナ		Davana
タマゴ	エッグ	Egg
タマゴタケ		Royal agaric
タマネギ	オニオン	Onion
タマリンド		Tamarind
ダミアナ		Damiana
タモギタケ	ヒメヒラタケ	Tamogitake
タラゴン	エストラゴン	Tarragon
タラノキ		Tara, Angelica tree
タンジー	ヨモギギク	Tansy
タンジェリン	マンダリン	Tangerine, Mandarin
タンポポ	ダンデリオン	Dandelion
チェリモラ	チェリモヤ	Cherimoya
チェリーローレル		Cherry laurel
チェリーワイルド		Wild cherry
チガヤ		Chigaya
チコリ		Chicory
チーズ		Cheese
チチタケ		Chichitake
チャイブ		Chive
チャービル		Chervil
チャンパカ		Champac
チューベローズ	月下香	Tuberose
チョウセンゴミン		Chosengomishi
チラータ		Chirata
ツクシ		Tsukushi, Fern-ally
ツケモノ	漬物	Pickled products
ツタ		Ivy
ツバキ	カメリア	Camellia
ツクサ		Tsuyukusa
ツリガネニンジン		Tsuriganeninjin
ツルドクダミ		Tsurudokudami
ディアタング	リアトリス	Deertongue
ティスル	キバナアザミ	Thistle
ディタニー		Dittany
ディル	イノンド	Dill
デーツ	ナツメヤシ	Date palm
テンダイウヤク		Lindera root
テンマ		Tenna
テンリョウチャ		Tenryocha
トウガラシ	カプシカム	Capsicum
トウキ		Toki
ドウショクブツタンパクシツ	動植物蛋白質	Proteins
ドウショクブツユシ	動植物油脂	Oil and fats

基原物質名	別 名	備 考
トウミツ	糖蜜、モラセス	Molasses
トウモロコシ	コーン	Maize
ドクダミ		Dokudami
トチュウ		Tochu
ドッググラス		Dog grass, Couch grass
トマト		Tomato
ドラゴンブラッド		Doragon's blood
ドリアン		Durian
トリュフ		Truffle
トルーバルサム		Tolu balsam
トンカ	トンコ	Tonka beans
ナギナタコウジュ		Naginatakoju
ナシ	ペア	Pear
ナスターシャム		Common nasturtium
ナッツ		Nut
ナットウ	納豆	Natto
ナツメ		Jujube
ナツメグ	ニクヅク、メース	Nutmeg, Mace
ナデシコ		Nadeshiko
ナメコ		Nameko
ナラタケ		Naratake
ナンテン		Nanten
ニアウリ		Ti-tree
ニューサンキンバイヨウエキ	乳酸菌培養液	Cultured lactic acid bacteria
ニレ	エルム	Elm
ニンジン	キャロット	Carrot
ニンニク	ガーリック	Garlic
ネズミモチ		Nezumimochi
ネットル	イラクサ	Nettle
ネムノキ		Nemunoki, Silk tree
ノットグラス	ニワヤナギ	Knotgrass
ノリ	海苔	Nori, Laver
パイオレット	スミレ	Violet
パイナップル		Pineapple
ハイビスカス	ローゼル	Hibiscus, Roselle
麦芽	モルト	Malt
ハコベ		Hakobe, Common chickweed
バシクルモン		Basikurumon
バジル	メボウキ	Basil
ハス		Lotus
ハスカップ		Hasukappu
パースニップ	アメリカボウフウ	Parsnip
パセリ	オランダゼリ	Parsley
バター		Butter
バターオイル		Butter oil
バターミルク		Butter milk
バーチ	カバノキ	Birch
ハチミツ	ハネー	Honey
パチュリー	パチョリ	Patchouli
ハッカ		Corn-mint, Japanese mint
バックビーン		Buckbeans
ハッコウシュ	発酵酒	Fermented alcoholic beverages
ハッコウニュウ	発酵乳	Fermented milk
ハッコウミエキ	発酵味液	Fermented seasoning solution
パッションフルーツ	クダモノトケイソウ	Passion fruit
ハツタケ		Hatsutake
バッファローベリー		Buffaloberry
ハトムギ		Job's tears
ハナスゲ		Hanasuge
バナナ		Banana
バニラ	ワニラ	Vanilla
ハネーサックル	スイカズラ	Honeysuckle
パパイヤ		Papaya
バーベリー	メギ	Barberry
ハマゴウ		Hamago
ハマスゲ		Hamasuge
ハマナス		Hamanasu, Rugosa rose
ハマボウフウ		Hamabofu
ハマメリス		Winter bloom
バラ	ローズ	Rose
パルマローザ		Palmarosa

基原物質名	別 名	備 考
パンダナ		Pandanus
バンレイシ	シャカトウ	Sugar apple, Sweet sop
ヒキオコシ		Hikiokoshi
ヒシ		Hishi, Water chestnut
ピスタチオ		Pistachio
ヒソップ	ヤナギハッカ	Hyssop
ヒッコリー		Hickory
ピーナッツ	ラッカセイ	Peanut
ヒノキ		Hinoki
ヒバ		Hiba
ピプシシワ		Common popsissewa
ヒマワリ		Sunflower
ヒメハギ		Himehagi
ヒヤシンス		Hyacinth
ヒョドリバナ		Eupatorium
ヒラタケ		Hiratake
ビワ		Biwa, Loquat
ピンピネラ		Burnet
ビンロウ		Areca nut, Betel nut
フェイジョア		Feijoa, Pineapple guava
フェネグreek	コロハ	Fenugreek
フェネル	ショウウイキョウ	Fennel
フジバカマ		Fujibakama
フジモドキ		Fujimodoki
フスマ		Bran
フーゼル油		Fusel oil
プチグレイン		Petitgrain
ブチュ	ブッコ	Buchu
ブドウ	グレープ	Grape
ブドウサケカス	ブドウ酒粕	Wine lees
フトモモ		Rose apple
ブナ		Beech
ブナハリタケ		Bunaharitake
ブラックキャラウェイ	ニジェラ	Black caraway, Nigella
ブラックベリー		Blackberry
プラム	スモモ	Plum
ブリオニア		Bryonia
ブリクリーアッシュ	アメリカサンショウ	Prickly ash
プリムローズ	サクラソウ	Primrose
プルネラ	ウツボグサ	Prunella, Self-heal
ブルーベリー		Blueberry
ブレッドフルーツ	パンノキ	Breadfruit
ヘイ		Hay
ベイ		Bay
ヘーゼルナッツ	ハシバミ	Hazelnut
ヘザー	ヒース	Heather
ベチバー	ベチベルソウ	Vetiver
ベétel	キンマ	Betel
ベニノキ		Annatto
ベニバナ	サフラワー	Safflower
ベニーロイヤル	メグサハッカ	Pennyroyal
ペパーミント	セイヨウハッカ	Peppermint
ヘビ		Snake
ペピーノ		Pépino
ペプトン		Peptone
ペリトリー		Pellitory
ベルガモット		Bergamot
ベルガモットミント		Bergamot mint
ペルーバルサム		Peru balsam
ベルベナ	バーベナ、ベルベイン	Verbena, Vervain
ベロニカ		Veronica
ベンゾイン	安息香	Benzoin
ヘンナ		Henna
ボアドローズ	ローズウッド	Rosewood
ホアハウンド	ニガハッカ	Hoarhound
ハウ		Haw
ハウキタケ		Houkitake
ハウショウ	芳樟	Houshou
ボウフウ		Saposhnikovia root
ホイ		Whey
ホオノキ		Honoki

基原物質名	別 名	備 考
ホースミント	ヤグルマハッカ	Horsemint
ホースラディッシュ	セイヨウワサビ、ワサビダイコン	Horseradish
ボタン		Moutan bark
ホップ		Hop
ポピー		Poppy
ポプラ		Poplar
ポポー		Papaw
ホホバ		Jojoba
ホヤ		Sea squirt
ボルドー		Boldo
ボロニア		Boronia
マイタケ		Maitake
マグウォルト		Mugwort
マシュマロー	ウスベニタチアオイ	Marshmallow
マジョラム	マヨラナ	Marjoram
マスティック		Mastic
マソイ		Massoi
マタタビ		Matatabi, Silver vine
マチコ		Matico
マツ	パイン	Pine
マツオウジ		Matsuoji
マッシュルーム		Mushroom
マツタケ		Matsutake
マツブサ		Matusbusa
マツホド		Matsuhodo
マテチャ	マテ	Mate tea
マメ		Beans
マリーゴールド		Marigold
マルバダイオウ	食用ダイオウ	Garden rhubarb, Edible rhubarb
マルメロ	クインス	Quince
マレイン		Mullein
マロー	ゼニアオイ	Mallow
マンゴー		Mango
マンゴスチン		Mangosteen
マンナノキ		Manna ash
ミカン		Mikan
ミシマサイコ		Mishimasaiko
ミソ	味噌	Miso, Soybean paste
ミツマタ		Mitsumata
ミツロウ	オウロウ、 ビースワックス、 ベースワックス	Bees wax
ミート	肉	Meat
ミモザ		Mimosa
ミョウガ		Myoga
ミルク		Milk
ミルテ		Myrtle
ミルフォイル	セイヨウノコギリソウ	Milfoil
ミルラ	没薬	Myrrh
ミロバラン		Myrobalan
ムカゴニンジン	スキレット	Skirret
ムギチャ	ムギ茶	Roasted barley
ムスク		Musk
ムラサキ		Murasaki, Gromwell
メスキート		Mesquite
メドウスイート	シモツケソウ	Meadowsweet
メハジキ		Mehajiki
メープル	サトウカエデ	Maple
メリッサ	バーム	Melissa, Balm
メリロット		Melilot
メロン		Melon
モウセンゴケ		Sundew
モニリアバイヨウエキ	モニリア培養液	Cultured Moniliaceae solution
モミノキ	ファー	Fir
モモ	ピーチ	Peach
モロヘイヤ		Jew's mallow
ヤクチ		Yakuchi
ヤドリギ		Mistletoe
ヤマブシタケ		Yamabushi take
ヤマモモ		Chinese bayberry
ユーカリ		Eucalyptus
ユキノシタ		Yukinoshita

基原物質名	別 名	備 考
ユズ		Yuzu
ユッカ		Yucca
ユリ	リリー	Lily
ヨウサイ	葉菜	Leaf vegetables
ヨロイザク		Yoroigusa
ライオンズフート		Lion's foot
ライチ		Litchi
ライフエバーラスティングフラワー		Life-everlasting flower
ライム		Lime
ライラック	リラ	Lilac
ラカンカ		Rakanka, Lo han kuo
ラカンショウ		Long-leaved podocarp
ラズベリー		Raspberry
ラタニア		Rhatany
ラディッシュ	ハツカダイコン	Radish
ラブダナム	システ	Labdanum, Ciste
ラベンダー		Lavender
ラングウォルト		Lungwort
ラングモス		Lungmoss
ランブータン		Ramboutan
リキュール		Liqueur
リーク		Leek
リツェア	タイワンヤマクロモジ	Litsea
リナロエ		Linaloe
リュウガン		Longan
リュウゼツラン		Century plant
リョウフンソウ		Ryofunso
リョクチャ	緑茶	Green tea
リンゴ	アップル	Apple
リンデン	ボダイジュ	Linden
リンドウ		Gentian
ルー	ヘンルーダ	Rue
ルリジサ		Borage
レセダ	モクセイソウ	Reseda
レモン		Lemon
レモングラス		Lemongrass
レンギョウ		Rengyo
レンゲ		Renge
レンブ		Wax jambu, Mankil
ローズマリー	マンネンロウ	Rosemary
ロベージ		Lovage
ローレル	ゲッケイジュ	Laurel
ロンゴザ		Longose
ワサビ		Wasabi
ワスレナグサ		Forger me not, Mouse ears
ワタフジウツギ		Watafujiutsugi
ワームウッド	ニガヨモギ	Wormwood
ワームシード		Wormseed
ワラビ		Warabi, Eagle fern
ワレモコウ		Waremoko, Garden burnet

別添3

一般に食品として飲食に供されている物であって
添加物として使用される品目リスト

品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
名 称	別 名				
アカキャベツ色素	ムラサキキャベツ色素	アカキャベツ アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	アブラナ科キャベツ (<i>Brassica oleracea</i> LINNE var. <i>capitata</i> DC.) の赤い葉 (赤キャベツ、紫キャベツ) より、室温時弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニンアシルグリコシドである。赤色～紫赤色を呈する。	着色料	Red cabbage colour
アカゴメ色素		アカゴメ アントシアニン アントシアニン色素	イネ科イネ (<i>Oryza sativa</i> LINNE) の赤い種子 (赤米) より、温時水、弱酸性水溶液又は含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はシアニン-3-グルコシド等である。赤色を呈する。	着色料	Red rice colour
アカダイコン色素		アカダイコン アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	アブラナ科ダイコン (<i>Raphanus sativus</i> LINNE) の赤紫の根 (赤ダイコン) より、室温時水、弱酸性水溶液又は含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素はベラルゴニンアシルグリコシドである。	着色料	Red radish colour
アズキ色素		アズキ	マメ科アズキ (<i>Azuki angularis</i> OHWI) の種子より水で抽出して得られたもの、又はこれを乾燥したものである。赤色を呈する。	着色料	Azuki colour
アマチャ抽出物	アマチャエキス	アマチャ	ユキノシタ科アマチャ (<i>Hydrangea macrophylla</i> SER. var. <i>thunbergii</i> MAKINO) の葉より、水で抽出して得られたものである。甘味成分はフィロズルシンである。	甘味料	Amacha extract Hydrangea leaves extract.
イカスミ色素		イカ墨	コウイカ科モンゴウイカ (<i>Sepia officinalis</i> LINNAEUS) 等の墨袋の内容物を水洗いしたものより、弱酸性含水エタノール及び含水エタノールで洗浄し、乾燥したものである。主色素はユーメラニンである。黒色を呈する。	着色料	Sepia colour
ウグイスカグラ色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	スイカズラ科クロミノウグイスカグラ (<i>Lonicera caerulea</i> LINNE var. <i>emphyllocalyx</i> NAKAI) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Uguisukagura colour
ウコン	ターメリック			着色料	Turmeric
エタノール	エチルアルコール	アルコール 酒精	デンプン、糖蜜を原料とし、糖化、発酵後、蒸留して得られたものである。成分は専売法による発酵アルコールである。	製造用剤	Ethanol
エルダーベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	スイカズラ科エルダーベリー (<i>Sambucus caerulea</i> RAFIN., <i>Sambucus canadensis</i> LINNE, <i>Sambucus nigra</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水若しくは酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素は、シアニングリコシド、デルフィニングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Elderberry colour
オクラ抽出物			アオイ科オクラ (<i>Abelmoschus esculentus</i> MOENCH) のさやより、水で抽出して得られた粘質物である。	増粘安定剤	Okra extract
オリーブ茶			モクセイ科オリーブ (<i>Olea europaea</i> LINNE) の葉より、茶と同様の製法により製したものである。	着色料 苦味料等	Olive tea
海藻セルロース		セルロース	海藻を、乾燥、粉砕して得られたセルロースである。	増粘安定剤	Seaweed cellulose
カウベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ツツジ科コケモモ (<i>Vaccinium Vitis-Idaea</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はシアニングリコシド及びデルフィニングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Cowberry colour
果汁	フルーツジュース	着色料	着色料	着色料	Fruit juice
ウグイスカグラ果汁	ウグイスカグラジュース				Uguisukagura juice
エルダーベリー果汁	エルダーベリージュース				Elderberry juice
オレンジ果汁	オレンジジュース				Orange juice
カウベリー果汁	カウベリージュース				Cowberry juice
グースベリー果汁	グースベリージュース				Gooseberry juice
クランベリー果汁	クランベリージュース				Cranberry juice
サーモンベリー果汁	サーモンベリージュース				Salmonberry juice

品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
名 称	別 名				
ストロベリー果汁	ストロベリージュース				Strawberry juice
ダークスイートチェリー果汁	ダークスイートチェリージュース				Dark sweet cherry juice
チェリー果汁	チェリージュース				Cherry juice
チンブルベリー果汁	スィムブルベリージュース				Thimbleberry juice
デュベリー果汁	デュベリージュース				Dewberry juice
パイナップル果汁	パイナップルジュース				Pineapple juice
ハクルベリー果汁	ハクルベリージュース				Huckleberry juice
ブドウ果汁	ブドウジュース、グレープ果汁、グレープジュース				Grape juice
ブラックカーラント果汁	ブラックカーラントジュース				Black currant juice
ブラックベリー果汁	ブラックベリージュース				Blackberry juice
プラム果汁	プラムジュース				Plum juice
ブルーベリー果汁	ブルーベリージュース				Blueberry juice
ベリー果汁	ベリージュース				Berry juice
ボイセンベリー果汁	ボイセンベリージュース				Boysenberry juice
ホワートルベリー果汁	ホワートルベリージュース				Whortleberry juice
マルベリー果汁	マルベリージュース				Mulberry juice
モレロチェリー果汁	モレロチェリージュース				Morello cherry juice
ラズベリー果汁	ラズベリージュース				Raspberry juice
レッドカーラント果汁	レッドカーラントジュース				Red currant juice
レモン果汁	レモンジュース				Lemon juice
ローガンベリー果汁	ローガンベリージュース				Loganberry juice
カゼイン	酸カゼイン	乳たん白	牛乳又は脱脂乳より、酸処理による沈殿によって得られたタンパク質である。	製造用剤	Casein
褐藻抽出物	褐藻粘質物		アラメ、オキナワモズク、コンブ又はワカメより、水で抽出して得られたものである。成分はポリウロン酸及び硫酸多糖である。	増粘安定剤	Kelp extract
カンゾウ末		カンゾウ	マメ科ウラルカンゾウ (<i>Glycyrrhiza uralensis</i> FISCHER)、マメ科チョウカカンゾウ (<i>Glycyrrhiza inflata</i> BATALIN) 又は、マメ科ヨウカンゾウ (<i>Glycyrrhiza glabra</i> LINNE) の根茎を粉砕したものである。甘味成分はグリチルリチン酸である。	甘味料	Powdered licorice
寒天				製造用剤	Agar
ゲーズベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ユキノシタ科ゲーズベリー (<i>Ribes grossularia</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Gooseberry colour
クランベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ツツジ科クランベリー (<i>Oxycoccus macrocarpus</i> PERS.) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はシアニングリコシド、ペラルゴニジングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Cranberry colour
グルテン				増粘安定剤	Gluten
グルテン分解物				増粘安定剤	Gluten decomposites
クロレラ抽出液		クロレラエキス	緑藻類クロレラ (<i>Chlorella</i>) を、熱湯水で抽出後、濃縮、精製して得られたものである。	調味料 製造用剤	Chlorella extract
クロレラ末			緑藻類クロレラ (<i>Chlorella</i>) を、乾燥し、粉末化したものである。	着色料	Powdered chlorella
ココア	ココアパウダー			着色料	Cocoa
小麦粉				製造用剤	Wheat flour

品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
名 称	別 名				
コムギ抽出物			イネ科コムギ (<i>Triticum aestivum</i> LINNE) の種子(玄麦)を、ばい煎後、熱湯水で抽出して得られたものである。	製造用剤	Wheat extract
コラーゲン				製造用剤	Collagen
コンニャクイモ抽出物	グルコマンナン		サトイモ科コンニャク (<i>Amorphophallus konjac</i>) の根茎を、乾燥、粉砕後、含水エタノールで洗浄して得られたもの、又はこれを冷時～温湯水で抽出して得られたもので、グルコースとマンノースで構成される多糖類からなる。	増粘安定剤 製造用剤	Konjac extract
サツマイモセルロース		セルロース	ヒルガオ科サツマイモ (<i>Ipomoea batatas</i> POIR.) の塊根より得られたものである。主成分はセルロースである。	製造用剤 増粘安定剤	Sweetpotato cellulose
サフラン				着色料	Saffron
サフラン色素		カロチノイド カロチノイド色素 カロテノイド カロテノイド色素 クロシン サフラン	アヤメ科サフラン (<i>Crocus sativus</i> LINNE) の雄蕊頭より、エタノールで抽出して得られたものである。主色素は、カロテノイド系のクロシン、クロセチンである。黄色を呈する。	着色料	Saffron colour
サーモンベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科サーモンベリー (<i>Rubus spectabilis</i> PURSH.) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Salmonberry colour
シソ色素		アントシアニン アントシアニン色素 野菜色素	シソ科シソ (<i>Perilla frutescens</i> BRITT. var. <i>acuta</i> KUDO) の葉より、室温湯水、弱酸性水溶液又は含水エタノールで抽出して得られたものである。主色素は、シソニン、マロニルシソニンである。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Beefsteak plant colour Perilla colour
ストロベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科オランダイチゴ (<i>Fragaria ananassa</i> DUCHESNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素は、シアニジングリコシド、ペラルゴニジングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Strawberry colour
ゼラチン				製造用剤	Gelatin
ダイズ多糖類	ダイズヘミセルロース		マメ科ダイズ (<i>Glycine max</i> MERRILL) の種子から得られた多糖類である。主成分はヘミセルロースである。	製造用剤 増粘安定剤	Soybean polysaccharides
ダイダイ抽出物			ミカン科ダイダイ (<i>Citrus aurantium</i> LINNE) の果皮より、エタノールで抽出して得られたものである。主成分はリモニンである。	苦味料等	Daidai extract
ダークスイートチェリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 チェリー色素	バラ科セイヨウミザクラ (<i>Prunus avium</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は室温湯～温湯水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Dark sweet cherry colour
チェリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素	バラ科カラミザクラ (<i>Prunus pauciflora</i> BUNGE) の果実より、搾汁したもの、又は室温湯～温湯水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジングリコシドである。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Cherry colour
チコリ色素		チコリ 野菜色素	キク科キクニガナ (<i>Cichorium intybus</i> LINNE) の根をばい煎したものより、温湯水で抽出して得られたものである。黄褐色を呈する。	着色料	Chicory colour
茶		抹茶		着色料	Tea
チンブルベリー色素	スィムブルベリー色素	アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科クロミキイチゴ (<i>Robus occidentalis</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Thimbleberry colour
デューベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科オオナワシロイチゴ (<i>Rubus caesius</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	European dewberry colour
トウモロコシセルロース	コーンセルロース	セルロース	イネ科トウモロコシ (<i>Zea mays</i> LINNE) の種皮から得られたものである。主成分はセルロース、ヘミセルロース及びリグニンである。	製造用剤	Corn cellulose
ナタデココ	醸造セルロース 発酵セルロース	セルロース		増粘安定剤 製造用剤	Fermentation-derived cellulose

品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
名 称	別 名				
乳酸菌濃縮物		乳酸菌	乳酸菌を培養した後、集菌、濃縮し、凍結又は乾燥したものである。	酵素	Lactic acid bacteria concentrates
ノリ色素	海苔色素		ウシケノリ科アマノリ (<i>Porphyra tenera</i> KUJELLM.) の葉より、温時水又は弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はフィコエリトリンである。桃色～赤色を呈する。	着色料	Laver colour
ハイビスカス色素	ローゼル色素	アントシアニン アントシアニン色素 ローゼル	アオイ科ローゼル (<i>Hibiscus sabdariffa</i> LINNE) の花弁及び萼部より、室温時水で抽出して得られたものである。主色素はデルフィニジン-3-サンプビオシド等である。赤色～紫赤色を呈する。	着色料	Hibiscus colour
麦芽抽出物	麦芽エキス	モルトエキス	イネ科オオムギ (<i>Hordeum vulgare</i> LINNE) の麦芽又はこれを焙煎したものを室温時～温時水で抽出して得られたものである。	着色料	Malt extract
ハクルベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ツツジ科ブラックハクルベリー (<i>Gaylussacia baccata</i> C. KOCH.) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Black huckleberry colour
パプリカ粉末				着色料	Paprika
ブドウ果汁色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ブドウ色素	ブドウ科アメリカブドウ (<i>Vitis Labrusca</i> LINNE) 又はブドウ科ブドウ (<i>Vitis vinifera</i> LINNE) の果実より、搾汁し、沈殿を除去して得られたものである。主色素はマルビジン-3-グルコシド等である。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Grape juice colour
ブラックカーラント色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ユキノシタ科クロフサスグリ (<i>Ribes nigrum</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はデルフィニジン-3-ルチノシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	Black currant colour
ブラックベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科ヨーロッパブラックベリー (<i>Rubus fruticosus</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	Black berry colour
プラム色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素	バラ科プラム (<i>Prunus domestica</i> LINNE) の果実より、エタノールで抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Plum colour
ブルーベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ツツジ科ハイブッシュブルーベリー (<i>Vaccinium corymbosum</i> LINNE) 又はツツジ科ローズヒートブルーベリー (<i>Vaccinium angustifolium</i> AIT.) の果実より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はアントシアニンである。赤色～青色を呈する。	着色料	Blueberry colour
ボイセンベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科エゾイチゴ (<i>Rubus strigosus</i> MICHX.) の果実より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	American red raspberry colour Boysenberry colour
ホエイソルト	乳清ミネラル ホエイミネラル		乳清 (チーズホエイ) より、乳清タンパクと乳糖を分離除去し、精製して得られたものである。成分は、カリウム、カルシウム、ナトリウム等の塩類である。	調味料	Whey salt Whey mineral
ホップ抽出物	ホップエキス	ホップ		苦味料等	Hop extract
ホワートルベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素 ビルベリー色素	ツツジ科ホワートルベリー (<i>Vaccinium myrtillus</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、水若しくはエタノールで抽出して得られたもの、又は室温時メタノールで抽出し、溶媒を除去したものである。主色素はマルビジン-3-グルコシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	Whortleberry colour
マルベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	クワ科ブラックマルベリー (<i>Morus nigra</i> LINNE) 又はクワ科ホワイトマルベリー (<i>Morus alba</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	Mulberry colour
マンナン				増粘安定剤	Mannan
モレロチェリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 チェリー色素	バラ科モレロチェリー (<i>Prunus cerasus</i> LINNE var. <i>austera</i> LINNE) の果実より、室温時～温時エタノールで抽出して得られたものである。主色素はシアニジン-3-グルコシド等である。赤色～赤紫色を呈する。	着色料	Morello cherry colour
野菜ジュース	ベジタブルジュース			着色料	Vegetable juice

品 名		簡略名又は類別名	基原・製法・本質	用 途	備 考
名 称	別 名				
アカキャベツジュース アカビートジュース シソジュース タマネギジュース トマトジュース ニンジンジュース					Red cabbage juice Beet red juice Beefsteak plant juice Onion juice Tomato juice Carrot juice
ヨモギ抽出物			キク科ヨモギ (<i>Artemisia princeps</i> PAMPAN.) の茎又は葉より、水又はエタノールで抽出して得られたものである。主成分はカフェタンニン及び精油類である。	苦味料等	Mugwort extract
ラズベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科セイヨウキイチゴ (<i>Rubus idaeus</i> LINNE) の果実より、搾汁したもの、又は室温時～微温時水若しくは弱酸性水溶液で抽出して得られたものである。主色素はシアニジングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Raspberry colour
卵白				製造用剤	Egg white
レッドカーラント色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	ユキノシタ科アカスグリ (<i>Ribes sativum</i> SYME.) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素は、ペラルゴニンガラクトシド、ベチュニンガラクトシド等である。赤色～青色を呈する。	着色料	Red currant colour
レンネットカゼイン		カゼイン 乳たん白		増粘安定剤	Rennet casein
ローガンベリー色素		アントシアニン アントシアニン色素 果実色素 ベリー色素	バラ科ローガンベリー (<i>Rubus loganobaccus</i> BAILEY) の果実より、搾汁したもの、又は水で抽出して得られたものである。主色素はシアニジングリコシドである。赤色～青色を呈する。	着色料	Loganberry colour